

利益でないことを覺つたならば、その態度を改むることは明白である。

日本が昨年英國ブロックから輸入した金額は四億七百萬圓であつて、日本から輸出した金額は三億八千五百萬圓で二千二百萬圓は買越してゐる。その内重なるものは印度棉花と濠洲羊毛である。

現在は、日本は眞剣に不買は出来ないと思つてゐるから驚かないが、愈々不買實行と知れ渡つたならば日本を敵として勝味のない戦ひを續けるほどに英人は利害に超然たり得ない。況んや日印綿布問題の如きその真相を知つたならば、敢然として妥協し來るべきは當然の道行である。要は日本は嚴然たる態度を以て力の問題として争ふべき固き決心を有するや否やに存するのである。

然し尙ほこれを悟らず、飽くまで抗争し來らば、日本は困るかといふにこれ又心配はないのである。この場合に處しては更に鋒を執つて、英國及びその屬領の堅陣を衝くことである。

英國は彼の屬領を自由に支配し居るが如き様子を裝ふてゐるが、中々世の中は自由にはならない。印度だけでも穴は幾らでもある。現に印度の南錫蘭島と印度の西カッチ島とは一割八分の關稅を嚴守して英國の命令に従はない。この日本は後日、暹羅、ネパール、アフガニスタン、ベルシャ、カッチ、錫蘭その他印度の外部に日本綿布を積上げてみせしめをなすであらう。又、濠洲が羊毛で立つてゐるのは日本の影ではないか。

それ故に綿布が英國から買はれなければ、羊毛の不買を國策として行ふべきである。代用の羊毛は南米に求め得る。僅かにメリノの供給には不便であるが、メリノは主としてモスリンの原料であるから代用品には困らない。濠洲が近年少々日本綿布を買ふのは、この消息を傳へてゐると思はれるのである。

亞弗利加に於ても英領は悉く關稅を引上げてはゐるが、チンヤ、ウガンダ、タンガニカ、コンゴ盆地の協約があつて、英國の特惠を受くることは出来ない。關稅は上つても日本綿布は尙進出し得る。又亞弗利加内にも領地あり、中米、南米又然りて日本綿布進出の餘地は尠くないのである。

日本綿布が印度から追はれたならば、愈々問題だと考へるのは、自らその力を頼まないものであつて今日その心配はないのである。最近に歐洲列國を相手として斷然リードする力を日本は有つてゐることを記憶すべきである。但し日本が工業力を世界的たらしめる要圖としては、今後日本は工業よりも海外貿易の獎勵を國策とすべきことを擧げざるを得ないのである。この點に關する英國政府の便宜は非常なものであつて、日本とは到底比較にならないものである。

#### 第四節 英印關係

更に穿つた議論を紹介する。即ち英國はその領土を守る權利があるから、關稅を課するのである。日本が彼これ干渉することは出来ない。言はゞ先様の勝手と云へる。これに對する日本の立場は、安

價良質の綿布を世界の隅々に行渡らせる所の人類幸福の平和施設である。これに高率の關稅を課するのはその國の物價を高めることとなる。購買力の低い民族に、英國の様な高價な衣類を供給して、日本品を排斥するのは平和事業の反逆者であつて人道上許すべきでない。關稅を高めるならば高めて見るがよい。

英國は英領を自由に支配すると思ふのは認識不足で、英領各地は既に反英熱に満されてゐるではないか。水は低きにつくが、無理に押へたならば地下より噴出する。英帝國經濟ブロックの強化は餘りに利己的ではないか。彼が屬領に對し、餘りに多き犠牲を求め、飽く處を知らなかつたならば英帝國は震撼するであらう。

米國がその昔獨立したのは、高率關稅の結果ではなかつたか。人類生活の必需品たる綿布の如きは成るべく安價に、未開國に供給し、その文化を援けるのが先進文明國に課せられた義務ではないか。文明の假面を被つて、永久に殖民地を犠牲たらしむるならば、大英帝國は遂に崩壊せざるを得なくなるであらう。

殊に英國綿業は、今はたゞ形骸を存するのみであつて、精神的には既に亡びてゐる。英國は戦後思想的に侵略された亡國の民であつて最早や資本主義の世界から隱退したも同様ではないか。働らかないことを本義として産業は存立する例はない。七割八割といふ高率のハンディキャップを貰はなければ

ば立行かないといふ英國綿業の存立は有害無益である。

世界の人類は英國のために生れたのではない。産業の目的とする處は人類幸福の増進にある。産業の自由主義、通商主義の本義は茲に生れたのである。今の英國人は彼等の祖先が始めたこの自由主義を守り得ずして急角度の保護政策の蔭に隠れるくらゐ無力であるならば、深く綿業を廢して、悠悠餘生を送るがよろしい。

英國には世界にあり餘る遺産がある。今後百年や二百年食つて行けるのである。それ故に各屬領を解放せよ、不徹底な自治領を止めて完全な獨立國に仕上げ年金をとつて遊ぶに限る。文明そのものも歐洲人に運命づけられてゐるのではない。遠い昔は東洋の文明がリードしてゐた。そろ／＼お鉢を東洋に譲つてはどうか。

以上は著者としては徹底的な議論でないにしても、英國の傍若無人その極に達するならば斯様に卒直なる議論も出るのである。



## 第一章 英國政界の諸相

### 第一節 政局と人物

今日の如く英國に人物が拂底したことは、この四十年以來にないことである。國王陛下と皇太子殿下を除き奉れば、——陛下と殿下は危機に臨み一再ならず、眞正の指導を與へられた——國民が心から指導者として渴仰する人物は英國政界に一人もない。彼の最後の元老政治家グレイ卿も近く薨去してその後を襲ひて穩健老實、醇々として説く人物は彼等に無い。而も國民全體としては堅實なる勸告を與ふるものあれば、進んでこれを容れ、これを實行せんとする覺悟があるのであつて、その健全なる心情の厚きは、吾人が未だ曾て経験せざるところである。

指導者の可能性を有する人、或はさう自任してゐる人達は居らないではない。その先頭にあるのは國民内閣の總理大臣ラムゼー・マクドナルドであるが、過ぐる十三箇月間に、彼に對する國民の信頼が、如何に微妙に又如何に速かに凋落したか、恐らく彼は氣づいてゐまい。彼が引續き現職にある譯は、全くその辭職に依つて政治上に一騒動が起るさうな事情があるからだ。その地位に對して何か即近の

脅威があると自覚したならば、彼は飽くまでその椅子を固守して、頑強に防禦することであらう。然し皇室に対する遵奉心は既に稀薄になりつゝある。それ故國民一般の精神は不徹底である。一九三一年秋の總選挙當時に發露されたあの深き信頼を持つた忠誠心ではない。保守黨首領スタンレー・ポールドウインがある。彼は今尙ほその黨員に對して、何人よりも權力を振つてゐるけれども、彼には自己悔悔の癖がある。而してその政治上の言動に、何となく悠々閑々たる風があるから、若き保守黨の面々は之を齒痒しとし、人心は自づと去る。

ポールドウインが保守黨の總理を罷めさせられた場合、その後繼者たるべきは、大蔵大臣のホワイル・チエムパーレンだ。正直な、美しい考への明瞭な、精勵家であるが、彼は尊敬は受くるけれども、熱狂を呼ぶ方の質でない。國民の大體はチエムパーレンの名は知つてゐるが、人物として彼を迎へてはゐない。若き蘇格蘭人ウォルター・エリオット少佐、現に農務漁業大臣であるが、多くの人々は彼こそ未來の大人物とは見ぬまでも、尠くも未來の一人物と思つてゐる。彼は腕があり、野心もある、而してその年輩同僚の多くと違つて、磁力も持合せてゐる。が、彼の言及びその所爲には偉いと捺印すべきものは見られない。

ウインストン・チャーチルは、今一息で偉いと云ふところまで漕ぎつけたことは、一度ならずあつたが、近來は政界のリーダーとしてよりも、文筆の人として推賞されてゐる。彼には未來があるかも知れない。

知れない。彼に未來なしと云ふのは輕率だ。何人と雖も彼に就ては無關心では居れない。筆を取つては必らず讀ませる、口を開けば必ず聽かせる。が大なる國民の信頼は最早や有しない。彼は餘りにダイハートだ。餘りに活躍的で常軌外れだ。多くの人は口にくそ出さないが、彼には餘りに多くの「ウインストン・チャーチル」があり過ぎると思つてゐる。(譯註—自惚れが過ぎるとの意味ならん。)

ロイド・ジョージだけは、先づ別として、眞實に國民的指導者として待たるゝ人は、自由黨の名士中には居らない。サー・ハーバート・サミュエルとサー・アーチボルド・シンクレアは大いに尊敬は受けてゐるが、この人達でも又ウォルター・ランツマンにしても、人の想像力を燃え立たせ、心臓を高鳴りさせる所の靈火がないやうだ。世間では第二流人物の一級ぐらゐに見てゐる。彼等は内側が少々冷たく、國民の骨の髄まで躍らせるやうな、快心の所作や、偉大な考へには不向の方である。

ロイド・ジョージはその存命する限り、繪の中から取り外す譯には往かない。若し人民直接投票に依つて、國民的指導者を選ぶとせば、彼は恐らく一割以上の得票はなからう。けれども國中幾百萬の人々はこんな風に思つてゐる。——「彼は吾々を引張つて切り抜けさせてくれるかも知れないぞ」。昨年のことであつたが著者はロイド・ジョージが失業問題について演説し、議會を電化し固唾を呑ませたのを傍聴した。その光景は全く大戦當時を偲ばしめた。が議員の十分の九は彼の政敵である。彼の半ばは「L. G. はもうおしまひだ」と思ひ、又おしまひになつてくれればよいと願つてゐるの

である。で、議員の大部分は彼の演説に心を奪はれたことをば、内心頗る恥ぢてゐたのであつた。それ故、著者は議會がロイド・ジョージの演説に心を奪はれたる旨を放送を聴き、ひどく驚いたことがある。戦争直後、彼が一個の大指導者にあらずして、一個の政治的術策者となつたのを著者の如く一貫してロイド・ジョージを批評した著者は英國にはゐないだらう。彼がその辭世歌を歌ふてしまふまでは、彼を以て英國政界に於ける見當のつかぬ勢力——而もそれが決定的勢力であることもあらう——として視なければならぬ。と著者はさう考へてゐる一人である。

世間の噂や私語に多く上る一人が残つてゐる。それは蔵相の異母弟サー・オースチン・チエムバーレンである。彼は一九二四年から二十九年まで、保守黨内閣の外務大臣であつた。一九二八年に彼が健康を損じてから、特に一九三一年の國民内閣で除けものにされてから、多くの人々は彼をば用済み的人物と見做して、その弟を未來の首相に擬した。ウインストン・チャーチルは自分が國民内閣から除外されたことをば、決して赦しも忘れもしない様子だが、これと違つてオースチン・チエムバーレンは、威厳を保つて忍び、事困難の場合には、政府を支持した。然し苟も國家の重要問題であつて、政府の方針に黙従するのが、政治家の義務に背くやうな場合には、彼は友誼的な意見や批評を加へたのである。斯くして彼は除々に現議會を傾聴せしむるに至つたが、大臣中、彼の如くに議會の傾聴を得たものはない。ヒトラー主義の危険、獨逸に於ける猶太人の迫害並に獨逸の秘密再軍備に關する彼

の率直にして殆んど憤慨的とも云ふ演説は、彼の大なる勢力をば更に増進した。社會改革問題に就てすら、彼の演説には熱と生氣が溢れたのであつて、人々をして乃父ジョセフ・チエムバーレンの衣鉢を襲ふはこの人にあらずやと思はしむるに至つた。フロント・ベンチを占むる英國公人中で、國民内閣總理大臣たるラムゼー・マクドナルドの後繼者として非難なく、又國民的多数をば黨派のために濫用すとの疑惑を生じないやうな保守黨政治家は、たゞサー・オースチン・チエムバーレン一人あるのみである。

労働黨の政客に就ては著者は一言もしないが、それはリーダーシップとしての素質を有するものが彼等の中に一人もゐないからである。又國民には再び労働黨内閣の出現を許すやうな氣配がないからである。

サー・オスワルド・モズレー及びその「黒シャツ」組の滑稽な運動も、同じ理由で書かずともよからう。獨逸にヒトラー主義が現はれてから、黒にせよ褐にせよ、「シャツ運動」に對する熱は、輕薄な青年輩の間でさへ冷却して、「英國はムツソリーニを要す」など、叫ぶものは今や一人もゐない。ロザミア及びビーツブルック兩卿の如き無責任な新聞富豪は、ムツソリーニの名に依つて人を惑はさんとしたけれども、もうその迷霧も一掃されてしまつた。それでもまだ伊太利のファシズムと獨逸のヒトラーリズムとは違ふなど、區別立てをするものもあるが、それは一つは今までに唱へた議論をば忘れ

てゐるからで、又一つには今更獨逸の有様に驚き入つてゐるからだ。伊太利人にはフアシストの鞭を以て訓練を加ふるは至極結構であると考へてゐた人達も、獨逸人——即ち多くの點に於て英人に似てゐる獨逸人——が、政治的並に個人的の自由を剝奪されて、オースチン・チエムバーレン氏が云へる如く舊プロレア帝國主義の最悪なものに、蠻性と、民族的ブライドと、排他主義とを加味したものを展開し、純粹ノルデックの血統以外の市民には、同じ國民でありながら平等の權利と市民權を認めないやうな、さうした排他主義を發揮するのを見ては、如何にもそれが獨逸人に不似合であると考へ出し、又前言の手前、幾分狼狽の氣味があるのである。或はヒトラー主義の過激性を以て、ムツソリーニのせいに歸することは出来ないにしても、彼が個人的自由縮減の手本を見せたと云ふ感じは免れない。

この感じは頗る強い。即ち労働組合會議の總理事會は曩に強硬なる宣言を發表して、一般的には獨裁政治に反對し、特に英國市民自由の保持に賛成した。この宣言は曾ては半ボルシェヴィキ思想を懷いてゐたものが、自由主義に立戻つた徵候だと云ふので、各方面から歓迎せられた。然し労働組合理事會や労働黨が全體として、一九三一年八月以前の地位を恢復するには前途未だ遠しである。選挙民大衆が労働黨の人々に向つて、大膽なる指導や建設的識見を求むるやうな徵候は、まだ毫も見えない。

然し、國民は大膽なる指導と建設的識見とを求めてゐる。唯その二つが何れより来るかは全然未知なのである。近來英國の貿易及び經濟状態が改善されたから、これが續けば國民も暫くは待つてゐるであらう。更にその間に今の關係等をば、無言の裁判の天秤にかけて、靜かにその重さを秤つて行くことであらう。既にラムゼー・マクドナルドは秤量済であつて、重さ不足と決まつたが、スタンレー・ボールドウインは此の點まだ判然としてゐない。

ラムゼー・マクドナルドの家系には何のミスタリーもない。それは直接關係者の間には熟知の事實であつて、敢て説明するまでもないのである。彼の父はマクドナルドと呼ぶ労働者であつた。つまりマクドナルド族中の賤しい一員だ。スタンレー・ボールドウインの母方の祖父も、矢張りマクドナルド姓で、有名なるウエスレー派の牧師であつた。故に母系からすれば、ボールドウインはマクドナルド族の同族を名乗り得る譯だ。彼は骨髄までイングリッシュユのやうだけれども、彼には高地スコットランド人の氣質が強い。その母系の祖父は、一七四五年に Prince Carlie 軍に従ひ、スチユアト一家に忠義であつたために譴刑に處せられたことがある。ボールドウインは初めの議會演説中で斯う云ふてゐる。「私は幼少の頃樂隊が "God save the king" を奏する時、起立するのに甚だ困つたことがあつたのを記憶する、それは英國には勤王黨の國王でなくして、ハノーヴァー家の國王があつたからである」と。

ラムゼー・マクドナルドがかうした歴史的の困難に備えられたやうなことは、その傳記の上には現れてゐない。彼は若くして社會黨の人となり、一九〇〇年には労働黨の幹事であつた。これに反してポールドウインはハロウ及ビケムブリツヂに學び、卒業後直ちにその父の鑄造業に入り、又その父に次いで一九〇八年に西ウースターシア選出の保守黨議員となつた。

戦前議會に於けるポールドウインは寡黙を以て知らるゝ外、特に目立たなかつた。故にボンナ・ロウ氏が彼を議會秘書官に採つたのは J. C. C. Dardson と云ふ若しスコットランド人の推薦に依るが、起用の唯一理由は、ポールドウインは謹直だから安全だらうし、「のろし—Stupid—」から陰謀はやるまいと云ふのであつた。これは一九一六年の事だ。翌年又もデヴィドソンの推薦にて、ポールドウインをば大蔵省次官 (Financial Secretary to the treasury) だから普通の意味の次官ではないが)として閣員の地位を與へんとする時、ボンナ・ロウはポールドウインには荷が勝つたと考へたが、不承々々承知したのであつた。ポールドウインが指導者たるべき第一歩をば、無意の間に踏み出したのは、實にこの次官時代であつた。即ち平和條約調印の數週前——一九一九年六月二十三日に彼が F. S. T の署名を以てタイムスに投書したのである。

その投書の趣意は次のようであつた。——戦争の濫費のために財政状態は重大であるが、人々は愚者の天國に棲息しつゝあることを悟らない。愚者の天國は即ち愚者が地獄へ往く門だ。國を愛するこ

とは金錢を愛するより尊いことである。然し國民にこれを教へるに實踐躬行は、以て實地の模範を示す外はない。富裕階級は宜しく又とはなきこの機會に於て、國のために奉公すべきだ。即ち富裕者は公債消却のために自身にて任意的資本徴收をなすべきである。斯くすれば一箇年五千萬磅の國庫負擔を軽減し得られる。自分の財産は約五十八萬磅と計算するが、その二割を處分し、即ち十二萬磅を以て軍事公債十五萬磅を買入れ、消却のためにこの公債を政府に献上することに決めた。

實にこれは如何にもポールドウインらしい遣口であつた。彼は自己悔悔、人知れぬ模範の力を信じた。このタイムスの投書家 F. S. T の何人なるかは、數年間、著者と極く僅かな人々しか知つてゐるものはなかつたのである。彼はその理想主義よりして自分の實例の力を過大に見、又富裕階級特に戦争で儲けた人々の公共心を過大に見たが、かう云ふ風に個人的確信に依つて實行し、その結果を判断し損ふ癖は、彼の特性でもある。(彼の批評家はポールドウインの對米戰債解決を以て、この性癖に歸するが、それは不當である)。ポールドウインは公債消却のために十億磅の献金を望んだが、献金は僅かの五十萬磅に過ぎなかつた。そして一九二〇年代の中頃に於てポールドウイン氏自身が財的に窮したのである。彼は一九二三年總理大臣となつたが、一九二九にその職を退くや、その持てる財の僅々二十分の一を餘すのみであつた。

若しポールドウインが保守黨員として立たなかつたならば、彼は社會主義の色々な點に好意を持つ



模範的自由黨員であつたであらう。若しラムゼー・マクドナルドが貧賤に生れなかつたならば彼は傳統的貴族的生活觀に對してロマンチックな傾向を持つ偉大な保守黨員であつたかも知れない。二人は斯うした傾向がある。そして蘇格蘭ハイランドの血統をば同情の連鎖として双方から歩み寄り、彼等の間に堅き友誼が生れた。一九三一年八月第一次國民内閣組織の大分以前であつたが、ポールドウインはマクドナルド内閣に入るを嬉しく思ひ、又マクドナルド自身労働黨内閣の總理大臣であるよりも、ポールドウイン内閣が出来て、その一員となる方を遙かに幸福と思ふであらうと云ふ話があつた。が、兩人を結び自由黨首サー・ハーバート・サミュエルと共に、國民内閣を組織させた機勢は、マクドナルドからもポールドウインからも發したのではない。その機勢は國王から來たのだ。

第一次國民内閣は殆んど舉國一致の後援の下にその仕事をした。國民内閣は非常な節約を行ひ、官吏の減俸をなし、失業救済金を切り詰めたから、次の總選挙に於ては選挙民の反對を受くべしと豫想した人達は、全く英人氣質を知らないものであつた。國民は考へた——人氣取りのためならば、やらなかつたに相違ない。必要だから已むを得ずしてやつたのだ。必要でやつたからには、政府の措置を支持するのが當然だと。二年後の總選挙に於て國民内閣が壓倒的勝利を得た理由は、實に選挙民が斯うした考へを持ち、又無責任な獨裁的の労働組合會議及びその傀儡たる労働黨に向つて、一大教訓を與へんと欲したことである。

然し危機の絶頂を経過すると共に指導振りは鈍つた。妄辯なき人達は云ふのであつた——ポールドウインは一九二四年——二九年の保守黨内閣首相として、その不決斷を怠慢態度に依り、自分の内閣ですら零となるに終つた、次の労働黨政府に於けるマクドナルドはその多辯であり、又明瞭なる思考と硬行とを厭ふがために、労働黨内閣で零に近いものとなつてしまつた所の、國民内閣に列したところで、零を二つ寄せても一單位をなさない、一單位をなさないのであるから、マクドナルド、ポールドウインの結合は、一〇〇パーセントのリーダーシップを與へ得ないのであると。

全くこの嘲弄には痛い點がある。マクドナルドを雄辯を信じ、事が紛糾すると自身で飛出して、不準備な國際會議を信じ、その原則をば明敏なる眼で見えてこれを固持することをせずして、その他の代案に信を置いた。そのために二年前に彼が有せし威望と信頼とは、全部と云はざるまでもその大半を失つてしまつた。又ポールドウインはどうしても押しの強いことは嫌ひな性分であつて、その實直な思想と高尚な感情をば、美辭麗句の演説に織り込めばそれで本當に何事をか爲し得たこと、信じ、猛進を勤めるものをば頑強に一切撃退してしまふ。故にその輩下ですら、公益のために果して彼に忠實であらぬばならぬか否かを疑ふやうになつた。

國民内閣に對しては、一層大きなリーダーシップが囑望されてゐたのであつたが、色々な理由で彼等は此の期待に背いた。先づその保護貿易手段は廣く是認せられ、疑ひなく經濟狀態の改善を助けた。

ネヴィル・チエムバーレンの財政處理は健全にして、大蔵大臣としての信用を博した。併し乍ら閣員の全體、若くはその内の活動的な少数者にも、彼の主意を知つてゐる様子もなく、或は建設的想像を以てその活動を眺めてゐるやうな印象すらも我々に與へないのである。

英國外交政策の不得要領なるについて、全部の咎を外務大臣サー・ジョン・サイモンに持ち込むのは不當であらう。彼は卓抜なる法律家であつて、上院の一員が批評した如く、訴訟要領書なしでは丸きり駄目だ。總理大臣、ボールドウィン氏及び内閣は、當然彼にこの要領書を授くべき責任があつた。併し乍ら彼等はこれを授けなかつたのである。滿洲事變に就ても、リットン報告の取扱ひについても、軍縮會議についても、或は四國協約にまで漕ぎつけたあの亂雜千萬なその場思案の交渉連續についても、將た又たヒトラー主義を前にしても、内閣は又閣員の一人と雖も、國民の聲と認めらるべき發言はしなかつた。漂流の政策、その日その日流儀の政策、拱手して事の起るを待ち、事が起れば驚き慌てるだけの政策、時機の前髪を搔む用意のない政策、これが内閣の先見と活力との合計のやうだ。漠然だが併し悲しげに、これではならないと國民は感じ初めた。

これ即ち國民が今や指導者を模索しつつある所以だ。たゞラムゼー・マクドナルドが罷めたときでは何にもならない。それはボールドウィンが果して指導に適し又その力があるかゞ不明だからである。現議會に於ける多数は國民黨であつて、又その大多数は保守黨だ。然しこの多数をば變形して政

黨内閣の道具に使はんには、國民は決して長く黙つては居るまい。解散と總選舉は遁れないところであらう。保守黨の見地としては解散こそ、最善の途かも知れない。何故なれば保守黨は數年間やつて行くだけの多数を取る見込があると思ふからだ。が、解散を強ひるのは、危険を冒すものである。國民は政黨内閣と區別して、まだ國民内閣なるものを信じてゐる。故に黨派の目的のために現状を利用せんと企つるものあらば、國民はこれを責めずにはおかない。若し自由黨に強きリーダーがあれば、彼はこれ等の勢力をば糾合して、自ら現在の國民的感情の眞代表となり得るだらうが、まださうしたリーダーはない。

斯くして漂流は續く。それが短いか長いかは事情次第である。近くも遠くも將來がどうなるかは豫言の限りではない。たゞ一事だけは確かだ。即ち保守黨は五年間、無事で政權を取つてゐたに拘らず非常に強き反感を招いて、一九二九年の總選舉にて、再び労働内閣を成立せしめた。若し國民内閣にしてこの覆轍を踏まざらんと欲せば、宜しく奮發興起して、國民に向ひ、從來よりも遙かに動的なる指導を與へなければならぬ。

## 第二節 保守主義と自由主義

保守黨衆議院議員の大多数は、首領に對し忠誠である。何故ならば彼等はボールドウィンが彼等の

首領であると同時に黨の財産であることを知つてゐるからである。彼等は國民が過去二年に亘つて行はれた財政上の變革を承認したと云ふよりも、寧ろ黙諾してゐるが、然し政黨の主要なる政綱に對しては、ほんの少しの興味しか持つてゐないことを十分に知つてゐる。何時でもさうであるやうに、國民の間に於ける、際立つた考へは、國家の干渉を嫌ふと云ふことである。近代の保守主義は、エリオット農相の五箇年計畫に依つて示されてゐる如く、それが英國國民を惹き附けるには密接なる社會主義と結び附いてゐる。そして自由の喪失に對する極めて鮮明な恐怖は、政黨の首領が政治的腐敗に導びくと思はれるやうな如何なる政策をも否認することを信ずる、彼等の本能的な信念と關聯してゐる。簡単に云へばポールドウインは信頼されてゐるのである。そして他の知名の政治家は疑ひの眼を以て見られてゐるのである。

そればかりではない。自由黨は徒らに投票をあさるために、自分の持つてゐた凡ゆる主義を全然放棄してしまつたので、その結果として國民から輕蔑されてゐるのであるが、然し眞實の自由主義はそれとは反對に却つて優勢になつた。しかもポールドウインその人は、一度完全なデモクラシーが存在するやうになれば、自由主義と保守主義との衝突がなくなることを、並びに保守主義は自由主義への踏み石に過ぎないことを知つてゐる極めて少數の政治家の一人であるかに見える。

### 第三節 保守黨と勞働黨

今年の十月上旬には、多くの興味ある二つの政治的會合があつた。その一つはヘスチングスに於ける勞働黨の大會であり、もう一つはパーミンガムに於ける保守黨のそれであつた。これ等の兩政黨の大會に關しては、何れの政黨大會の代表者も、皆現在我國民の直面しつゝある政治問題の如何なるものであるかを認識してゐない、と云ふことを理由としてそれを非難することは容易なことである。然し、さうした非難はある程度までは當つてゐない。と云ふのは、元來、政黨の會合は、主としてその政黨自身の利害に關することを取扱ふのであつて、國民の利害に關することはどうしても第二位に置かれるからである。ところで今回は双方とも、自分こそ黨をリードするに適してゐると自任してゐる人々に依り、首領に對する攻撃が露骨に、しかも可なりの長時間に亘つて行はれた。著者は何等政黨に關係のないオツザーアとして、永い間、何故政黨が毎年自分達のお祭に際して、公衆の面前に於て、汚れた着物などを洗濯するのであらうかと驚いてゐる。今回の保守黨及び勞働黨の大會は、殊に著者の驚きを大にしたのである。

保守黨の首領に對する執拗な攻撃は何であるかと云ふに、首領自身は口にこそ出さないが、政黨の首領と云ふのは約束に反してはならないものである、と云ふ考へを持つてゐるので、それに對して向

けられた攻撃のやうに見える。マルクドナルド首相が現在の如く依然として要職についてゐることが出来るのは、ポールドウインが自分の名譽にかけて首相を支持してゐるためであることは、政界の事情を知つてゐるものゝ齊しく認めてゐる事實である。一九三一年に保守黨が船を捕獲した時、彼等の首領は船長（マクドナルドを指す）の命を助け、そして船長自身、近くの港へ船を着けると云ふ希望を表明しない限り、航海中は彼をそのまま、船長にして置くことを許したのである。斯様にして英國に於ては名義上の首相と、事實上の首相とが出来たのであるが、これは吾々が憲法上の臨機應變の措置に對して才能を持つてゐることを立證するものであつて、吾々自身の誇りとするところである。つまり二人の首相を要求したのは國家の危機にあつたからであつて、而もそれは敏速に實行され、何等の支障なしにうまく行つてゐるのである。

然し、さうしたシステムを成功をさせるには、政治的に異常の誠意を必要とする。著者は一九三二年の英國の某誌上に、ポールドウインが「國民」内閣と云ふ思想に對して、如何に忠實であるかを述べた事があるが、パーミンガムの保守黨大會は、黨員は屢々彼等の首領を、船の上から海の中へ投げ込まんとする場面を見せた。然し、さうした計畫は、先きに失敗した凡ゆる同種の計畫と同じい運命に遭つた。思ふに將來も又、凡ゆる同一の計畫は恐らく失敗に終るであらう。

若し前に述べたことを以て矛盾だと思ふ人があるならば、さう云ふ人は二政黨の根本主義に就て篤

と考察されるが好いであらう。デモクラシーがそれ自身の腐敗に依つて滅びることは事實である。さうした腐敗は、國民の經濟生活から政治を分離せしめることに依つてのみ防止することが出来るのであるが、經驗は國家が商工業に干渉する場合、民主的な黨を保持することの不可能であることを示してゐる。若し帝國産業協會や全國製造業組合のやうな團體が政治に關與し始めたならば、政治に關する保守黨の思想、即ち適任者をして政治を行はせると云ふ思想は實行不可能となるであらう。

現在の英國憲法は非常にデモクラチックである。自由の目的の一つは、これに依つて完全に達成されたのである。然し自由黨そのものは既に死んでをり、それは自己のリーダーに依つて殺されたのである。而して現在保守黨がその任務とするところは議員の向上をはかることに依つて憲法を擁護することであるが、この目的を達成するに就ては、保守黨としては自由黨が逃げて行く時に棄て、行つた貴重なる手荷物を拾はなければならない。即ち保守黨の理想主義、これに自由黨の實際的常識を結合せしめ、斯様にして現在のデモクラチックな憲法を擁護することはポールドウインに依つてのみ成し得られる仕事である。

然し、さうした仕事の如何に骨の折れるかは、パーミンガムに於ける保守黨の大會に依つて明かに示されたのである。何等かの理由に依り、黨内に於て重要な地位に就てゐない人々が何時までも日備の如き立場に在るよりも、寧ろ黨の分裂を用意してゐることは大會に於て明かに立證された。然し著

者は彼等を非難しやうとは考へてゐない。何故なれば、それは多くの場合、自己が認められないことに對する一つの反動であるからである。現に三政黨は何れも新進の政治家とその黨内から失つたのであるが、その結果、彼等は頻りに自己の護衛兵を作することに努めたり、若くは猛烈と自家廣告をするやうになる。

パーミンガム大會に於て重要な問題になつたことは、ボールドウィンが保守黨の首領として社會主義と社會主義に依る獨裁政治を廢し、眞實の自由主義者をして安心して保守黨に加入せしめるやうな政策を執り、それに依つて今後も引續いて保守黨をリードして行くことが出来るであらうかと云ふことであつた。大會に於ける各代表の投票の結果は、それが首領の立場を脅かすと云ふ程ではなかつたが、然し保守黨の地方支部が可なりの不満を持つてゐることは明かに示されたのである。然し、それ等の地方團體の多くは、保守黨側の一般の選舉人よりも、遙かに知識程度の低い階級に依つて往々支配されてゐることを記憶しなければならない。

又ウインストン・チャーチルは印度の將來に對し、思慮のある人々の持つてゐる重大な心配を利用して、保守黨を分裂させようとしたが、この計畫は失敗に終つた。彼は年の若い黨員に向つて呼びかけたが、彼等はチャーチルその人の過去の政治的レコードを知つてゐるため、彼等を引きつけることが出来なかつた。彼は或る人々をして彼等の首領に對して不忠誠ならしめることに成功したに過ぎなかつた。

パーミンガムの保守黨大會に於て、ロイド卿 (Lord Lloyd) が國防問題に關して力説したことは、聊か時期遅れの憾ありとは云へ、兎に角國民の輿論を喚起し、又政府をして國防計畫を遂行することに役立つたであらう。英國の國防問題に關する政策は、一九二一年以來部分的に繼續してゐる。それは、當時に於て、尠くとも今後十年間は戦争がない、と云ふ假定の下に、重大なる危険を冒して、さう云ふ計畫を立てたのである。然しこの十年間に於ける歐洲大陸の情勢から見て、この政策が極めて危険なものであつたことは明かに證明されたのである。今や英國は軍備縮小に關する破れた約束に拘泥せず、相當の程度までの安全を確保するに必要な措置を採らなければならない立場に立つてゐるのである。

英國人の輿論は自然とゼネツの常套語から解放されて來た。凡ゆる侵略的國民が武裝をするのに、凡ゆる平和的國民が軍備を縮小するならば、到底戦争は避けることは出来ない、多くの人が考へるやうになつた。つまり今日は英國が適當なる武力を持たない限り、歐洲の平和を維持することは不可能であると、云ふ考への下に立つて行動すべき時代なのである。

著者は保守黨の大會に關して、この外に何か重要な問題を探し出さうと試みたのであるが、それは困難なことであつた。政黨の内部に於ける紛擾や、官職に就くことの出来ない人々が失望の餘り、そ

の首領を攻撃すると云つたやうなことは、ごく些細なことであるが、然し現在の場合に於て、若しさうした人々の計畫が成功したならば、それは政黨にとつて重大な問題となるであらう。若し、昔アテナの市民がアリストタイデス (Aristides) を追放したやうに、ポールドウインが排斥されたならば、保守黨は忽にして分裂し、聯立内閣は崩壊し、そして總選舉は恐らく社會黨内閣 (労働黨内閣) に依つて行はれたであらう。

次に労働黨のヘミングス大會だが、この大會に於ける主要なる出来事は、不平組の一人サース・クリップス (Sirs. Clippes) が、早く云へば、彼自身を除くの外、凡ゆる權威を廢止せんことを要求し銀行の國營や資本の社會化を主張したことであつた。彼は若し自由と富を自分の手に持つやうになつたならば、自分と意見を異にする人々に自分と同一の意見を持たせることが出来ると信じてゐるのである。勿論、英國の資本家は、彼の意見に賛成してゐない。又彼自身彼を評價する程には彼を評價してゐない。それ故に彼は資本家の解消を要求し、労働組合の政治的勢力を利用して思ふ存分にやつて見やうと云ふのである。

然し、労働組合のリーダー達は、クリップスの主張に對して一向に熱心を示さなかつた。彼等は、資本の沒收は資本の破壊であり、銀行の國營は、云はゞ銀行の利益を沒收するのと同義であることを知つてゐる。早い話がクリップスが人氣を取るために、銀行の利益を使用すると云つたやうな場

合に、預金者がそれを承知の上で、銀行に金を預けて置くなど云ふことは有り得ないことである。クリップスの一黨が貴族院を廢止し (註) クリップスは労働黨の左翼として、貴族院の廢止と、社會主義者の獨裁政治を要求してゐる) 衆議院の權力をデクレーターの手に移す前に、預金者は必ず銀行から預金を出すに違ひない。一體、資本と云ふものは、それを運用して儲けるところの價值のあるもので、儲けないならば何等の價值もない。従つてクリップスの云ふやうに、消費の目的に資本を使ふならば、それは自動的に價值のないものになり、資本としての價值を失つてしまふであらう。

#### 第四節 政治思想の分野

レーニンの認めた如く、社會主義とデモクラシーとは、こう云ふ理由に依つて到底兩立することは出来ないのである。故に、若し英國に於て社會黨の内閣が成立したならば、國家の經濟的並びに政治的組織は必然的に寡頭政治になるであらう。そしてクリップスやワイズ (Wise) 等は英國の獨裁政治家として、資本主義とデモクラシーの破壊に努めるであらう。

然し最近の歴史は、さうした過程に依つて超資本家になり澄ました社會黨の政治家が、その實行に際しては手段の緩和に努めるに至つたことを示してゐる。ロシアに於てこそ理論通りに遂行されてゐるが、その他の歐洲諸國に於ては、各國には既に他の要因が活動してゐる。社會主義の政治が經濟的

混亂を引き起した結果、社會主義者の競争者が政治舞臺に現はれて來た。若しそれ等の競争者にしてより大膽であり、より武装されて居り、そしてより勇敢であるならば、社會主義者は勢ひ彼等に向つて政權を引き渡すの餘儀なきに至るであらう。これは英國に於ても、恐らくその通りであるに違ひない。

以上、著者はこの論説に於て、英國政黨の大會から酒を搾り出さうと試みたが、獲たものは酒でなく酔であつた。併し讀者はさうした結果に接しても、決して驚かれるやうなことはないに違ひない。そこで著者は今筆を止むるに先き立ち、現在英國人の前に横はつてゐる他の二つの仕事に就て意見を述べるであらう。

今や文明世界は混亂の深淵に沈まんとしつゝある。多くの人々は、人類はその全盛期を過ぎた結果として、再び獸類になるのではないかと思つてゐる。歐洲に於ても、米國に於ても、極東に於ても、人間の精神は、だん／＼變化して獸類的精神となり、それが群衆精神の位置を占めつゝある。斯様にしてボルシエヰイズムは、迅速に、然し沈黙の間に世界を征服した。多くの人々は、ローマ教會こそボルシエヰイズムの侵入を阻止することが出来るだらう、と考へてゐたが、ローマ教會はそれを成すことは出来なかつた。

どの國も、どの國も、經濟的不安に脅かされてゐる。而して、その結果、人はパンに依つて生くる

ものであると考へるやうになつた。十分に腹のふくれることに比較すれば、自由などは小問題である。どうせ明日は死ぬのだから、食つて飲んで、面白く可笑しく暮さうではないか、と彼等は云ふのである。斯様にして永い間かゝつて、漸くオリンパスの神殿の入口にたどり附いた人間は、それ以上更に努力をしようとするでもなく、恰も異教徒の如く、最早や希望さへも持つてゐないやうである。

英國人は他の國民以上に、さうした世界的の病氣と世界的の疲勞に抵抗して來たと云つて云へないことはない。併し英國でさへも、さうした時代精神にかぶれ、その結果心理的並びに精神的沈滞を來さんとする危険を有してゐる。今までは他の國民よりも英國人はより多く精神的衛生を保つてゐた。然し理想の實現に比較すれば、生命の如きは問題でないと云ふ風に人をして感ぜしめることが出来ないならば、英國人の常識も政治的經驗も、最早世人を救ふことは出来ないと云ふことが明かになつた。

大膽に云へば、文明は信仰を持つてゐないために死にかゝつてゐるのである。これは彼等の惱みの根本的原因であつて、このことは英國に於ても臆げながら認められてゐる。吾々は凡ゆる方面、特に青年、科學者、産業界の指導者及び軍人などが最も強く宗教を要求しつゝあることを聞く。そして新時代の若者達は、何れもそれを待望してゐるやうだが、そのことが、何かしら重大な、そして善いことゝが起るであらうことを吾人に感じさせる。

英國の政治的制度を保存するにしても、自己犠牲の必要であることは、多くの人々の信じてゐると

ころである。しかも自己犠牲の精神は靈魂の不滅を信ずるもので、初めて成すことが出来るのである。若し英國が、支配者として國民に奉仕するためには富も、功名心も、その他世界の要求する凡ゆるものを悦んで投げ出すやうな人間を作ることが出来なかつたならば、そのデモクラシーも他の多くの國々に於けると同様滅亡の運命を辿るであらう。

吾人は希望に生くべきである。著者が新聞紙上で政黨の大會に關する詰らない報道を読んだ後も、若くは黒シャツを着て意氣揚々と街の中を歩いてゐる青年達と行き會つた後も、十分に生存して行くだけの強さを持つてゐるのである。新しい時代の人々は、現代の迷信と非合理主義が去つた後、黎明の光を見るであらう。斯様にして英國に一つの信仰が起つた時こそして、その力に依つて世界の人類が悪から救はれるやうになるであらうと信ずるのである。

## 第二章 英國の軍力

### 第一節 海軍第一主義と陸軍

海上勢力と云ふことは單に船艦や海軍々人だけの問題でなく、國家の環境國民の意思並びに巧みに海洋を利用することに依つて得られる政治的經濟的及び社會的利益を感得する本能の問題である。

併し乍ら或る人々は、稍もすると海上勢力を以て、或は軍艦のことを云ふのであらうと考へ、或は商船を指すものであると考へる。然し吾々はその中の一つを以て他に對する補助的のものであると思つてはならない。若し或る種類の船舶、即ち軍艦が無視されるならば、英國が所有する他の種類の船舶、即ち商船は、現在のやうな世界的情勢の下に於いては到底消滅の外はないであらう。將來のことを眼につけてゐる人々は、軍艦などは、如何なる事情の下に於ても、商船を保護するために必要でなくなる時代が來ると思ふであらう。然し世界人の多くは歐洲戰爭當時、食料店の前に列を作り順番の來るのを待つてゐた人々の群と、食糧切符及びその他の制限に就ての記憶を未だに有してゐるのである。



英國民はウインチェスター (Winchester) の本通り街外れにあるアルフレッド大王 (八七一年—九〇一年) の像の前を通る毎に、又丁度ホワイトホール (Whitehall) にある戦死者の記念塔の前を通る時のやうに、脱帽せざるを得ないのだ。實にアルフレッド大王こそ海軍力に依つてなし得る奇蹟を發見した人であつた。當時英國は、地中海にある優勢なる敵國の壓迫するところとなり、まさに外國の屬國たらんとする運命にあつたのである。アルフレッド大王は陸上に於ては、海上に於て敵の侵入に挑戦し、且つ敵を撃退し得ることを知つてゐた。彼はこの原則を適用して英國の海軍を建設した。その結果、英國人は國家の存在を保持することが出來たのである。大王は述べた「若し海軍にして我國を繞ぐるところの海洋を完全に支配しないならば、吾々は陸上に於て生活の安定を得ることは出來ない」と。

艦隊の保護の下に於ける英國の建設は永い間の仕事であつた。何故ならば海洋に關する國民の自覺は成長の遅い樹のやうなものであつたからである。海は外國の干涉に對して英國人の自由を保護する防禦物になつたのであつたが、それはエリザベス女皇の時代に至つて漸く花が開いたのであつた。シーレー教授 (Professor Seely) の云つたやうに「エリザベス女皇の晩年に於いても、英國は歐洲以外に於いては絶対に領土を持つてゐなかつた。ヘンリー三世時代に於けるホーア (Hore) からエリザベス時代に於けるギルバート (Gilbert) 並びにローレー (Raleigh) に至るまで、凡ゆる移住計畫は悉く

失敗したからである。而してその當時はグレート・ブリテンはまだ存在してゐなかつた。(註一) グレートブリテンと稱したのはイングランドのスコットランド併合後である。スコットランドは別の王國であつたし、又アイルランドに於いてはイングランドは異人種の中にある一つの植民地でしかなかつた。(註一) アイルランドに於けるイングランド人の移住は北部のアイルランドに限られてゐた。」

併し乍ら英國人はエリザベス女皇 (一五五八年—一六〇三年) が位に即いた時から海軍の種子が蒔かれた。而してその種子は思想と言論と、行動の自由に於てそれ自身の表現を發見したのであつた。エリザベス時代の英國人は、遠距離にある外國との貿易に依つて利益を獲得すると同時に、彼等自身の創造したところのリベラルな移植をなし得ることを知つてゐた。

さうした英國の建設時代に於いて確定されたのは、海は陸を統制すると云ふ眞理であつた。ローレーの云つたやうに「何人も海を支配するものは貿易を支配する。何人も世界の貿易を支配するものは世界の富と、その當然の結果として世界そのものを支配する。」と。

思ふに英國の學校に於て使用されてゐる歴史の教科書は書き直す必要がある。英國の古代史に於ける重要な事件は英國の土民と英國に侵入したローマ人との戦争でなく、英國の海岸に上陸するに際しローマ人が何等の抵抗をも受けなかつたことである。併し乍らこの事に關しては歴史家は殆んど何事

も、若くは全然史實をも國民に語つてゐないのである。

その後更に三百年の間、英國の歴史を支配したのはウィリアム征服王（一〇六六年—一〇八七年）（William the Conqueror）の無抵抗上陸であつた。英國海峡が侵入者の手に依つて保有されてゐる限り、英國は忽ちにして一つの植民地になつてしまつたであらう。

無敵艦隊の全滅に至るまでの數世紀間に起つた決定的の事件は、陸上の戦争でなく海上に於ける決戦であつた。英國の歴史上に於ける凡ゆる危機は海が陸を統制することを立證してゐる。

獨逸語は科學の言葉であり、佛蘭西語は外交の言葉であり、英語は海軍の言葉である。倫敦に開かれる國際船舶會議は世界各国から代表者が参列し、議事は總て英語に依つて行はれるが、それである通譯の必要はない。それに又、英國の倫敦は全世界に於ける海上保険の市場であり、ロイドのレヂスターには英國船と外國船の總てが登録されてゐる。又外國人は海軍に關する爭議を解決するのに、自國の裁判所へ訴へずに、わざ／＼英國へ來て英國の海軍裁判所の判決を要求する。さう云ふ工合に、英國は海上の事に關して優越を持つてゐるのであるが、これはエリザベス時代の海員の働きとその成功に由來するのである。新様にして英國は十七世紀に至り、この方面に於て大なる進歩をなしたのである。然し英國が徹底的に海軍力に關する原則を咀嚼したのは次の世紀であつた。

當時、英國の發展は世界に於ける一つの大きな救濟的勢力であつた。海洋の自由に關する戦ひは、

ナポレオンの敗北した前世紀の初年に至つてクライマックスに達した。英國人でない或る一人の歴史家はトラファルガーの海戦を評して次のやうに云つた。「約十年間歐洲を孤立せしめたところの戦争の間に於いて、到る處歐洲を席捲した佛國軍隊のその當るべからざる勢力に對して不斷に音のない壓迫が行はれたのであるが、それは傍觀者にとつて最も恐るべき顯著なる海軍力のマークとなつた」と。

比較的最近まで、英國人は陸軍は文治的勢力を阻止すると云ふ理由に依り、疑ひの眼を以てそれを觀てゐたが、海軍に對しては好感を以て迎へてゐた。さうした、國民的感情は、近年に至るまで國家の政策に反映してゐた。即ち英國國民の祖先は陸軍を以て防禦的勢力として、所謂同一の場合、海軍力の延長としてのみ使用すべきものと見做してゐたのである。

歐洲戦争の時まで、英國は嘗つて大なる軍隊を持たうとはしなかつた。ウルフ（Wolfe）が加奈陀を征服した時、チャール・サンドリス提督（Admiral sir Charles Saunders）が英國から輸送して行つた軍隊は將校と兵士を合せて僅かに九十人以下であつた。ウェリントンが指揮した軍隊ですら、今日では旅團長の指揮の下に置かれる位の勢力でしかなかつた。英國の軍隊は度々歐洲大陸で戦争したけれども、その兵數は何時でも少なかつた。

強い海軍を持つ英國は、同盟國に財政的援助を與へることに依つて、その軍事的勢力を補充することを常としてゐた。そして共同の目的が達成されれば、戦争などは全部拋棄したのであつた。英國が

戦争に際して外國軍隊の援助を得た一二の例を挙げると、ウエリントンの勝利はポルトガルに始まつてウオターローに終つたのであるが、その間彼の指揮の下にあつた英國軍隊は、決して大部隊ではなかつた。即ちポルトガル遠征の時は僅かに三萬人の軍隊に過ぎなかつた。ヴィットリア(Victoria)の戦争に際し、ウエリントンの指揮した軍隊は總數十萬人であつたが、然し Mont, St. Jean で戦つた六萬人の兵士のうち、三分の一だけが英國の軍隊であつた。ウオターローでは獨逸、和蘭並びに白耳義の軍隊が總數の三分の二を占めてゐた。

英國は建國以來、常に少量の軍隊を維持して來た。十八世紀になつても、英國の軍隊は十萬人に達したことはなく、時には二萬人以下のこともあつた。ナポレオン戦争中は二十四萬五千人に達し、又クラミア戦争の當時は、超人的勢力で、大にこれを擴張したが、それでさへ二十二萬二千八百七十二人に過ぎなかつた。

## 第二節 英帝國の惱み

併し乍ら、歐洲戦争に於て、英國は各方面の戦線に約一千萬の軍隊を送つたのである。英國の聯合國であつた佛蘭西と露西亞は英國艦隊の援助を得てゐたのであるから、容易に中歐諸國を撃破し得たはずであるが、それが失敗に終つた結果、英國は傳統的な海軍政策を離れ、同盟國救済のため大軍を

起すに至つたのである。しかも英國は海軍力と陸軍力とを供給するだけでなく、同盟國に對して軍費を貸したのであつて、その結果國民は今日のやうな苦しみを受けてゐるのである。加ふるに彼等は軍需品と、食糧と、原料とを商船に搭載して彼等に供給したのである。

過去十四年間、經濟學者と政治家とは、戦後に於ける苦悶の原因に就て國民に説明したが、その説明は悉く間違つてゐる。國民は天の命令に依り、廣大なる財政的勢力を持つところの海軍國となつてゐたに拘らず、歐洲戦争に際して大なる陸軍國となり、大なる軍需品製造國となつたために、さうした苦しみを受けてゐるのである。國民は餘りに緊張し過ぎた。その結果いまだに平癒しないのである。

彼等が子供の時に、その祖先が歐洲を救済したことに驚いたのであるが、それと同じく後世の人々は、歐洲戦争に際し、英國が世界に於ける第二位の最も有力な獨逸艦隊に對し、それに二倍する勢力を持つた艦隊を有してゐるばかりでなく、巨大なる軍隊を組織し、同盟國に對して多額の軍費を貸付け、食糧を供給し、英國を擧げて一大軍需工場に變化せしめた此の努力に對して敬意を拂ふであらう。斯様に英國は人力と、金力と、精神とを傾倒して戦つたのである。而して、その結果は永い間の病氣となつたのである。それ故今や英本國は漸く回復に向つて來たが、英帝國全體としては前より寧ろ悪くなつてゐるのである。

英帝國の建設と結合とは海軍國としての最大の勝利である。若し西班牙無敵艦隊の全滅を以て英國が自己の生存權を主張したものであると云ふことが出来るならば、ナポレオン戦争に於ける佛蘭西及びその同盟國の敗北は、丁度英國民が生存する如く、他の國民も又各々自分の土地に於て生存せんことを望んでゐる、と云ふことを世界に通告したものと云ふことが出来るであらう。

或る佛蘭西人は云つた。「ウオターローの戦争者はネルソンの船であつた」と。ウオターローの時から、英國はその以前に於ける如何なる帝國とも異つた線に沿ふて英帝國を建設し、擴張し、結合しつゝあつたのである。英帝國は海から靈感を得たところの島國人に依つて建設された帝國である。それは地球上に於ける陸地の約四分の一と、約五億の人口とを抱擁してゐる。しかもその中の六千五百萬だけが英國人で、その他はその土地に生れた人間である。そして英國は印度に於いてさへも、約六萬五千人から成る軍隊しか持つてゐない。印度はロシアを除いた以外の歐洲よりも大きな國で、三億以上の人口を持つてゐるにも拘らず現在の状態である。

英帝國の政治家並びに海軍々人として活動したコロンボ提督は、嘗て海軍國としての英帝國に就いて左の如く述べた。

「英帝國は大きな神経系統を持つものであつて、心臓と肺臓と腦髓とは英本國に在り、そして印度、濠洲、北米並びに王領植民地は、それに向つて滋養を供給する大きな領土である。」

「英帝國の血液はさうした機關を通じて流れてゐるのである。主要なる動脈は、東は地中海及び黃海を経て印度支那及び濠洲に至り、西は亞弗利加及び西印度に達し、南は濠洲、南亞弗利加及び太平洋に及んでゐる。この巨大な機關は自己の生存に必要な凡ゆるものを攝取し、主要な機關を通じてこれを分配する。」

「英帝國の生命は一本の線に依つてつながつてゐる。この活きた機關の、夫々の部分は、相互關係を持つてゐるのであるが、その關係に對しては極めて敏感である。心臓に一撃を加へられると、それは忽ち死ぬかも知れないが、然しそれは遠方にある動脈がとまつたとか、若くは中樞神経がきづつてゐる場合のやうに、實際に死ぬことはあるまい。」

英國は島國人として到る處に英國々旗を立てたばかりでなく、同時に英國がそれによつて發展して行くところの政治上の主義を打ち建てたのである。それは制限された君主政治(立憲君主政治)の下に於けるデモクラシーと稱せられるものである。不幸にして君主政治は餘りに制限され、デモクラシーは餘りに制限されてゐない。然し兎も角もデモクラチックな支配は、自治領の持つ完全な自由から、進化の過程にある植民地並びに保護國に至るまで、英帝國を通じて行はれてゐる。この自由は英國が海から感得したものであつて、英國は凡ゆる國民的經驗の中、最大且つ最も有望な自由に對し、英國の共同者と共に益々密接にそれに参加してゐるのである。

英國海軍の特徴は、それが決して支配的でもなく利己的でもないことにある。英國は世界と共にその利益に與かることを望んでゐる。併し乍ら歴史家達は、英國の海軍が世界に於て行使した有益な勢力を低く評價してゐる。

米國のマハン提督は死ぬ一二年前に、フィリッピン獲得以後に於ける米國の政策を論じ、高級なる文明は低級の文明に對し、漸進的な、併し不斷のプロセスに依つて衝擊を與へるものであると云ひ、更にその議論を押し進めて左の如く云つた。

「代表政治、並びに法と自由の均衡に關する英國人固有の政治的觀念が北米國からメキシコ灣に至るまでの間に、大西洋から太平洋に至るまでの間に行はれてゐるのは何故であるか。それは大事な時期に於いて海上の支配權が英國に屬してゐたからである。」

「印度に於いても、埃及に於いても、專制政治と、封建的闘争と、流血に代つて、効果的な行政が示されたのであるが、それは何に原因したか。それは先づ英國の海軍が佛蘭西に代つて統制を行つたこと、その後英本國との交通に依り、英國の勢力に依つて政治が行はれるやうになつたことに原因するのである。」

歴史は軍艦と商船とを持つ英國人が島國人であること、英國人自らそれ自身の運命を作りつゝあることを記録してゐる。同時にポルトガルが獨立國であるのは、ヘンリー八世の時代から英國の味方

であるからであり、ギリシヤは英國艦隊の援助がなかつたならば、決して獨立國になることが出来なかつたであらうし、ムツソラーニも又英國の海軍力がなかつたならば、今日のやうな統一ある伊太利を支配することは出来なかつたであらう。白耳義の如きも、若し英國艦隊がなかつたならば、どんな運命になつてゐたであらうか。

英國の海軍力は嚴然として存在してゐるのであるが、この勢力は飽くまで維持して行かなければならない。と云ふのは、英國人は世界の各方面に散在してゐるのであるから、海と、陸と、空中に於て、これを防禦することが第一原則でなければならぬからである。

サー・ハーバート・リッチモンド提督 (Admiral Sir Herbert Richmond) は「帝國の國防並びに戦時に於ける捕獲」と題する著書に於て英帝國の國防に關する凡ゆる方面の問題を論じてゐる。彼はグリンニッチの陸軍大學の校長であると共に、帝國々防學校の校長であつたが、帝國々防學校には自治領、植民地並びに印度の將校が入学してゐる。彼は宣傳家若くは數年前に東印度艦隊の司令官であつた海軍人としてではなく、軍事研究者として前記の本を書いたのである。彼は噸數とか、大砲とか、砲臺とか、戦車とか、飛行機とか、若くは爆彈等に關する問題よりも、寧ろ國防の原則に關して冷靜に検討したのであるが、この人位英帝國の國防上に於ける缺陷、殊に指揮と供給に關する協力の缺乏に就て理解してゐる人はゐないのであつて、従つて何人も彼の警告に依つて深い印象を受けない譯には行

かないのである。

### 第三節 軍備問題と交通關係

サー・ハーバート・リチモンド提督は先づ第一に國際聯盟規約、不戦條約並びに同一の性質を持つてゐるその他の條約の重要性に關して、根本的の問題を提出した。「それ等の紙片（條約）は反對者をして、ずた／＼にそれを破らないやうにさせることが出来るであらう。」と云ふのがそれである。

前世紀の初頭に於ける神聖同盟（Holy Alliance）の成立から一九一四年、獨逸軍隊の白耳義侵入に至るまでの出來事は、この疑問に對して答へを與へるのである。國民的存在が危機に瀕した場合の條約違反に對する保障は唯一つしかない。云ひ換へれば、この世界の現状に於ては、條約は軍備に依つて支持されなければならず、そしてこれ等の軍備は、起り得る必要に對して十分なものではなければならぬのである。併し乍ら英國人の多數はヴェルサイユ條約、殊に獨逸に對する懲罰的條項並びにその他、歐洲に於ける人種的、地理的、政治的及び經濟的境界に關したところの條項の維持に關して英國が如何なる義務を持つてゐるかを知らないのである。

條約をして一片の紙片たらしめざらんとするならば、必要の場合には、これを擁護しなければならぬ、と云ふ考へと關聯して英國が一般的軍縮を行ふことが出来なかつたと云ふことは、英國人にと

つて凡ゆる國防上の問題、殊に英國海軍に於ける巡洋艦の勢力に關する新らしい情勢が、彼等をして再び考慮せしめることに導くであらう。サー・ハーバート・リチモンド提督は「英帝國の利益に對する最大の危険は、英帝國の交通線上に横たはつてゐる」と云ふ警告を發してゐるが、それは全く彼の云ふ通りである。陸上に於て使用し得る軍事的勢力が如何に大きくとも、英國の持つてゐる飛行機をして如何に多數ならしめても、歸するところは悉くそのも八千哩からある通商路にかゝつてゐるのであつて、この通商路こそは實に英國の精力を集中すべき中心點に外ならないのである。

英帝國の交通は一本の絲である。この絲は共同の目的に役立つものであり、英國の凡ゆるメンバーにとつて缺くべからざるものであるから、英國は何處までもこれを保持して行なければならぬ、とリチモンド提督は指摘してゐる。この政策は徹底的であると同時に一致したものでなければならぬ。これは自明の理であるに拘らず、それが英帝國の國防に關する現在の計畫中に含まれてゐないことは、何人にとつても直ちに判ることである。

併し乍ら英國人は最も緊密なる協力が最低の代價を以て英國に安全保障を提供することゝ、安全に對する保障が、各地に散在する英帝國の人民の貿易と福祉の増進に寄與することを認識してゐない。歐洲戦争の當時、英本國は優勢なる艦隊と、少數ながらよく組織された陸軍と、世界に於て最も効果的な飛行機を持つてゐたのであるが、然し勝利を獲得するためには自治領、植民地並びに印度から迅速

なる援助を必要としたことは、戦争そのものに依つて立證されたのである。

歐洲戦争當時、英國艦隊の司令長官として、又海軍々令部長として貴重なる經驗を持つてゐるジエリコ提督 (Admiral Jellicoe) は若し全世界に於ける英國の利益を安全に擁護しやうとするならば、最小限度として七十隻の巡洋艦が必要であると云つた。併し乍ら實際、英國の戦時艦隊として、並に英國領土間に於ける通商路の警備として使用し得るのは、僅かに四十三隻の巡洋艦に過ぎない。而も現役に在るのは、その中の三十六隻だけである。従つて現在は將校も兵員も非常に不足してゐるのである。一匹の狐を狩り出すためには多くの獵犬が必要であるが、それと同じく、商業の妨害をする一隻の敵艦を驅逐するのでさへ多數の巡洋艦を必要とするのである。これは歐洲戦争當時に於けるエムデン (Emden) とフォン・スパー (Von Spee) の率ゐてゐた艦隊を追跡したことに依つても判る。

現在に於ける巡洋艦の勢力を以てしては、快速力を有する四五隻の敵艦が地中海、若くは英國加奈陀間の通商路である北部大西洋、若くは英國阿弗利加間の航路の如き商船の頻繁に往來する通商路に現はれた場合、さうした情勢に對して適當の措置を採ることの出來ないことは、いやしくも責任の衝にある海軍將校の齊しく認めてゐるところである。併し乍らそれにも拘らず、敵艦の襲撃に依る船舶の喪失が延いては運賃と海上保険料の引上げとなり、その結果、英帝國を通じて生活費の増加となることは一般に認識されてゐない事實である。

英帝國間に於ける貿易の發達が大なれば大なるほど、それに對する脅威は益々重大になる。ヴィクトリア時代に於いては、英國艦隊は他の二箇國の艦隊よりも強かつたために、平和は英國人の最高の利益であると云はれたのである。併し乍ら現在に於いては、帝國間に於ける貿易の保護と云ふことに關しては、何等重大な考慮が拂はれてゐないのである。若し英國民の祖先がこの状態を見たならば彼等は果してどう思ふであらうか。乗客と貨物を輸送するためなく、最初から戦闘力と砲と、水雷とを搭載する目的を以て建造された、快速力を有する、充分に武装された船艦に對しては、商船は全然防禦することは出來ないのである。

然し、さうかと云つて、商品を運搬するのに巡洋艦を使用することは、普通の貨物船が軍艦の任務をなすことが出來ないと同じく、それは出來ない相談である。或る一つのタイプの船が平時の仕事に必要であると同時に、他の一つのタイプの船が戦時には必要であり、同時に戦時に於ては、それが二つとも必要であることは、エリザベス時代から認められてゐる事實である。

英國に於ける巡洋艦の勢力が衰へたのは、毫も不思議ではない。それは他の海軍國として成るべく建艦させないやうに、と云ふ善意の努力に原因するのである。巡洋艦の制限と云ふことは、大部分は英國海軍に關するものであるが、それは先きにワシントン會議に於て受諾され、更に倫敦條約の結果として制限されることになつたのである。しかも英國政府は自己の善意を立證するため、海軍々令部

の抗議があるに拘らず、範を諸外國に示すと云ふ理由から、海軍條約に規定された範圍よりも遙かに少ない程度の計畫で甘んじてゐたのである。こう云ふ理由で、英國に於いては一九三六年以前に艦隊に編入される新巡洋艦は僅かに六隻に過ぎない。

併し乍ら英國海軍省の調査に依れば、伊太利には九隻、米國には七隻、日本は六隻（外に計畫中のもの二隻）佛蘭西は四隻の巡洋艦を建造中である。さらぬだに比較的劣勢である英國巡洋艦の勢力はこう云ふ事情の下に於て、今後益々劣勢を持続するであらう。それに引き替へ、目下外國に於て建造中である各種の軍艦は百七十八隻の多きに達し、その外近き將來に於いて建造に著手せらるべき外國軍艦が五十八隻ある。その中に含まれてゐるのは豆戦闘艦一隻、水雷艇四隻、驅逐艦五隻及び砲艦一隻（以上獨逸）であるが、これ等は獨逸が國際聯盟に對し軍備平等權に關する要求を提出する以前に建造することに決定してゐたのである。而も、これ等は戦争後獨逸に課せられた制限を無視するものであるが、佛伊兩國はさうした獨逸の新政策に對して無關心でゐることは出來ないであらう。

## 第三章 勞働黨の諸政策

### 第一節 對外政策

英國勞働黨は經濟的復活並びに聯盟と平和の再建に關する政策に就て、自らの勢力の支持を得なければならぬのであるが、何を云ふても、各人の意見が相互に相對立してゐるのである。それは英國のみでなく世界各國に於いても同様である。然らば一體勞働黨は如何なる態度を採るべきであらうか。左に著者独自の意見を述べて見やう。

（一）現在の危機は、經濟組織と國際組織の崩壊に依つて生じたのである。併しファシズムや、軍國主義の復活や、經濟的國家主義の流行は、原因でなくて、病氣の症狀に過ぎない。それは資本主義及び國家組織を維持せんとする最後の努力である。この努力に對して、最も先きに代償を拂ふものは民衆であつて、幸福と、自由と、繁榮は即ちその代償である。

併し、英國に於ては依然經濟的並びに國際的建直しに關して支持する多くの人々がある。従つて社會主義政策は事實、資本主義の崩壊に關して多くの機會を持つてゐる。勞働黨は經濟的復活に關し明



白にして大膽なる社會主義的計畫を持たなければならぬ。舊い社會主義者の理論やスローガンや信条即ちプロレタリア獨裁、修正主義若くは革命等の如き——は棄てなければならぬ。それ等は現在の危機に對しては事實、無意味であり不適當である。

労働黨の經濟政策は、自由と寛容と平和を聯結するものであることを主張しなければならない。労働黨は新しい野蠻主義に反對する文明の味方である。労働黨は資本主義ファシズムに反對する社會主義デモクラシーに依つて立つてゐる。自由と寛容は獨裁政治に反對であり、國際主義と平和は國家主義に反對であるからである。労働黨はそれ等の目的を遂行しつゝある世界各國の、凡ゆる政策及び個人と協力し、積極的にそれ等の勢力を動員することに努力するであらう。

アーサー・ヘンダーソンの書きた「労働黨の外交政策」(Labour's Foreign Policy)と題するパンフレットには、吾々は吾々自身の政治的並びに經濟的運命を統制し得ると信じてゐる、凡ゆる人々の深甚の注意に値ひするものである。ヘンダーソンは英國労働黨の領袖で前の労働黨内閣の外相であつたが、次の労働黨内閣に於いて再び外相にならないとは云へない人である。それに又、このパンフレットは労働黨の許可の下に労働黨に依つて出版されたものである。従つて本書の意圖なり目的なりは、他日労働黨内閣に依つて遂行せらるべき國際問題に對する公式の宣言と見做すことが出来るのである。それ故に労働黨の外交政策は、こうした勢力及び運動の光に照らして判断しなければならない。

今や人類の運命は、主として彼等自身の手に、否な、寧ろ彼等自身の頭にある。ところが英國に於ては人民の多數は失業に依つて苦しんでゐる。諸國の人民は、獨裁者の考へてゐる事を信じてゐる。それ等の國々に於ては支配階級——或國に於ては、それはブルジョアと少數の資本主義であり、或國に於ては、それは共產主義者と少數の猶太人である——に反對する少數は、徹底的に彈壓されてゐる。而もスカンデナヴィア諸國、和蘭、白耳義、英吉利及び佛蘭西を除いた他の歐洲の國々は、實際に於て既にさうした状態に陥り、若くはこの状態に陥らんとしつゝある。

これは何う云ふことから起るのであらうか。それは主として人間精神の中から起るのである。而して若し現在の經濟危機が繼續し、資本主義工業及び經濟の崩壊がこのまゝ續行するならば、その結果はファシズムと國家主義の擴張となり、歐洲の全部に亘つて謂ゆるバルカン化(Balkanization)が行はれるであらう。

即ち各國は「自給自足」を目的とする關稅を持ち、政權は軍國主義者と國權黨の手に歸し、民衆は政府の承認しない事に關して聽くことも讀むことも許されなくなり、自由、平和、若くは國際主義に依つて立つてゐるところの凡ゆる個人、階級及び政黨は、政府に依つて彈壓され、多くの外敵に對して「それ自身」を保護するところの對外政策は、軍事的勢力に依つて支配されるであらう。若しこれ以上、一二の國が伊太利及び獨逸の後を追ひ、國際社會の状態が戰爭前に於けるバルカン諸國のやう

な状態になつたならば、歐洲の平和は、何時まで持續することが出来るであらうか。

著者は實地に觀た通りの國際情態に就いて無遠慮に説明したい。何故ならば労働黨の外交政策はさうした情勢の下に於て採用されなければならぬからである。而して若し著者の説明したやうな情勢であるとしたならば、労働黨の政策はヘンダーソンがパンフレットの中に述べたやうな形態で行き得ないことは明らかである。と云ふのは、若し聯盟に於ける大國の多數が聯盟システムの、國際主義、軍備縮小及び平和に反對するならば、聯盟のシステムと國際主義とは到底實行が出来ないからである。労働黨が聯盟擁護の政策を掲げてゐるのは、聯盟そのものが現在に於て平和を確保すべき唯一の機關であることを知つてゐるからである。然し各國は更に歩を進めて聯盟のシステム若くは平和に參加すべき意思を持つてゐないところのファシスト的勢力の取扱ひに關し、何等かの政策を發見しなければならぬ。一言にして云へば、聯盟は普通の目的に對しては誠に好いスプーンである。然し労働黨内閣の外務大臣としては、聯盟の食卓に於てムツツニーやヒトラーと會食する時は、もつと長いスプーンを要するであらう。

## 第二節 對内政策

これは労働黨の政策を再説したものであつて、歸するところは聯盟を支持するものに外ならない。

然し現在の如き事情の下に於て、労働黨の執り得る政策としては、これ以上の好いコースがあらうとは考へられない。若し各國が聯盟を棄てるならば、これに代るべき唯一の政策は同盟が孤立する外はない。然し同盟は遅かれ早かれ英國を驅つて戦争に導くであらうし、又、同盟は戦争から各國を救ふことは實際に於いて不可能である。従つて各國が見込がないとして聯盟を棄てることは、見込がないとして平和を棄てる結果になるであらう。

ヘンダーソンは次の労働黨内閣の執るべき外交政策の輪廓を描いた如く著者には思へる。労働黨が政權を把握した場合、労働黨内閣は遂行すべき二つの仕事を持つてあらう。即ち第一に、労働黨内閣は資本主義經濟から社會主義經濟への變革を行はなければならない。然しこの試練が成功するや否やは、外交政策に依つて決定せらるべきものでもなく、それは當然外務大臣の仕事の範圍外に屬してゐる。それ故にこうした政策に關して選舉人の承認を獲得する労働黨の能力と、愈々それを實行する場合遭遇すべき困難に對して選舉人の支持を確保する労働黨の能力に依つて、此の試みの成功するや否やが決定するのである。

労働黨内閣の外相として精力を傾倒すべき政策は他の方面にある。彼は歐洲戦争の勃發を防止すべき任務を持つてゐる。若しこれに成功するならば、彼こそは「現代に於ける社會主義」を國民に與へたものとして、世人の期待に副ふものであると云はなげとばならぬ。

彈劾案の討議に際し、サミュエル内相は自己の行動に就いて釋明を試み、吾々は閣僚の多數と意見を異にしたので辭職を申出でたが、首相と樞密院議長（保守黨首領ポールドウィン）とは内閣の一致に就いて提議したと云つた。討論の結果、衆議院に於ては四百三十八對三十九、貴族院に於いては七十七對七の少數で彈劾案は否決された。政府の行動が議會に於て支持されたのは色々の理由がある。或ものはヘールシャム卿の云つた如く、閣僚が重要問題に關して思ひ／＼の行動を執る事を以つて新しい原則に向つて一步を進めたものであると見做し、或ものは又、大臣及びその他の人々が自分の思つた通りの事を發表するのを以て昔に還つたものとして歓迎した。「人間は先例を無視することに依つて進歩する」とはスノーデン卿の意見である。

政府の行動が國民全般の支持を得てゐることは毫も疑ひない。國民は一黨一派の内閣としてではなく舉國一致内閣として現内閣に多數を與へたのであるから、この儘で仕事を始めることを望んでゐるのである。たとへ若い人達がどう思ふにしても、自由黨としてはサミュエル内相等の態度を承認してゐるのであつて、自由黨の長老グレイ卿（歐洲戰爭當時の外相）の如きもサミュエル卿を祝福してゐる。今や吾人は、さうした定期的な文明の危機に遭遇してゐる。十九世紀の末葉に當り、歐洲は更に一步を進めるならば、文明を確立させることが出来る時代に到達してゐた。それに就いては二つの手段が必要であつた。その（一）は個人主義的な資本主義組織から共同的若くは社會主義的な經濟組織へ

の秩序ある二つの方法は、互ひに密接な關係を持つてゐるのであるが、十九世紀の文明が平等的な社會主義平等社會への進化を妨げられたのは、つまり資本主義並びに中産社會が、平和のうちに經濟的平等へ變化することを拒否したためである。文明を破壊するさうした勢力は、戰爭後及び現在の危機に於ても看取される。畢竟ざるに現在の經濟危機が資本主義そのもの、破壊であり、更に、それが繼續することは、文明社會を戰爭と崩壊に導くものであることは、何人の考へも一致するところである。平和的な平等社會の出現を嫌つてゐる、ファシストが、經濟的方面に於て文明を救はんとする社會主義者と、戰爭を防止することに依つて文明を救はんとする平和主義者を、彈壓し絶滅せんとするのは、これがためである。

併し、さうは云ふやうなもの、若し政治的情勢の實際を顧るものであつたならば、たとへ勞働黨の政策がさうであるからと云つて、最早や大丈夫であり安心である、と云ふ考へを起すことは不可能であらう。

一つの政策が、その政策を支持するものに對して、安心を與へるには二つの條件が必要である。その第一はさうした政策が現在の困難なる實際の狀態に適應してゐることである。第二はさうした政策が民衆の熱心なる支持を得てゐると云ふことである。ヘンダーソンの主張する勞働黨の政策はたとへ賢明であるとしても、若しこの儘で行つたならば、二つの條件の何れをも充たすことは出來ないであ

らう。と云ふのは、現代の政治は、多くは比較的皮相なる見地から討究されるのが常である。實際政治の範圍は、普通は次の總選舉と云ふ考へに依つて示されてゐるのであるが、それは寧ろ歴史とか永遠とか云つたやうなものから抽出さるべきものである。時々發生する世界の歴史上に於ける危機には、選舉に勝つとか敗れるとか云ふやうなことよりも、又更に大きな豫想が含まれてゐるのである。吾人が實際さうした危機の間に生活してゐると云ふことは、靜かに過去二千年間に於ける人間の歴史を研究したもの、疑はないところであらうと考へる。この二千年間に於て、人間が廣い領域に亘つて文明を確立する時期が到來したかの如く考へたことは何回あつたか知れない。ところが人間が文明になつたと思ふと、他の一方に於ては野蠻の勢力が再び頭を上げて来る。寛容、仁慈、自由、文化及び繁榮の代りに、戦争に於ける大量的殺戮と、少數者の被る大量的不幸とが社會最高の理想であるかの如くに考へられ、文明は野蠻の波に依つて再び没はれて行く。

又世の中には反動的でもなくファシストでもない多數の人々がある。彼等は知識的にも感情的にも文明と平和の味方である。三十年以前に於ては、彼等は恐らく有力なる自由主義者であつたであらう。而して若し戦争が來て何もかも破壊しなかつたならば、彼等の或るものは、自由思想の資本主義時代から社會主義の時代に移ることの必要を認めるであらう。併し乍ら今日は反動的時代であつて狹隘なる經濟的並びに軍國主義的な國家主義と、資本主義獨裁政治が到る處に於て、益々勢力を得つゝある

時代である。こう云ふ情勢を見て骨の髄までも冷やりとするやうに感ずるのである。併し乍ら彼等は野蠻主義と妥協し、所謂「實際的」見地から、自由主義、國際主義、平和主義及び社會主義の代りにファシズム及び經濟的國家主義の原則を取り容れ、而もこれを平和の目的に使用せんとしてゐる。ニユー・ステーツマン及びエール評論に於けるケーンズの自給論の如きはその一例である。若し國際聯盟と協力するところの平和的な社會主義國家から成立してゐる文明世界であつたならば、ケーンズの云ふやうな、自給國は必要であり、無害でもあるだらう。然し文明の理想を拋棄しない限り、ケーンズの主張するやうな意見は、現在の世界には適應しないのである。

ケーンズが自給的國家主義を主張したエール評論の同誌上に於て、デンメルン教授は又昔風の軍事同盟に就いて、論じた後「今日は武力と正義が互ひに手を握つてゐる」時代であるから、國際聯盟の必要はないと論じてゐる。若しヒトラーや、ビルスマキヤ、ムツソリーニや、スターリンやマクドナルド等が手を握つてゐると云ふならば、そこには國際聯盟の必要はないだらう。然し一九三三年の歐洲に於て力と正義の一致を發見することは、デンメルン教授の論旨よりは遙かに困難である。

そこで平和維持の手段として労働黨の政策を効果的ならしめるには、どうしたら好いかと云ふに、それに就いては二つの條件が必要である。それは第一にファシズムと軍國主義に反對する人々の堅い支持を要すると云ふ事と、第二に平和を維持すると云ふことは、一政府若くは一政黨の力では到底出

來ないのであるから、諸外國に於ける左翼の勢力と共に共同の行動を執るやうにしなければならぬと云ふことである。

勿論、聯盟を基礎とせる平和政策に對しては、英國に於ては労働運動の左翼と自由黨が主としてそれを支持してゐる。然し彼等の多數は社會主義者でなくて自由主義者である。彼等は労働黨内閣の聯盟主義の外交を支持するであらうが、然し彼等は何時でも、聯盟のシステムと一致しない他の内閣の經濟政策を支持するであらう。従つて聯盟主義の外交を支持する人々の大多數は、労働黨内閣に對して寧ろ危険の原因となるであらう。

それなら労働黨の左翼はどうであるかと云ふに、他の内閣に行けば行くほど聯盟に對する熱心が缺けてゐる。殊に共產主義に至つては、絶対に聯盟反對であり、同時に労働黨の政策にも反對してゐる。労働黨の極左翼派も又、聯盟の失敗するのは、聯盟そのものが資本主義者の聯盟であるからだと思つてゐるのである。

## 第四章 經濟界の諸相

### 第一節 概況

或る學者の解釋では、英國特惠關稅は、取りも直さず實際政策を代表したものであると云ふことである。政治上に於ける自由主義と國際貿易に於ける自由放任主義とは、兩つながら英國から消えてしまつた。そして英國を支配する保守黨は、保護主義を執つたのである。歴史的に云へば、英國關稅政策は加奈陀が主動者の地位に立つて各自治領をリードし、その結果英國をしてこれを採用せしめたのであるが、兎に角、英國ははじめに保護主義へ轉向したのであつて、更にそのメンバーは協力してこれを遂行することになり、戰爭前に於て有名な自由主義者であつた人々をさへ、英國が保護主義を執るに至つたのは時代の變化に伴ふ當然の結果であると云つてゐる。

こう云ふ譯であるから、外國、殊に米國人としては、英國は何れの國とも同様に、若くは何れの國よりもよりよく經濟的國家主義を遂行し得ることを、世界に向つて證明したことを認めなければならぬであらう。

人によつては、英帝國の求むるところは、現在の危機に處するの途であると言ふかも知れぬ。然し抽象的なる經濟學説を見ても明かであると信ずるが、事實は決してさうではないのであつて、根本的の理論を明らかにしなければ、事實の末梢をだけでは如何ともすることが出来ない。今や貿易バランス恐怖病者が最も神経を悩ます如き時期を經過しつゝある。文明國一般に人口の増加率が減じたので、人生の必需品を提供する元始的生産者殊に農業の状態は甚だしく悪化しつゝある。それがために、新境地を開拓し、新事業を起さんとする刺戟は著しく衰へてゐる。斯くして新たな資本は生活必需品よりも、寧ろ半必要的の便利品、奢侈品等の生産に投ぜられることとなつた。それ等の物品は何れも貧しき新國家に於ては作られず、富める舊邦に於て生産せられる。尙ほそれでも足りないものゝ如く、未開發國の或ものはその商業上に種々の制限を設け、働かんとする意志を有する倔強なる移民を拒絶して、自らその開發を拒否せんとしてゐる。彼等の誤れる政策は世界的の風潮と結合して、彼等をして前代未聞の苦境に陥し入れてゐる。それがために、彼等の或ものは舊邦に依つて投ぜられたる資本に對する配當を減じ、或ひはこれを全廢するの止むを得ざるに至つた。

かやうな事情であるが故に、富める舊邦に於ける投資家が、その貯蓄を國內に維持せんと欲するは固より當然の事と云はねばならぬ。

現在に於ける貯蓄を戦前に比すれば減少しつゝありと云ふものがあるが、自分は必らずしもそれに反對しない。戦後、所得税、超過税、相続税等の増加に依つて著しく財産の平均作用が行はれたのだから、貯蓄の減少するは固より當然の事なりと云はねばならない。富者の懐中から金を取上げて貧者に與ふるが如き政策が一國の貯蓄を減ずるは自明の理である。そのみではない、人口の増加率が減じたことも又貯蓄減少の一因たらざるを得ない。一般國民は斯やうな事に注意を拂はないが、彼等が若し、一二人の子女を有するか、或ひは一人も有せざる場合には、假令貯蓄をなすことは容易ではあるが、六七人以上の子女を有するものに至つては、その子女のために貯蓄すると云ふ考へは少ないであらう。

貯蓄は以前に比して幾分減じたかも知れない。然し當然の理由以上に減少したるや否やは疑問であるが、何れにしても、英國の資本は少しも増加することなしに、恰も國民が資本を食つて生きてゐるかの如く考ふるは滑稽の至りである。重要な責任の地位にあり、その思考力の卓れたるを以て知られたる人々にして、斯やうな妄想を有するものゝ勢からざるは驚くべきことであると思ふ。

一國の富を計畫せんと欲せば、統計表を見るよりも、直接に、國民の財産を觀察して、それが増加しつゝあるか、減少しつゝあるかを判斷するに越したことはない。何人も、英國現在の物質的設備が三年前以前に比して、質に於ても、量に於ても、著るしい進歩を遂げたことを承認せずには居られぬ。或る産業は相當苦境に陥つてゐるが、然し一九一八年當時に比して衰へたりと云ふものは皆無といふ。

云はざるも稀有のことであらう。鑛業も、織維工業も、造船業も、鐵道業も程度の差こそあれ、何れも相當の進歩發達を遂げてゐる。道路は廣く平坦に且つ直線になつてゐる。自動車の數は、過去十年間に數十倍の増加を示してゐる。家屋も古いものは多く取毀されて盛んに新築せられ、その外觀の壯大にして、内部の設備の完全せること舊時代のもの、比ではない。電話、ラヂオの數も驚くべき増加を示してゐる。個人の住宅のみならず、學校、大學等の建築も著しく改善せられてゐる。

種々の困難の存在することは固より云ふまでもない。文明の諸國と共に、英國も立法部と國民の輿論を後援とせる中央銀行の愚かなる希望——通貨の一定量を死藏し、それに依つてその價值を維持せんとするが如き——のために悩まされてゐる。國民は又ホワイト・ホールに閉籠る官僚の小刀細工や、ウエストミンスターに於ける政治家等の拙策のために悩まされるゝところが最も多い。彼等のために英國の産業は獎勵を受けずして、却つてその發達を妨げられることが多い。

然しそれ等の困難と妨礙の中にも、英國は無事に今日まで迎つて來た。金本位制を維持すると否とは別に大した問題でないが、夙に昔の有識者に依つて徹底的に辯證せられたる貿易のバランスに關する迷信を何時までも固持することは決して國家のために幸福ではない。

## 第二節 景氣工作

然し、國家の景氣が比較的良好でない場合には、恐怖病者の神經を悩ますものは、必ずしも外國からの収入の減少のみには限らない。その様な場合には、英國に於ける投資家に成るべく外國に投資することを避けて、自國內に投資せんことを努める。その必然の結果は即ち英國に於ける輸出の減少である。英國が濠洲又はアルゼンチンに投資すれば、それ等諸國の購買力を増加するが故に、英國の輸出は自然に増加するが、國內に投資するに於ては、左様な刺戟がないため、輸出は減ぜざるを得ない。若し英國人が銀行紙幣を濠洲又はアルゼンチンに郵送したりとすれば、それが自由に通用する英國に於て何物かを購買すべく、早晚送り返へされるであらう。これに反して、外國投資額が減少すれば、英國からの輸出は減じ、外國からの輸入は増加せざるを得ない。こゝに於て、例の恐怖病者は輸出の減少を以て、貯蓄及び投資の不可能から起るものであるとして狼狽するのであるが、その實は、投資家が外國市場を選択した結果に外ならない。

今一度ホワイト島の例を引けば、若しも同島に於ける輸出入の差額の大きくなつたのが、同島の繁榮のため、新住宅や、ホテルに投資するものが多くなり、本國に投資するものが少なくなつたためならば、悲しむべき理由は少しもないではないか。

次は通貨統一の問題である。英國は金本位の國であるが、歐洲に於ける多數の國々は英國の通貨即ちスターリングとの關係から所謂 "Sterlingaria" と稱するグループに屬してゐる。若し米國の四十八

州が同一の弗を持つことが必要であるとするならば、英帝國に於ても同一の通貨単位を持つことが必要であらう。こうした通貨の統一は、金標準に於てのみ可能である。

従つてこの問題は、英國が金本位に復歸しない限り、實行の機會はない譯である。ところで今日の英國は、金本位から離脱したことを以て好いと思つてゐるが、そのうちには金本位へ復舊を以て好いと考へる時が来るに違ひない。その時が来たならば世界に於ける金の四分の三を、英帝國から産出すると云ふことは、重要な關係を持つて來るのである。即ち通貨の問題はその結果として現はれて來るのであつて、英帝國の凡ゆる部分がスターリングを採用するか、それとも別々の通貨を持つかは後日の決定に俟たなければならぬ。

過去二年間英米兩國に於て、現在の世界的經濟の混亂、殊に原始品の極端なる下落を救はんがために、リフレーションの療法に頼らんことをも主張するものが尠くない。リフレーションなる語は、一般にデフレーション（通貨收縮）の反對を意味するものとして了解されてゐる、然し實際に於ては零點より幾分にも上ることを意味するに過ぎない。若し一九三三年に於ける物價の平準を零線とすれば、リフレーションは、その年に於ける經濟金融事情に關係する限りに於てインフレーション（通貨膨脹）として解釋することが出来る。若しもリフレーションに依つて、原始品の現在の代價平準を高めることが出来れば、この種の物品を生産するものは、それに依つて利益を受けるであらう、従つてこれに従

事する労働者の賃銀は高められ、その數も増加するであらう。

その生産費が増加せざる限り、製造品に對する需要も増加するであらう。原產品の代價平準が五割増加し、製造品の代價に變動なしとすれば、現在全世界にある失業者の約四割を減ずることが出来る。然し生活費が實際に低下しない限りは失業者數を減ずることは不可能であらう。何れの國に於ても、現在その收入（購買力を意味す）は戦前に比して少く、一般的商況の改善に依つてもその實際收入を増加し得ない人々が決して尠くない。故にこれ等の人々の物品の消費及び役務に對する報酬を増加せしめんと欲せば、その生活費を低下するより外に取るべき方法はない。

デフレーションを主張する人々は、インフレーションが如何なる條件の下に起り得るものなるかを了解しないものゝやうである。彼等は、物價の平準はその社會に存在する購買力の總額に依て決定するものと思ふるやうに見える。供給の減少に依つて物價が自然に騰貴し始むるまでは、インフレーションは決して起り得るものでない。物價低廉の時通貨のインフレーションに依つて物價が騰貴すれば、こゝに於て賃銀は騰貴し、賃銀の騰貴に依り物價が騰貴すると云ふ無限循環を惹起することとなる。斯くて賃銀が略ぼ安定し、需要供給が略ぼ均衡を得るに至つて、始めて新たな一般物價平準の安定が得られる。



## 第三節 生産機構

人類の使用に充つる物品の生産を増加せんがために、最初に機械が發明せられて以來、それが労働者の敵であると云ふ叫びは斷えず續けられて來た。然るに若し全世界の住民が、一種の物品のみを消費し、それ故に各人の消費する額が、その消化力に依つて制限せられるとするならば、無限の自動生産力を有する一箇の機械が發明せらるゝ以上、人間にとつて最早労働の必要はない筈である。然し人類は凡ゆる物品と仕事に對して無限の慾望を持ちつゝ生存するもので、複雑と變化とは、不斷に人類生活上の一大刺戟である。

今や全世界が經濟的危機に際會するに當り、斯くの如く失業の起るは、主として機械の使用に依り物品が需要以上に生産せらるゝためなりとの叫聲が再び盛んになるに至つた。斯くて彼等は、生産物の量を減じて、世界の經濟的均衡を恢復せんがために、毎週の労働時間を短縮せんことを主張する。然しそれを實行するに當つて二つの大なる障礙の横はることは明かである。第一は労働者がその労働時間を短縮せらるゝも、以前と同様の賃銀を要求するであらうと云ふことで、従つて、その總生産費は、生産額に對して以前に比しより多くの割合となるであらう。第二はかくて物品の價格が騰貴するために、その消費額を減ずるであらうと云ふことである。

果して然らば、これを如何にすべきかと云ふに、自然に放任するの外致方がないのである。歲月の経過と共に需要と供給とは自然に調節せらるゝに違ひない。新機械の發明に依り、或種の産業に於てはその労働の需要を減ずることは疑ふべからざる事實であるが、最低賃銀法又はその他の人爲的制限に依つて努力の移動を妨礙するが如きことのない限り、一時職を失ひたる人々も早晚他の新産業に吸収せらるゝであらう。大量生産の結果、物品と役務の代價が大に下落するが故に、これに對する需要を激増し、この方面に於ても多數の労働者を吸収することが可能となるであらう。

英國に必要な改革を説くに當り、著者が斯の如く述ぶる所も、多少の斟酌を以てすれば、他の諸國にも適用し得ることを信ずるのである。元來「資本」と「労働」なる語は、經濟學者の見地からすれば、一箇の物品の二箇の異なる部分を指稱するものに過ぎない。換言すれば、各國の内部に於て經濟財政上の整理改革が斷行せらるゝまでは、世界の經濟的均衡の恢復は覺束ないと云つて差支ない。世界の經濟的機構は各國の經濟的機構の上に立つのであつて、或部分に於ける基礎が薄弱なれば、全世界の信用組織は、それがために震撼することを免れ得ない。

世界の各國、殊に英米兩國に於て、現在に於ける資本と労働との關係は、戦前に比して如何なる差異を有するか。これを一言にして盡せば、富裕なる者は全體に於て労働者の階級よりも更にその富を増加してゐる。然し労働者も、一定の保護せられたる産業に於ては、その一時間當りの賃銀は増加し

従つて収入の総額も増加してゐる。然し失業者は著るしく増加し、又或人々の受くる賃銀は戦前に於けるよりも少なき購買力を有してゐる。戦時の通貨膨脹の結果として必然的に起れるデフレーションの反動のために、壓搾作用をも行はれたことは明白で、即ち抵抗力を有する社會と、防禦力なき弱き社會との間に、經濟戦が行はれたのである。さればこれ等の情勢に通ずる人々は、次に來るべき英國の政府は労働黨のものであると云ふことをも承知してゐた。

斯くて生産者は破産するに至るべく、その財産を廉價を以て購買せるものは、代價を引上ぐることなしに利益を擧ぐる事が出来るであらう。然しその工場の抵當利子或ひは借賃は頗る廉價なりとも、新たに要する工場の設備や原料が、生産物の賣價に比して甚だ高くつくがために却つて損失を招かざるを得ない。金本位維持國の主要物品の生産者は、下落せる通貨を有する國の生産者と、輸出に於て競争せざるを得ない。A國がB及びC國から巨額の食料品を輸入したる場合、若しB國の通貨が金の計算に於てC國のそれよりも下落せる場合には、A國のB國からの輸入は増加すべく、C國はその生産物の金を以て計算せる代價を引下ぐるまではB國と競争することは出来ない。

金本位を離れたる諸國をD、今尙ほこれを維持する諸國をGとして兩集團間の關係を觀察せんとすれば、次節に述ぶるが如き理由に依つて通貨下落の結果は、金本位國に於ける物價、殊に原産的物品の金を以て計算せる物價を下落せしむる傾向あるを知るのである。

一九三二年三月のレーバ・ガゼット紙に據れば、一九三〇年十二月末に於ける賃銀の一時間平均額は、一九一四年八月に比し九割乃至十割の増加で、一週間の平均賃金は七割乃至七割五分の増加となつてゐる。一週間平均の増加率の少ないのは、一週間に於ける労働時間の短縮せられたためである。

労働階級以外の階級に於ても、一九一四年以來その収入の割合に大なる變化を來してゐる。これ過去に於けるインフレーションの結果であつて、國民の購買力の上に分配の不公平を來す事となつた。

労働省の報告に據れば、一九三二年十二月末と、一九一四年七月とに於ける労働階級の生活費を比較すれば四割二分の増加となつてゐる。中産階級の現在の生活費を戦前に比すれば約五割乃至六割の増加状態と思はれる。各項目の増加は食費二割二分、家賃四割八分、衣服費八割五分、薪炭費八割乃至八割五分と計算せられてゐる。その他の項目の増加は平均七割乃至七割五分の間にあるものと想像せられる。學者の卓見を以てすれば、英國の失業者數を百萬人以下に減少せんと欲せば、その生活費をば戦前よりも一割位低下せしむる必要がある。それがためには賃金、俸給、地代、租税等に於て、尠なくとも三億磅以上の低減を必要とするであらう。

現在の生産費を低下することは、英國内の整理改革のために極めて必要であるが、その他にも必要の條件がある。即ち英國が將來に於てその輸出を増加せんと欲せば、高等の物品に、又英國特有の物品に、力を集中することが必要である。何となれば普通の物品に關しては、今や全世界の到る處に於

て競争者を見出すに至つたからである。農村の賣價と小賣値段の開きを縮小することに依り、英國の農業を奨励することも甚だ必要である。整理改革の結果は金銭収入の減少、生活費の低下、失業者の減少、失業者支持のために要する租税の低減等が出現するであらう。

#### 第四節 通貨問題

(一) 次にD集團が(金本位を維持せる間)G集團と貿易するに當り、支拂のバランスは交換せらるゝ物品の一定量に依つて支持せらるゝものと假定される。

(二) その後、D集團に於ける一般物價は、G集團に於けるよりも徐々に下落する。何となれば前者より後者に金の流入する結果、前者に於ては後者に於けるよりも賃銀及び一般生産費の低減に對してより大なる抵抗力が存する故である。D集團が金の支拂を停止する結果、金に依る計算に於てその通貨の價値は減少する。

(三) D集團は今や金の計算に於て、以前より廉價にG集團に賣ることが出来る。従つてその輸出額を増加することが出来る。此處に於てか、G集團は、その關稅を増加し、或ひは割當制度を採用することに依つて、輸入の増加を防止せんことを圖る。

(四) D集團は、物品の同一量をばより少なき金の代價を以て賣却しなければならぬ。従つてG

集團から物品を購買せんとするに當つて、その購買力は減ぜざるを得ない。此處に於てか、後者はその生産物の金に依る代價を引下げなければならぬ。然らざれば、その輸出額の減少を來す外はないであらう。

(五) 原産品の生産に供せらるゝ地理の變化は、工業品の工場を縮小するが如く容易迅速に行はれざるを以て、金を以てする原始的物品の代價は、工業品の代價よりも一層迅速に下落する傾向を有し、加之、農業労働賃銀は、政府に於て保護せざる限り、工業品の生産費及び小賣物價の下落よりも一層少なき抵抗力を有することになる。

(六) 大インフレーションの後と、それに次で起る反動期間に於て、工業品の卸値段の下落は原始品の下落に後れ、かくてD集團に屬する諸國に於ける工業品の代價と、原始品の生産に従事する、諸國のそれとの間には大なる開きを生ずる。その結果、失業者の多く生ずることは免れることが出来ぬ。何となれば賃銀の通貨に依る價格は、生産せらるゝ物品の經濟的價値とは關係を有せざるがためであつて、又購買力の不平均は失業の主要原因である。

下落せる通貨がその國に及ぼす影響は、その國の貿易上商品の輸入超過で終るか輸出超過で終るか依つて異なるであらうと考へるものもある。成程、一時的影響は慥かに違ふが、然し結局に於ては異なるところはない。他日世界の經濟界が恢復して、原産的物品の代價が騰貴する場合には、英國は金

本位を見棄てたることに依つて得たる一時的利益の代償として、數年間は不利益なる反動を受けざるを得ない。英國に取つて必要なる輸入品のスターリングを以てする價格は騰貴するであらう。換言すれば同額の硬貨に對して、より少ない物品の分量を受取らなければならぬ。然し英國は、他の一方に於て、原産品生産國に、より多くその製品を輸出することに依つてその報償を受けるであらう。

### 第五節 貿易問題

國際貿易の障壁が輕減せらるれば、その結果として、世界の貿易額は自然に増加するであらう。内外に於ける貿易額が増加し、失業者の數が減少する時は、國內に於ける収入の分配は、一層公平に行はるゝに至るであらう。

必要に迫れる國民に、外部から援助を與ふる時は國際貿易の増加を促すに違ひない。然しその國家の内部に於て必要な整理改革を斷行し、豫算の均衡を恢復するにあらざれば、その効果は一時的のものに過ぎない。

金の支拂ひを停止したる各國は、一日も早く再びその通貨の單位を金に結合せしむるを要す。然らざればこの變遷しつゝある世界に於て、長期に亘つて各國の經濟的均衡と、通貨の價值を維持することは不可能であらう。銀行がオープン・マーケットに於て投資を購買することに依つて、顧客の預金

を増加し、或ひはその他の信用政策に依つて總購買力のデフレーション(通貨膨脹)を圖つたとて、必ずしも物品の騰貴、失業の減少を來すものではない。斯様な政策は、却つて將來世界の金融と銀行機關の圓滑なる活動を防礙する恐れがある。そは經濟的機構の變化、又は人口の増加に依る自然の作用にあらざるがためである。

今後若し物品が騰貴することありとすれば、物價平準の自然の騰貴は、通貨の膨脹に先き立たなければならぬ。騰貴の範圍は、新たに起りたる購買力の分配如何に依つて決するであらう。

物價の平準と、仕事(Employment)の量を決定するものは、購買力の總額ではなく、その分配の如何である。

政府が、その國の金融に干渉するの危険なることは、その商業貿易の場合に於けると異なるところはない。社會の或部分に、不利益なる反動を來すことを免れない。金融と、商業に關することは、人間の自由競争に依つて、自然平準に歸するを俟つを以て最上の方法とする。

スターリング集團として知られたる英國と、その衛星國とは、金の支拂を停止することに依つて、通貨の下落を來し、延いて金を以て計算せる原産品の代價を下落せしむる事となつた。

原産品の缺乏が感ぜられ、或は生活費低下のために、その需要が増加するまでは、金を以て計算せるその代價の平準は、目に見えて増加するものではない。

保護せられたる産業と役務の賃銀俸給、賃賃料及び租税の低減せられるまでは、生活費の低減は起り得ない。

將來各國の經濟的自給自足の状態が今日よりも容易となるならば、世界の經濟的機構は強固となり、非常的緊張に對抗することが出来るであらう。然し自由貿易組織の下に於けるが如き程度の生活標準を維持することは困難であらう。

各國の經濟的進歩に取つて理想的の状態は、各人の競争が自由に行はれ、又これを緩和するに、病者、虚弱者、老幼、失業者等に對して適當の保護を以てする所の社會である。斯様な状態は決して、社會主義的若くは共產主義と云ふべきものではなく、云はゞ賢明にして且つ健全なる政策と稱すべきである。

今日の世界に於ては、或種の産業若くは役務の國有が漸次増加する傾向があるが、然しこれは過去に於ける通貨膨脹に對する反動として起つた現象であつて、或國々に於ては大なる社會的變動が起つてゐる。

戦前に於ける富は、主として、賃金、俸給、利益等の小貯蓄の累積を代表するものにして、平和の間に、徐々に世界の信用組織を建設擴張しつゝあつたと云ふことを想起せらるゝであらう。それに依つて、將來の生産と社會の役務が保護せられたのであつた。然し乍らインフレーションの時代となるに及んで、種々の形式に於て不勞所得が加へられ、將來の社會に對して利益の期待を與へる事となつ

たのであつて、インフレーションの結果は、世界の經濟的及び金融的組織に對する破壊であつた。それ故に現在及び將來の國民は斯くの如く不正當に膨脹せしめられたる經濟界整理のために努力することを餘儀なくせられてゐるのである。

## 第六節 物價問題

價値の國際的標準を離れたる諸國から起る動向とその反動とを詳細に論究せんと欲せば、一大の書冊を要するのであるが、此處には左の二箇の一般的結論を提示するを以て満足せざるを得ない。

(一) 各國民間を一單位として考ふる時は、何れの國民と雖も、その通貨の下落に依つて、永久的に利益を受くるものではない。而して輸入税の按排に依つて同一社會中の或ものが利益し、或ものが損失するが如きことは有り得ない。

(二) 下落せる通貨は、新たに金に結び附けらるゝにあらざれば、國內に於ける必要なる經濟的整理改革を遅延せしむる傾向を有す。換言すれば、消費を増加し、失業者の數を減少せしむるに必要な國民的収入の再分配を遅延せしむる傾向がある。

尤も、放任しておけば金本位を恢復することは益々困難となるので、爲に政府が迅速に内部の改革を斷行することがあるかも知れぬが、現代の政府なるものは、概して國民の希望に反するが如き冒險

を敢えてせず、姑息の緩和的政策を以て一時を糊塗するを以て常とする。それ故全世界を通じて健全なる經濟組織を恢復せんとする作用は、極めて徐々に歩み始むる外はなからう。

現在、金を以てせる原産品の代價が、又今後も略ぼその安定を維持するであらうか。或は七年乃至十年後に至つて、世界的飢饉の状態を現出することなきやは、頗る興味あり且つ深き味ある問題なりと云はざるを得ない。金本位を維持する原産品を生産國に於ける農業労働賃銀は、甚だしく下落するであらうが、同時に彼等は、以前よりも廉價に彼等自身の食物を購買し得ることを銘記すべきである。然し彼等が衣服その他の物品を購買し、娯樂のために費すべき金錢が、以前よりも少なくなることもも打算に入るゝを要する。更にそれよりも重要な問題は、各國が悉く金本位を離脱したる曉に於て原産品の國際的代價平準が、各國民の自覺なしに、價値の國際的標準となることはなからうかと云ふことである。

それが社會主義若くは共產主義の性質を有するものであるか然らざるかは、主として次の選舉以前に行はるゝ内閣の改革如何に依つて決する。次の政府に於ける代表者の行動を決するものは、失業者の投票である。政治家には、遠見的のものと短見的のものとあつて、英國民の希望するところは勿論前者の意見が行はれんことで、若し後者が勝利を得る場合には彼等を待つものは破壊のみである。

レーバ・ガッセト紙に依れば、去る一月に於て一百三萬人被の保險労働者中、千三百萬人の失業者

があると云ふことであるが、然しそれは失業者の全部ではない。一九二一年の國勢調査の結果に依れば英國に於て諸般の業務に従事するものゝ人數は、千九百萬人なりとのことなれば、現在に於ける失業者の實數は、恐らくは四百萬を超過するものと見做して差支えない。その中の多數は既婚者で子女有る者である。それ故政府の當面せる最大の問題は、失業者の數を減ずるにあることは論を俟たざるどころであるが、これは、現在の生活費を減少することに依つてのみ解決し得る問題である。それに依つて物品と役務に對する需要を大に増加するに至れば、産業界に失業者を吸収し得るのである。

他の諸國に於て原始品の代價平準が騰貴すれば、英國の輸出を増加し、以て失業者の數を減じ得るに違ひないが、他方には生活費の騰貴を促がし、以て國內の物品消費を減少せざるを得ない。現在の經濟戰爭は、工業品と原始品との間に於ける代價戰爭なりとも云ふべきである。後者の代價平準の騰貴よりも、前者のそれが更に著るしく下落する時に、始めて平和が宣言せられる。經濟的均衡は、物價の相互關係を意味する。現在に於ては、各國の賃銀、標準、物價 (The Wage—Cost—price) は軌道を外れてゐる。

失業者數を永久的に減少せんと欲せば、先づ生産費を低下しなければならぬ。且て生産費を低下せんと欲せば保護せられたる産業及び役務に於ける賃銀と俸給とを低下しなければならぬことは云ふまでもない。生活費の低下の中には生産費の低下を包含するのみならず、亦一切の役務、賃料及び

租税等の低下をも包含しなければならぬ。現在卸賣値段と小賣値段との間に存する相違は減少せられなければならない。店舗はその減少せる總利益の割合を補はんがためには販賣額の増加に依頼しなければならぬ。現在英國に存する失業者のために、英國は尠なくとも二億五千萬磅の損失をなすつゝあることを忘れてはならない。若し國民の収入が一層公平に分配せらるゝならば、この損失は大部分は免かれ得るのである。

## 第五章 關稅政策

### 第一節 特惠關稅

英國は愈々帝國特惠關稅政策を採ることになつた。廣く云へば、これは英帝國の凡ゆるメンバーが他のメンバーに對して貿易上の特惠を延長することであり、もつと適切に云へば、英國が自治領に對して特惠を與へる代りに、自治領から特惠を受けることになるのである。つまり英國は英帝國の他のメンバーに對しては、自由貿易を與へるが、外國からの輸入品に對しては、重い關稅を課することになつたのである。

英國の關稅は三つに分れてゐる。即ち第一は特惠關稅、第二中間的關稅、第三は一般關稅である。特惠關稅は英帝國のメンバー（英國と自治領との間、並びに自治領相互間）に課せられるものであるが、中間的關稅は英國との間に通商條約若くは特別協定のある外國からの輸入品に課せられるものであり、一般關稅は英國との間に通商條約若くは特別協定のない外國からの輸入品に課せられるものである。中間的關稅は特惠關稅より高く、一般關稅は更に高いのである。米國と英國との間には特別

協定がないのであるから、米國の貨物は今後、英國に於て最高の關稅を課せられる譯である。

英國は「最早過去の帝國で」ある。英帝國 (British Commonwealth of Nations) は英帝國の非中央集權と、解放と、並びにそれを構成する各部の結成を意味するのであるが、一方に於て英帝國のメンバーに對し、英帝國から分離するの權利を與へて置きながら他方に於てより緊密なる關係をもち得たのは、大成功と云はなければならぬ。英帝國の領土に於ては、太陽の没することがないと云ふ舊い言葉は斯様にして新しい意味を持つに至つたのである。

帝國特惠關稅に關しては、三つの點からこれを説明することが出来る。その第一は軍事上の問題で、これに對しては吾人は別段重きを置いてゐないのであるが、他の二つは何れも英國の商業政策に關係を持つてゐるのである。

帝國特惠關稅は貿易上に於ける一種の防禦手段であると見做されてゐる。英國は一世紀の四分の三の長きに亘つて自由貿易政策を採つて來たのであるが、自治領は世界戦争前から保護貿易に傾いてゐた。そして戦争後、英國は全世界を通じて自由貿易の増進をはからんとしたにも拘らず、保護貿易は戦争前よりも一層極端に行はれるやうになり、輸入品の凡ゆる種類に對して、より多くの關稅が課せられる情勢になつた。而して多くの國々に於ては經濟的國家主義と自給主義とが指導原理となつた。自治領はこの運動に感染した。遂に英國も又絶望の極、保護主義に轉向した。而も英國は自身一人

の力では防禦的保護政策を遂行することが出来ないことを發見し、帝國的の組織に於てこれを遂行することになつた。尠くとも英國の由自主義は、斯うした解釋に依つて自分で自分を慰めてゐるのであるが、それは自身で自己を欺いてゐると云つた方が或は適當かも知れない。

特惠主義は左の四つに對して適用される。

- (一) 輸入品に對して
- (二) 船舶に對して
- (三) 海岸線に對して
- (四) 通貨に對して

第一は既に決定した。第二と第三は目下計畫中であり、第四はまだ承認されてゐないが、結局はその時期も遠くなくからう。

輸入品に對する特惠關稅は、一言にして盡すことが出来る。英帝國のメンバーは自由貿易を享有するが、外國品は重い關稅を課せられるのである。英國は自己の市場に於ける自治領から資本、勞働及び原料に對して特惠を擴張する考へを持つてゐるのであつて、英國が戦争後に於て、戦争に必要な産業の保護を始めたのは、その第一歩であつた。それからだん／＼に保護の範圍が擴張され、地主の壓迫に依り、最初は製糖事業に對して補助を與へたが、後には小麥に對してもこれを與へることにな



り、最近は自治領からの家畜類に對してもこれを與へるやうになつた。

## 第二節 關稅工作

金本位の停止以來、英國經濟界の形勢が著しく改善された事は既に明かな事實である。そこには一九二三年の獨逸に於けるが如きインフレーションがなく、磅の如きもさまで長い時間を要せずしてひと先づ落ち着くところに落ち着いた。物價は磅の暴落する以前に於て豫想されたほどには下落しなかつた。そして貿易も又一時は大いに増進し、同時に他の諸國は、磅の下落に伴ふ英國品のより多き輸入を防止するため對抗的に關稅を課することになつた。昨年九月に於ける磅の暴落を知つてゐる英國人は茲に至つて再び不安の念に驅られ、斯かる情勢に對して政府は如何なる措置を採るであらうかと云ふ質問を發するやうになつた。勿論政府が如何なる措置を採るかはまだ明らかでないが、それは大體左の三項であるやうである。

(一) 磅價に對しては差當り特にこれと云ふ一定の對策を講ぜず、恒久的レヴェルに達するまで放任して置く。

(二) 獨逸の採つたやうな犠牲的手段に依り生産費の低減をはかる。

(三) 關稅及びその他の方法に依つて輸入の防止に努める。

その後、政府は貿易及び農業に關して二つの委員會を任命した。政府の財政政策は去る二月四日藏相に依つて議會に發表されたが、それは既に關稅を課せられてゐる品物、並びに或特殊の品物を除くの外、凡ゆる輸入品に對し一律に一割の關稅を課すると云ふのであつた。免税品の中に含まれるものは小麥、獸肉、ベーコン、羊毛及び原棉等の外、茶、獸皮、ゴム、鐵鑛その他主要ならざる少數の品物であるが、自治領からの輸入品に對しては當分關稅を課せず、又その他の植民地からの輸入品に對しては、永久に關稅を免除することになつてゐる。自治領からの輸入品に對して當分關稅を課せないことにしたのは、英本國と自治領との間に於ける關稅問題は來る七月のオッタワ會議(Ottawa Conference)に於いて決定することになつてゐるからである。

昨年十月舉國一致内閣が愈々仕事に取りかゝつた當時は總てが行詰りの状態にあつた。磅の下落と各方面の不安とに依り、如何なる事が起るかも知れないと云ふので、人々は戰々競々としてゐた。政府は恰も暗礁の多い海洋を航行する船のやうなものであつた。併し政府は敢然として難局に當つた。その第一着手として政府の採つた措置は輸入を防止することに依つて貿易のバランスを回復する方法を講ずる事であつた。さうした目的を以て政府は外國からの輸入品に對し向ふ一箇年間五割乃至十割の高關稅を課する事になつたのである。それに依つて昨年中に關稅を課せられた輸入品は恐らく三千萬磅乃至四千萬磅に達したであらう。

政府の關稅提案が議會に依つて歡迎されたのは主として提案者たるランシマン商相 Bunciman の練達に歸せなければならぬ。自由黨出身の關係であるランシマン商相の關稅提案は閣僚間に於て一致の支持を得たばかりでなく、鐵及び鋼鐵に對して輸入税を課すべしと云ふ保守黨内に於ける高關稅論者の主張を拒否することに成功した。英國に於ける新らしい關稅政策の新規軸は斯くして開かれたのであつた。

政府の任命した諮問委員會に關してもいろいろの非難があつた。ハーバート・サミュエルは諮問委員會は Abnormal Importation Act の施行期限が満了するに先き立ち、即ち今後數箇月中に關稅に關して提議する目的で、英國に於ける全工業に對し調査を行ふことになつてゐるが、さうした短時間に於て調査を行ふことは不可能であると云つた。又保守黨の領袖でポールドウイン内閣の關係たりし、アメリカ Amery は藏相は、餘りに諮問委員會に重きを置き過ぎてゐるが、それは政府にとつて一種の責任回避であると非難した。それから又アメリカは政府の關稅政策を評して、自分は政府の提案を歡迎するが、併しそれは生長した島ではなく、やつと羽の生えたヒヨコに過ぎないと皮肉つた。彼は更に、一割の一般關稅を以つてしては所期の目的を達することは不十分である。又諮問委員會は關稅に關して新しいスケールを立てることになつてゐるけれ共、それをするには相當の時間を要する。それよりは輸入品を二種、三種若くは四種に分ち、それに對して緊急關稅を課する方が簡單であると

云つた。

チエンパレン藏相は關稅案を提出するに際し、先づ英國の財政状態を説明し、世界的不景氣の英國の外國貿易に及ぼした悪影響と、外國に於ける關稅の引上、爲替管理、償金問題及び上海事件等に就いて述べ、それから又、英國に於ける失業者が依然として多數であること、鋼鐵業の不況、並びに造船業及びその他の工業の不振であることを指摘した。そして彼は最後に一九二九年に比し一九三二年の輸出貿易は約三十八パーセントの減退に終つたことを述べた。

これに對する藏相の政策は左の如く要約される。

- (一) 輸入を減じ輸出を増加することに依つて外國に對するバランスを取る。
- (二) 國民の何れの部分にも負擔を課せざる方法に依り、新たなる収入を得て財政の基礎を鞏固にする。
- (三) 工業及び農業の必要に應ずる目的を以て科學的にして、且つ穩健なる保護主義を採用する。
- (四) 前記の保護に依り國民をして生産及び分配に關し、より效果的な手段を採らしめる。
- (五) 磅の下落に伴ふ生活費の向上に對し、適當の方法を講ずる。
- (六) 關稅問題その他に關し、外國政府と交渉するの機會を政府に與へる。
- (七) 自治領が英本國に便宜を與へる代償として、英本國から自治領に相當の便宜を與へる。

斯うした提議（主として保護主義への轉向）に對して閣僚の間に意見の一致を見ることが出来なかつたのは當然のこととて、自由黨出身のサー・ハーバート・サミュエル（内相）Sir Herbert Samuel、サー・アーチボールド・シンクレア（スコットランド大臣）、サー・ドナルド・マクレン（文相）Sir Donald Maclean 及びスノーデン卿（前藏相現國庫大臣）はこの提議に對して何れも意見を異にしたのである。然し閣議の結果、これ等の意見を異にする人々は辭職しないことに決定し、その代りチェンバレン藏相の提案に對しては公然反對の態度を取ることになつた。

政府の保護關稅政策に對しては各方面から反對が起つた。先づ第一に閣内に於ける自由貿易論者はそれが恒久的の性質を有する關稅であると云ふ理由でチェンバレンの提案に反對した。その意味でサミュエル内相は二月四日、議會に於て堂々と反對演説をした。政府は緊急状態に直面して國家を救済するため附加税その他、必要なる措置を採るべき委任を與へられたのだが、然し貿易のバランスを保つと云ふことは多くの方法の中の一つに過ぎない。政府の恒久的保護政策は現在の状態に於ては決して是認せらるべきものではない、假りに貿易のバランスを保つために一割の關稅を課する必要があるとしても、その目的を達するには、提議されただけの品目では餘りに少ないと云ふのがハーバート・サミュエルの反對の理由であつた。

「第一に貿易のバランスと云ふことは單に一時的の問題であるが、保護關稅と云ふことは主要の問題である。第二に今回の提案は現在の緊急状態に關する一時的のものでなく、永久的の性質を持つてゐるものである。第三に今回の提案は製造原料の大部分及び食料に對し一割の關稅を課するのであるが、それが必要であるが賢明なる政策であるかは疑問である。」とハーバート・サミュエルは云つた。

それから五日目に非常の興味を以つて待ち受けられたランシマン商相の演説があつた。彼は自由貿易論者であるがさすがは實業家だけにさうした方面から立論してゐる。一割の關稅では貿易のバランスを保つと云ふ譯には行かないが、それにしても關稅に依つて三千萬磅の收入を得るのは頗る必要な事であると云つた。

「吾々は支出に相當するだけの收入がなければならぬ。然らざれば收入に釣合ふやうに支出を切り詰めなければならぬ。若し外國に於ける英國の信用が衰へるならば、英國民と英國工業は重大な影響を受けるであらう。實際英國の立場はだん／＼悪くなりつゝある。放つて置けば、どうにかならぬと云ふものは、最早一人もない。成行に任かして置けば、英國は安全な地位を保つて行くことは出来ない」と彼等は云つてゐる。

以上は關稅問題に關する衆議院の討議に就て、その一斑を紹介したのであるが、その外に内閣の責任に關する憲法上の問題がある。一體、普通の解釋に依れば重要問題に關して閣僚の間に意見の一致

を缺いた時は、少數派は當然辭職すべきものであると云ふ事になつてゐる。ところがサミュエル内相等は閣僚の多數と意見を異にしたに拘らず、辭職せず内閣に居居つてゐる。のみならず現にサミュエル内相の如きは大臣席から政府案に對して堂々と反對演説をしたのである。斯うした異常の行動に關し、衆議院に於ては労働黨の院内總務（前労働黨内閣の閣僚）ランズベリー Lansbury に依つて、貴族院に於ては保守黨のバンペリー卿 Lord Bambergy に依つて内閣彈劾案が提出された。これに對しヘルンシャム卿（陸相）Lord Halsam は内閣大臣が内閣に對して反對の投票をした先例を擧げ、殊に先年政府から婦人に參政權を賦與する法律案を提出した時、内閣大臣たるオースチン・チエンパレンとカーソン卿 Lord Carson とが反對した實例を擧げて彈劾案に反對した。

諸外國が自國品を賣ることに全力を傾注し、それと反對に外國からの輸入を防止することに努力してゐる限り、好都合の結果を期待することは出来ない。磅の下落から英國品の輸出が増進するであらうと思はれたのも東の間で、殊に佛蘭西、加奈陀、南阿弗利加、獨逸及び和蘭の諸國は早くも英國からの輸入品に對して報復的手段を採ることになつた。例へば石炭の如きは、佛蘭西や獨逸を始め、伊太利もポーランドも共に凡ゆる代價を拂つて英國の石炭と競争せんとしてゐる。又紡績の如きも、昨年十二月に於ける日本の金本位停止に依つて大に衝動を受けた。又支那に於ける反日本の感情から支那は今でもランカシャの紡績に對する市場として存在してはゐるが、これも上海事件のために大

な打撃を受けてゐる。

昨年は一九二二年以來最も多く賃銀の引下が行はれた年であつた。即ち労働省の調査に依れば全産業を通じて二パーセントの賃銀の引下が行はれたことが明らかになつてゐるが、今年に入ると同時に更に第二の引下が來たのである。その第一は船渠人夫で、彼等は今年の夏に頑として賃銀引下に反對し、そのために當時は實行に至らなかつたが、不景氣の影響から、今年の一月に至り、一日につき十片（約四十錢）の賃銀引下げに應ずることになつた。その他倫敦に於ては電車従業者の賃銀引下が行はれ、紡績業者の間にも労働者の従業時間を一週五十五時間半に延長する提議がある。但し時間の延長に就ては反對があるので、未だにそのまゝになつてゐる。

一方、産業界の狀態を見るに、金本位の停止以後、磅の下落に依り輸出貿易の増進が豫想され一時は大部樂觀説が多かつたが、その後の經驗は事實に於てその然らざることを示してゐる。現に本年一月二十五日の統計に依れば失業者の數は昨年十二月に比し二十一萬八千人の増加である。左に昨年の九月二十一日と十二月二十一日に於ける失業者の職業別とそのパーセンテージを示す。

職業	九月二十一日	十二月二十一日
炭 鑛	三〇・四%	二四・六%
紡 績	四五・八	二七・四

毛織物	三五・五%	一六・六%
絹織物及び人絹	三六・九	二二・六
リンネル	三二・六	一九・八
纖維織物	四八・三	三六・六
靴下製造	一八・六	一〇・七
レース	二四・二	一四・三
鎔鋼及び製鐵	四九・二	四五・四
電氣機械	一五・〇	一五・一
自動車	二三・六	二二・二
造船	五八・二	六〇・一
船渠、港灣及び河川業	五八・二	六〇・一
建築	三二・五	三四・七
工事請負	三一・〇	三五・六

一方、輸出品は外國に於ける關稅の引上、輸入品及爲替管理等に依つてその出口を塞がれてゐる。磅の安定と新關稅の設定に依り國際市場は相常活氣を呈してゐるが、輸出に至つては依然として前途

の見通がつかない。

### 第三節 印度保護關稅

輸入砂糖に少額の關年を課するのは、歐洲大戰前に於ける印度關稅政策の特色であつて、一八九四—一九五年から一九一五—一九一六年までも、砂糖の關稅は綿製品並にその他の輸入品と同じく、僅々五%に過ぎなかつたのだ。が一九一六年三月に至り、輸入關稅率を全般的に改訂して、砂糖を一躍十%に倍加し、その他の輸入品稅を五%から七%半に吊り上げた。一九二一年三月には再び砂糖關稅を百十二封度(Cent)につき四ルピー八アンナの特別稅に變じ、その後凡そ五箇年間この稅率を持續した。が、一九三〇年に尙ほこの稅率を、百十二封度につき六ルピーに高めて一箇年間据ゑ置いたから、そこで一九三〇—三一年のカルカッタに於けるジャワ白砂糖百十二封度の卸賣相場平均十二ルピー内外であつたとすれば、結局當時の關稅率は百二十%に相當してゐるのである。又一九三一年三月にも關稅は百十二封度につき七ルピー四アンナに吊り上げられたが、併し乍ら同年四月、五月、六月のカルカッタ砂糖相場は、前年度のそれと大差なかつたから、そこで同年の關稅率は百五十%以上に當つてゐるのだ。これ等の關稅が、總て從價率(ad valorem rate)になつてゐることは固より云ふまでもなからう。

そこで一九一六年以後に於ける印度の關稅が重要な目標となつたことが明らかであつて、これは凡そ左の二理由があつたらしい。その理由の一つは、近年茶や珈琲並にその他の飲料などに砂糖を加味して飲む習慣が益々都會人の間に行はれるやうになつたので、この半ば贅澤品に對し、割合に高率の稅を課するもさまで消費者を苦しめない、と當局者が考へたからであるやうだ。

實際一九〇〇—一年の砂糖輸入量は、白糖、賴糖、及び黒糖を通じて僅に二十萬噸に過ぎなかつたが、一九〇九—一〇年には六十三萬噸に激増し、大戰中及び戰後は、様々なる理由から多少減少したけれども、一九二三—二四年度になつて更に増加の傾向を示し、一九二三—二四年から一九二五—二六年に至る四年間には、平均五十八萬二千噸の輸入となり、一九二六—二七年から一九二八—二九年までの三年間に平均七十九萬三千噸、一九二九—三〇年には九十四萬噸に激増したのである。併し乍らその間に於て輸入關稅率は五十%から百%以上に高まつてゐた。さう云ふ有様であるから、印度政府の財務官が、砂糖の輸入關稅に益々着眼するやうになつたのも必ずしも無理ではない。

一九〇〇—一年に於ける砂糖の輸入稅取立高は僅々五百三十萬ルピーに過ぎなかつたが、併し乍ら一九二九—三〇年の砂糖關稅收入は八千七百萬ルピーに達したのであつて、即ち同年度に於ける印度の全關稅收入總額(鹽の收入を除く)五億二千二十萬ルピーの中で綿製品の關稅收入は十二%を占めてゐるに對し、砂糖はそれよりも多くして十七%を占めてゐるのである。以て砂糖の關稅收入が、如何

に多く印度の財政を助けてゐるかを解るであらう。

印度政府當局者が砂糖に高率關稅を課するやうになつた第二の理由は、印度の關稅率は決して高いとは云へない、と考へたからであるらしい。現に印度の財務官は、一九三〇—三一年度の豫算を立法會議で説明したる際「輸入糖百十二封度に九志の關稅を課するのは、英本國、合衆國、獨逸、佛蘭西、澳地利及び濠洲等に比べても、敢て高率とは云へない。而已ならず却つて寧ろ低きに過ぐる。と云ふのは、これ等の國々の中で、最も低いのは佛蘭西の百十二封度につき八志六九から、最高は獨逸の十二志七片に達してゐるからである。されば印度のやうに、各産業が未だ十分に發達しない國として、九志の課稅は寧ろ低率に過ぎる位だ」と述べたのである。

斯やうに砂糖の輸入關稅は、近年益々印度の財政家に依り重要視せられるやうになつたが、而も輸入關稅と印度砂糖業との關係に就ては、尠くとも一九三〇—三一年までは、未だ何人にも研究され、若くは考察されたことがなかつたやうだ、現代の甘蔗糖栽培を成功させるにはジャワや布哇や玖馬などに於けるやうに、主として高度に發達したる農業方法と、有效に組織され、且つ完全に統制された製造機關とに依るの外はないので、印度の政府當局者もこの點に鑑みるところあり、過去二十年の間、その注意を専ら甘蔗の栽培法或は、砂糖の製造法などに傾けてゐたのであつて、未だ曾て間接的、人爲的且つ不明確な關稅に依り、自國の製糖業を發達させやうなどは夢にも考へたことがなかつたのだ。

そしてそのために、印度の製糖業が、既に可なりの發展を遂げ得たことは歴然として明らかであるから、尙ほその方面の改善は汝々として倦まなければ、例へ關稅の保護を得ないにしても、近い將來には、立派に自立が出来るであらうと考へられたほどである。が、併し乍ら關稅の保護は、却つて印度の製糖業を墮落させた觀さへないでもない。と云ふのは、これまでの厚い保護に狎れて、印度の製糖業は、何時までも能率を増進したり、生産費を切り詰めたりしやうとする努力を起しさうもなかつたからである。

然し印度の製糖業を保護するやうになつたのは、次のやうな互に關聯せる幾多の理由があるやうである。

(a) 印度が甘蔗植付地域を維持するのは、多くの重大な理由から非常に望ましいのである。第一に、甘蔗栽培は灌溉や肥料などを潤澤したる上に、且つ鋤入れを十分にしなければならぬので、そのために、集約農法を擴張したり、且つ土地の資源を一層能く利用したりすることが出来て、印度の小作農民の經濟的境遇を改善するに餘程役立つものである。

第二に、印度政府は如何ほど努力しても、世界の經濟事情に支配されること極めて大なる小麥、米、黃麻、棉花等の物價下落を押へ止めることは出来ないが、而も現に外國から買入れてゐる約百萬噸の砂糖を驅逐するやう、國內の製糖業を獎勵すれば、砂糖の價格を維持することは出来るのである。第

三に、今や農民は綿花や黃麻や米などの物價暴落に依り、非常な經濟的難關にあるので、せめて砂糖の物價なりとも相當程度に維持するやう救濟方法を講ずべきである。

第四に、甘蔗の刈入れは十一月に初まつて、翌年四月中旬まで繼續し、つまり、秋冬の農閑期に於て、農民や家畜などに仕事を與へる。その上に、甘蔗の葉は牛の飼料となるので、平常、これ等の飼料に乏しい印度にとり、甘蔗栽培の獎勵は眞に一舉兩得である。最後に、農民の殆んど總てが窮乏に瀕して、地租や、灌溉費等の徴收も困難になつたため、そこで印度の各地方廳は、砂糖價格を人為的に吊上げて、小作農民の收入を増加するやうにすれば、勢からず現時の窮狀を緩和することが出来るだらうとの見解を有するに至つたのである。

(b) 一九〇八—一九九年から一九二八—一九二九年に至る二十年間に、砂糖の價格に騰落があつたに拘らず、印度の甘蔗植付地域は殆んど同じで、二百二十五萬英町乃至三百萬英町の間を上下してゐるから、今後甘蔗の生産過剰に依り、糖價が下落すれば、甘蔗植付面積も又縮少しはしないかと氣遣はれてゐる。故に、出来るだけ糖價を人為的に吊り上げ、甘蔗の栽培地域を減少しないやうにすることは印度のために極めて大切な事である。

然らば果してどの程度まで砂糖の價格を吊り上げてべきであらうか。これを決めるには、勢ひ先づ甘蔗の生産費を知らなければならぬが、然しこれは同じ印度内でも地方に依つてそれ／＼に違ふから

一概には云へないやうである。印度の地方農林部の報告に依れば、一九三〇—三一年に於ける甘蔗生産費は、コドラスに於て一マウンド（八十二・二八封度に相當す）に付き七アンナ（一アンナは凡そ我が五錢に相當）ポムペーは十・四アンナ、ベンガルでは七アンナ、パンジャブでは五・五アンナ、ベハル及びその他の白糖生産地方では四・五アンナ、ベンガルでは七アンナ、パンジャブでは五・五アンナ、ベルル及びその他の白糖生産地方では四・五アンナと云ふ事である。が、關稅評議會は大體上、甘蔗の生産費を一マウンドにつき四・五アンナが妥當であると考へてゐるらしい。勿論その上に尙ほ工場までの運搬費及び各種の損失費として一マウンドにつき二・五アンナ、農民の利潤として一マウンド一アンナを見積らなければならないから、結局白糖一マウンドに付き八アンナを支拂はなければ、農民はその栽培を悦ばないであらう。

又同じ甘蔗でも、その含有する糖分には多少の差等があり、且つこれを製造する生産單位にも、各地方及び各工場に依りそれ／＼の相違があるので、これも一概に云ふことは出来ない。が、印度の各地方及各工場を通算するに一九三〇—三一年に於ける砂糖一マウンドの生産費は甘蔗及び他の原料代、勞働賃銀、動力及び薪炭費、監督及び事務費、修繕費若くは損料、荷作費、並にその他諸雜費を加へると、凡そ八ルピー餘となるのであつて、その上に利潤を十%と見做すと、合計、十ルピー内外に達する譯であるけれども、その代り、糖密代として若干の収益が浮いて來るから、そこで結局、砂糖

一マウンドの「正當な賣價」は九ルピー弱としたのである。

然し乍ら實際、一九三〇—三一年のカルカタ砂糖卸賣最低價格は、一マウンドに付き七ルピー十五アンナであつたから、そこでこの中から經費（一マウンドに付き四ルピー六アンナ五バイ）、陸揚費（一マウンドに付き三アンナ）運賃及び保險料等を控除すれば、剩すところは高々一マウンドに付き、三ルピー半乃至四ルピー以下であらう。一九三〇年の末頃に、世界の主なる砂糖輸出國が、生産費を割るほどの糖價崩落に悲鳴を擧げたのも、決して無理ではない。又一九三〇年十二月ブラッセルに開辦された國際砂糖會議（International Sugar Confere）が、砂糖の生産と輸出を制限して、糖價を吊り上げやうと企てたのも、固より當然のことである。

が、それにして印度政府の高稅關率は、果して國內の砂糖生産を、幾何程度まで保護し、それに依つて助長し得るであらうか。これは今後の事實に依つて徴するの外はない。

#### 第四節 印度産業保護策

印度の三大産業たる綿、鋼、糖業の現状を分析的に觀察するに、その何れも事業組織の原理及び機構に重大な缺點があつたり、人事行政及び機械設備に不完全なところがあつたり、現代式の販賣方法を採用し得なかつたり、且つ固定資本が餘りに多過ぎて、そのために、經常費が過大に陥り易かつた



りするので、幾多の缺陷を暴露してゐるのは、遺憾と云はなければならぬ。これ等の缺陷の多くは勿論、産業經營の任に當つてゐる人々の無思慮、無氣力、見當違ひ等に由るのであるから、従つてこれ等の人々に、その匡正救済を求めやうとするのは、恰も木に縁りて魚を求むるの類と云ふべきであらう。それで著者はこれ等缺陷の匡救を、寧ろ産業そのもの、生産と分配を一層合理的に計畫したり、且つ一層有効に協調させたりすることに求めたいのである。

實際、一九二七年の國際經濟會議で、世界の有名な事業家や經濟學者などに依り、滿場一致推奨され、且つ北米合衆國、獨逸、英國及びソツエト露西亞等の卓越した企業家達に依り、着々と實行された所謂「合理化」なる事業組織の新原理を印度の各産業にも應用して、その全體の改造刷新を圖るのは、印度の産業指導者にとつても又大いに必要ならしめはしないだらう。

けれども産業の合理化とか、事業の計畫化など云ふ事は、縦へ如何ほど有効で且つ有利なものではあつても、固より總ての場合に、一樣に適用さるべき千篇一律のものではないから、従つて各種の企業に依りそれ／＼違つた様式を持たなければならぬ。最近或著述家が、合理化若くは計畫化を説明して、これ等は要するに、研究と先見と統制とを、無知と混沌とに代へることに外ならないと喝破したのは、至言と稱すべきであらう。つまり、合理化を若くは計畫化を、個々の企業に適用したる場合は、科學的經營となるのであつて、何れも名稱は違つてゐるが、その内容は同一であるのだ。換言す

れば、事業の合理化とか、計畫化とか、或は科學的經營など云ふことは、總て出鱈目な行き當りばつたりな仕方を用心深い理智的な態度に改めることに外ならない。

それで苟くも一國內の各産業を合理化しやうとするには、是非ともこれ等産業の總てを、互に有効に協調させたり且つ有機的に統一したりするために、國家の政治的權力を發動させる必要がある。けれども個々の各事業を一部分的に合理化したり改造したりするには、宜しくこれ等各事業自らの發見や裁斷などに委ねるべきだ。さう云ふ譯だから、國家内に於ける總ての基本的大産業に對しては、その原料供給なり生産高なり、滯貨なり、價格なり、賃銀なり將た雇傭關係なりの一切を、政府が監督して、これ等に關する詳細な報告書を作製させ、斯くて國內的にも將た國際的にも、貨物の生産と消費若くは供給と需要を、出来るだけ有効に協調適合させるやう努めることが、差當つて國家産業合理化を仕遂げる第一歩と云はなければならぬ。

又國家の經濟情報部 (Economic Intelligence Service) は、他國に於て産業合理化の原理を適用することに依り採用した最良の方法や、且つ最も確定的な結果などを、國內の凡ゆる重要な産業に詳しく報導する傍ら尙ほ出来る限り、世界の一般的産業界に發生する一切の變化を、時々刻々に知らせる事に努むべきだ。一國の重要産業を保護し、又更に助長するには、斯くすることが先づ政府の根本義務若くは特策であつて、輸入關稅を設けたり、保護金を與へたりするのは、抑も末であり、且つ愚策であ

ると、著者は断定するに憚らない。何故ならば、この種の保護法は、畢竟、國民の總てから奪ふて、一少部分に與へるものに外ならないからだ。

が、それでも強ひて産業を保護する必要があるならば、保護の負擔を出来るだけ公平ならしめるためや、又公の資本を國民生活の各方面に、成るべく合理的に分配するため、著者は關稅増設よりも寧ろ保護金下附を一層好ましいと思ふのである。保護金下附であれば、教育費や衛生費なども同じく、新たに一課若くは一局を設けて、これを政府の一般行政方針の下に管理して宜いであらう。

何れにもせよ、印度政府が生活必需品や生産用の原料などに消費税を課して、巨額の國庫收入を得つゝあるのは、全體の稅制を時代は進歩と甚だしく逆行させてゐるものと云はなければならぬ。何となれば、この種の稅法に依り、生活必需品の物價が益々騰貴して、國民收入の大部分は、一般消費者（その多くは辛じて露命を繋いでゐる人々）の手で、極めて少數の金融家、或は企業家や、資本家などの懐中に落ち、斯くて貧富の懸隔を、彌やが上にも甚だしからしむるからである。財産及び收入が増大するに伴れ、益々稅率を高めやうとする所謂累進課稅法なるものこそ、實に現代人の理想ではないか。

### 第五節 印度製鋼業保護條令

一九二四年の鋼業保護條令は僅々三箇年間だけ、即ち一九二七年まで效力を有するに過ぎなかつた。が、その理由は、勿論、一部の關稅創業者達が考へたやうに、この短期間内に印度の製鋼業が立派に發展して、最早や國家の保護を必要としないやうになるだらう、と考へたがらでは決してなく、却つて當時の鋼相場が、國內的にも、又國際的にも亂調子を告げ、尠くとも數年以後の商況を豫測するに依らなかつたからに外ならない。のみならず一九二四年十一月並に一九二五年六月の二回に亘る調査に依れば、印度の鋼業は、未だ容易に自立し得る程度に達しないと、云ふことであつたのだ。そこで一九二六年下半年に、件の關稅評議會は、再び印度の製鋼狀況を調査して、尙ほ保護を繼續する必要があるか何うかを報告するやう、印度政府から委嘱されたのである。

而して詳細に調査を遂げた結果關稅評議會は斯う云ふ事實を發見した。即ちタタ鐵鋼會社はその工場費を、一九二六―二七年度に可なり節減することは出來たが、尙ほ將來他の方面に節約すべき點が尠くないと云ふことであつた。成程、短期間内に所謂大擴張計畫なるものを仕遂げて、現代式の能率ある工場に依り、動もすれば調和と均衡を缺くやうになつたことも、又見通し得ない缺點と云はなければならぬ。その上に、何時までも設備不完全な舊工場を利用しやうとするのは、却つて不經濟で浪費が多い。

これ等の缺點は會社自らも夙に氣づいて居つたので、一九二六年に經費三千六百八十萬ルピーの豫

算で、更に發展計畫なるものを樹立し、第一には工場内の活動若くは機械を圓滑ならしめ、第二には工場内に補助機械を据え付けることに依り、出来るだけ生産能率を高むるやうに企てた。が、この發展計畫は、一九三一—三二年度にならないと、十分に實現しないため、そこで眞に最高の能率を擧げるのは、一九三三—三四年度になつてからだと期待されてゐる。さう云ふ理由に依り、關稅評議會は次回の保護條令を、一九二七—二八年から一九三三—三四年に亘る七箇年間、有效ならしむるやう制定して欲しいと印度政府に勸告してゐるのである。

仍つて更に印度政府は一九二七年、鋼業保護條令を發布することになつたのであるが、今度の條令は前のそれと聊か選を異にし、輸入鋼品の價格に大變動があつた場合、これに適應するやう、各種鋼品で關稅率を臨時に變更し得る權能を政府は賦與されたのである。所謂變通自在な關稅なるもの即ちこれで、この關稅法を採用することに依り、初めて印度政府は輸入鋼品の價格が低廉なほど、益々關稅率を増加して内地製鋼を保護することが出来たのである。その一例を擧げると、一九二六年に於ける印度製鋼板（亞鉛鍍金したる）の「正當な賣價」と、輸入鋼板との差は一噸三十ルピーであつたが、然し乍ら一九三〇年にはその差が六十七ルピーにも達したので、茲に於て一九三〇年九月直ちに輸入關稅をも一噸三十ルピーから六十七ルピーに吊り上げた如き、その一斑である。

斯くて印度の製鋼保護は、一九二四年には主として製鋼業者に保護金を與へ、一九二七年には主と

して關稅調節に依り、その目的を一通り達成することが出来た次第である。が、然らば保護金を與へること、輸入關稅を調節すること、は、何れが最も効果的であるかと云ふに、それは固より時と場合に依り、如何様にでも解答し得る問題であるから一概には言へない。で、或時は保護金を與へる方が效果的なこともあるし、又或時は關稅を増加する方が有利なることもあると云ふの外はないだらう。又多くの場合は政府の一般財政計畫に依り、決定されることを知らなければならぬ。

一九二一—二二年に經費の財政委員會が、輸入關稅よりも保護金を與へる方が、製鋼業の如き基礎産業を救済する最上の方法だ、と政府に勸告したのは、鋼が多くの重要な産業の原料だからでもあつたし、又印度には唯だ一つの製鋼會社（即ちタタ鐵鋼會社）があつて、割合に少量の鋼を産出してゐるだけであつたので、保護金を與へることが經濟的にも安値であり、且つ行政的にも簡便であつたからに外ならない。換言すれば、即ち經濟と簡便といふ理由で、印度に於ては製鋼業者に保護金が下附されるやうになつた譯だ。

だから、さう云ふ點に於て、保護金下附は確かに關稅増加よりも、一層效果的でもあれば且つ有利でもあるが、然し乍ら印度の關稅評議會は、その一九二四年及び一九二六年の報告書に於て、保護金を與へることは、印度政府の財政上實行し得ないと云ふて、反對をしてゐるのである。而もその反對論たるや、論旨が極めて曖昧朦朧で、見當違ひの點が尠くないのを遺憾とせざるを得ない。若しも保

護金下附制が一般納税者にも安値で宜しいと云ふなら、直ちにこれを採用して、國庫の収入は保護關稅よりも寧ろ他の直接稅に求めたら可いではないか。

然し乍ら關稅評議會と、これを傀儡とせる印度政府とは、最後まで輸入關稅に保護金下附制を代へることを、衷必では悦ばないものゝ如くであつたが、その理由を知るには左程困難でない。何となれば、これまで收入稅や財産相續稅など、云ふ直接稅を、十分に發展させることに甚だしく手を焼いた印度政府は、如何なる口實を設けても間接稅を増加するの外に方法はなかつたのであるが、恰も好し、印度の立法部が産業保護政策を採用するやうになつたので、渡りに舟と直ちに輸入關稅を設けて一方では國庫の收入をこれで補填する傍ら他方では産業の保護を企てやうとする。つまり一石二鳥を打つ政策を最も望ましいと考へたからである。

斯くて一九二一—二二年度から三〇—三一年度に至る十年間に、印度府府は關稅收入を三億四千四百十萬ルピーから五億三千四百萬ルピーに、即ち五十五%だけ増加させたに拘らず、而も收入稅の取立高は、依然として一九二一—二二年度の平準に止めたのである。印度政府が如何ほど直接稅の徵收に手を焼き、その結果、己むなく關稅の如き間接稅で、その國庫收入の大部分を賄はんとしたかは、これを見ても明らかであらう。

が、然し産業の保護政策を、尠くとも經濟原則と一致させやうとするのは、輸入關稅にせよ將た保護金下附にせよ、單に政府の財政的立場のみより考案すべきでなく、又それが一般消費者の上に及ぼす影響如何をも考慮に入れなければならない。實際消費者なるものは、必要な知識も且つ組織もないため、自分の懐中から金錢の一部分が資本家若しくは事業家のポケットに轉げ込んでも、これを防止する有效な方法すら知らないのである。況んや政府と大資本家若しくは大企業家の利益が一致したる場合である。が、然し善良なる政府は如何なる場合に於ても、先づ國民全體即ち一般消費者の福利増進を急務とすべきだ。

## 第六章 海運政策

### 第一節 船舶特惠と海岸線

船舶に對する特惠は、英國の慣行にない新らしい例を開いたものである。英國は多年、外國船舶の自由入港を許可してゐた。英國の立場は、船舶に對する補助（航路補助にも）に反對であつた。戰爭前に於ては、英國は然し獨逸船に對して直接若くは間接に補助を與へることに抗議し、戦後は米國に於ける船舶管理局の遣方に對して、幾度も抗議をしたのであつた。然し乍らその他の國々も獨逸に倣ひ、自國の商船に對して補助を與へ、英國の抗議を拒否したのであるが、今回英國は結局、他の方法に依つて船舶に對する補助を實行することになつたのである。

例へば加奈陀の船が小麥を積んで、加奈陀の港から英國の港へ這入つたとする。その場合、その小麥は無税である。然し同じ加奈陀の小麥でも、米國を經由した場合は、一クオーターに付いて二志の輸入税をも課せられたのである。その結果、加奈陀の小麥は、加奈陀の鐵道に依つて輸送され、加奈陀の港から英國に向つて積み出さなければならぬことになる。以前は加奈陀から英國へ小麥を送る

には、冬季に在つては一旦バッアアローに在る倉庫に入れ、然る後、必要に應じて、鐵道でそれを米國の港へ輸送し、そこから船に積んで英國へ送つたのである。これは冬季中、加奈陀の小麥を英國へ送るのに最も費用のかゝらない方法であつた。

然し乍ら船舶に對する特惠協定に依り、今後米國を經由して英國へ送られる加奈陀の小麥は、英國に於て特惠を受けることを失ふことになつた。斯うした方法は、妙くとも一時の辦法として、今後世界中に擴まるであらうと思はれる。若しこうなると、さうでなくてはさへ船舶が多くなり、従つて英國の船舶も多分にその影響を受けるであらう。そこで英國に於ける船舶の持主は、政府に向つて救済を要求するのであらうが、それに對する最も簡単な方法は、英帝國の船舶に對して特惠を與へることである。

次は海岸線の統一と云ふことであるが、この問題はまだ運動時代であつて、實行期に這入つてゐない。海岸線の統一とは、四方海を以て圍まれてゐる國の海岸を、云はゞ一つの繼續體と見るのである。米國では法律を以て、米國の大西洋沿岸と太平洋沿岸とを一つの繼續體と定めてゐる。即ち外國船に對しては、大西洋沿岸の港から荷物を積んで太平洋沿岸の港に入ることを許さないのである。つまり外國船は沿岸貿易をすることが許されてゐないのである。

然し乍ら英國では今のところ、さうした制限は設けてゐない。即ち米國の船舶は濠洲から貨物と旅

客を載せてニュージブランドへ行き得るのであるが、英國の船舶は桑港からの貨物と旅客を、ホノルルへ運ぶことを許されないのである。これに對し、英國の船舶所有者と、議會に於ける彼等の代表者は、さうした差別的待遇に付いて政府の注意を喚起し、今後英帝國の海岸線は、何れのところも繼續體と見做すべきであると主張してゐる。若しこれが實行されるやうになれば、それだけ外國船は制限を受けなければならないであらう。

### 第二節 船舶過剩問題

世界經濟會議延期のため、この問題解決の好機會——主要海運國間に於ける多方面的行動——は失はれた。船舶及び海上運輸に對して補助金を與ふことは、主として戦後に於ける經濟的國家主義の生産物なのである。それ等は或は原因として、或は結果として、船舶積荷及びその利益の減少に關係を持つてゐる。現在海上貿易に對して甚だしき過剩の載力の存することは、各國政府の補助政策に負ふところが尠くない。

一九一三年から三一年に至る間に於て、國際海上貿易のために使用せらるゝ船舶の噸數は五割八分の増加を示したが、船舶の平均速力の増大せると、その構造法の一層經濟的になれるとのために、その運輸力に至つては、七割五分の増加となつてゐる。然し乍ら現在運送せらるべき貿易品の量に至つ

ては、一九一三年に比して一割五分の増加をなせるに過ぎない。現在國際貿易に使用せらるべき船舶の噸數は五千二百萬噸に上るが、實際使用せられつゝあるはその三分の一に過ぎない。

過剩船舶の競争のため、不定期船の積荷は、一九三二年に於て七分を減少し、戦前の平準からも低きこと二割である。これに反してその活動の費用に至つては、戦前から増加してゐる。最近、船員の俸給賃金が減額せられたるに拘らず、尙ほこれを戦前に比較すれば六割の高値である。斯やうな事情の下に於て大汽船會社の倒産せるものも少なからず。海上運輸の業は依然沈滞を續けつゝある。

問題が世界的のものであることは、次に掲ぐる各國の繋船表を一見すれば直ぐに判る。その所有船舶の大部分を使用したのは獨り日本あるのみ。日本がその所有船舶の大部分を使用し得たのは、主として、滿洲及び北支那に於て活動したがために外ならない。船舶に對して補助金を與ふる、その他の諸國即ち米、佛、獨、伊等の諸國に於ては、その船舶の大部分は空しく港灣内に碇繋せられてゐる。最悪の違反者なる米國は最も高き分け前を持つてゐる。

一九三二年末に於ける各國繋船表 (單位百萬噸)

國名	所有船舶數	繋船數	割合
英 國	一九・六	三・二	一六
米 國	一二・七	三・八	三〇

佛蘭西	三・五	一・〇	二九
獨逸	四・一	〇・九	二二
和蘭	三・〇	〇・八	二六
諾威	四・二	〇・七	一七
伊太利	三・三	〇・六	一九
瑞典	一・七	〇・三	二〇
西班牙	一・二	〇・三	一七
ギリヤ	一・五	〇・二	一六
日本	四・三	〇・二	五
デンマーク	一・二	〇・二	一六
其他諸國	八・一	一・二	一五
合計	六八・四	一三・四	二〇

以上の數字に依り、船舶過剰の状態が如何なるものであるかと略ぼ判るが、それに依つて、三個の問題が生ずる。第一は、過剰の船舶を處理すべく、何等か適當の方法を講じなければならぬと云ふこと、第二は同一線路に於て、過度の競争の行はるゝ場合には、無益の競争を避け、サーヴィスをし

て合理的ならしめんがために、各社間に協約を結ぶ事の必要なること、第三は、即ち政府の補助金の廢止に依つて、競争のため公平なる事情の維持せらるべきことである。

或國に於ては、既に過剰噸數削減のために、政府から援助を與へることにしてゐる。

獨逸政府は昨年過剰噸數削減のため、一噸三十マークの割合で獎勵金を附與すべく、千二百萬マークの豫算を計上した。故に最大限度四十萬噸を削減し得る筈である。日本に於ても、一九三二年十月の勅令を以て、舊船の廢棄二噸に對し、新船一噸の建造の割合で、獎勵金を附與すべく、一千萬圓の豫算を計上した。新船の建造に對して附與せらるゝボーナスは一噸四十五圓乃至五十四圓で、四十萬噸の舊船を廢棄して、二十萬噸の新船を建造せしめんとする計畫である。伊太利に於ては、一九三一年及び三二年の勅令に依つて、四十萬噸の削減に對し、一噸二十五リラの獎勵金をも與へる筈である。斯くして以上三國の削減計畫に依つて約百萬噸の削減を見る筈である。

### 第三節 船舶補助金問題

この問題に付て、英帝國が共通の政策を執ることは最も必要である。全英帝國協同の宣言は、英本國だけの宣言に比すれば遙かに有力であらう。領土地球上に散在し、全世界の船舶の約三分の一を有する全英國が一致の海運策を執ることは、相當困難な問題であつて現に各自思ひ／＼の行動をなし、

共同政策を持たない。而も彼等の凡てが、最も重大なる利害關係を有する海運政策に關して、彼等が協同一致することが出来なければ、利害關係のより少なき政治經濟上の問題に付いて一致の行動に出でんことは更に困難なりと云はざるを得ない。

船舶及び海運に關しては、全英國の運命に關する更に重大なる方面がある。英國の商船は、その國防上重要案であつて、戦時に於ては、その供給線は、即ち全英國の大動脈なのである。英商船隊を保護する海軍自身は、それに食料と、軍需品と、石炭とを供給する適當なる商船なしには、その職分を遂行することは出来ない。

昨年六月、英國船舶協會の特別委員會は、一個の報告書を公けにしたが、その結論に於て、或國々の政府が、随意に、その國內に於ける過剰船舶を削減せんとするは有益の企てに違ひないが、十分に効果あらしめんためには、これを國際的にして、出来るだけ多數の國家をして、これに参加せしむることが必要であると述べてゐる。委員等は、船舶所有者の參考に供する目的を以て、二個の原案を提供してゐるが、一は國家的削減方法にして、他は國際的緊縮案である。

第一の方法を實行せんがために、荷物を積載して、英國の港灣に入り来る英國旗を掲ぐる一切の船舶に對して、政府の機關を通じて、一様に噸税を徵收する事とする。又、破却のために、船舶を購買せんがためには、船主を代表する一個の機關を設けて、その責任に當らしめる筈である。國際的緊縮

案も大體に於て、同様であるが、只だ異なるところは、この計畫に参加する各國の政府は、その港灣内に入り来る一切の船舶から噸税を徵收し、その資本は國際代表委員會に於て處理ことである。需要供給の平均を維持せんがために、何時まで、どれ程の噸税を取捨選擇すべきやを決定するを要する。報償は、破緊せる噸數に應じて支拂はれてゐる。

以上の方案に對して、英國の船主中反對するものが尠なくない。此處にその議論を詳述する譯には行かないが、その要點を一言に云へば、以上の計畫に参加せざるものに對しては、只だ彼等が倒産するか、拋棄するかを俟つの外はない。而も船舶業に於て、はこれ頗る氣の長い語である。それには種々の理由がある。一例を擧ぐれば、破緊のために賣却されたる船舶が、外國の不定期海運業者に依つて購買せられ、競争線路に於て使用せられることを防ぐ譯には行かないと云ふことである。

佛蘭西の提案は、主として、定期航路の運輸を合理化することであつて、世界經濟會議に於ける佛國の代表者は左の如く陳述してゐる。

國際汽船航路に於ける競争は益々激甚となり、各國各會社争ふてその噸數と速力を増加するのみならず、その料金を於ても、危険なる競争を事とする結果、船主も國家も、共にその豫算の上に影響を蒙むらざるを得ない。仍て我等は會議に左の諸項を提案す。

(一)經濟會議は各國の政府が、その船主等を勸めて、主要航路に對して、協約を締結せしめ、將來



建造せんとする噸數に制限を加ふるに至らんことを要望す。その協約の實行に關しては、各國の政府は監督の責めに任ずべし。

(二)經濟會議は、各國政府が、その國旗の掲揚、航路の決定、時間表、賃金率、協約に指定せらるる船舶の噸數、速力、娛樂等に關して協同的の行動を執らんことを希望する。

(三)經濟會議は、實行せらるべき監督の最良法は、營業の收支金をカッターする協同計算の方法を執るにありと思考す。

右の提案に對する主要の故障は、各國政府の補助金に依つて、各會社間の正當なる競争が防礙せらるゝ間は大きくて效能がないと云ふことである。それは尤もな議論であるが、故に英國の大會社は各國政府がその航路に對して、補助金の支給を廢止することを先決條件となし、それが實行せられるまでは、右の如き計畫に加入せざることを宣明するが當然である。

各國政府が船舶の建造と、海運業に對して、補助金を交附することを廢止せざる間は、何程、過剰噸數處分の方法を講じても駄目である。然らざれば淺深する跡から泥が塞がつて行く。この點に於ては、英國とても決して罪がないとは云へない。何となれば、産業助成法の下に、造船事業に對して低利(五分)資本を貸與へたことがあるが、その利子は當時に於ける市價よりも二分程低廉である。斯様にして貸出されたる資本の總計は三千七十五萬磅に上つてゐる。その法律の廢止せられたのは、一

九二七年三月の事であつた。次に英國と各國間の郵便契約は大體に於て商業的基礎の上に立つてゐる。

一九三一年に於て、日本政府が、郵便物を運送せる船舶に交附したる金額は二百六十五萬圓で、一九二〇年から三二年までの分を合計すれば一億五千五百萬圓に上る、一九一三年から本年度に至る間に於て、日本の商船は、百七十萬八千噸から四百二十五萬八千噸に増加してゐる。

獨逸に於ては、一九二八年以來、同國の商船に對して、鐵道運賃に於て、特惠を與へることにしてゐる。昨年、獨逸政府は、最高七分八厘の利子を以て、七千七百萬マークを貸出すことに依つて、主要航路の擴張を獎勵することにした。同國政府が造船及び海運のために貸與又は交附したる金額は一九二八年以來、千二百萬磅に達してゐる。ノルド・ドイツ・ロイド及びハムブルグ・亞米利加線は今や實際に於て、政府の經營に係ると云ふても差支ない。

伊太利は、主として、郵便契約の形式に於て、補助金を與へることにしてゐるが、一九二〇年から一九三二年に至る間の合計は二十五億二千九百萬ソレ(二千七百萬磅)に上つてゐる。以上の外、新造船或は購買のために交附せられたる金額は、一九二七年から三二年までの間に於て、六億三千二百萬ソレ(七百萬磅)に達してゐる。

佛國政府は、一九三一—三二年度の豫算に於て外洋郵便助成金として、一億九千六百萬フラン(百六十萬磅)を計上してゐる。その航路は、主として、極東、濠洲、ニュー・カレドニア、亞米利加沿

岸、東部地中海、ブラジル、アルゼンチナ等に達するものである。郵便契約のため、商業的價值以上と與へられたる金額は、一九二七年から三二年までの間に、七億七千五百萬フラン（六百五十萬磅）に上ると計算せられてゐる。更に最近に至り、經營困難の海運會社に向つて、十億フラン（八百萬磅）の金額が貸與せられた。

然しこの點に於ける最大の罪人は米國であつて、一九一六年から一九三一年六月三十日に至るまでの間に於て、同國政府が船舶局を通じて、造船及び海運のために支出したる經費は、三十六億一千五百萬弗（七億四千三百萬磅）に上つてゐる。同様の目的を以て、他の部局から支出されたる金額は右の中に含まれてゐない。米國が右の期間に於て、造船及び海運補助のために支出したる金額は尠なくとも十億磅に上るべしと計算せられる。一九二八年の商船法の下に、郵便契約のために、私立會社に與へられる報償は三億弗（六千萬磅）に上つてゐるが、右は郵便運送の量を基礎とせずして、それに使用せられる船舶の噸數、速力及びその航路の延長に従つて交附せられる。一九一三年に於て、米國は、僅かに二百一萬七千噸の商船を有するに過ぎなかつたが、現在では、一千八萬八千噸を超えてゐる。

補助金政策の外に、尙ほ各國がその船舶と、海運業を保護せんとする政策がある。これはその國の沿岸貿易を自國の船舶と海運業のために、留保せんとする政策で、國際公法に於て、正當の權利とし

て認められてゐる。然し以前には沿岸貿易なる語は *Caboage* 即ち自國の岬から岬へ帆走する事と諒解されてゐたが、米國政府は、本國と布哇、若くはアラスカ等の如き遠距離にある嶼地にまでもこれを押し及ぼさんとする。

斯くて、米國の法律はユニオン會社の船舶が、米國以外の土地の或部分から、更に他の部分に至る全航路の一部としての外、ホノルルと桑港又はロスアンジェルスの間に旅客又は貨物を運送することを禁止する。同時に他の一方に於て、濠洲の一港から他の港灣（例へばシドニーからメルボルンへの如き）に貨客を運送することを禁止する。この禁止は英國船たると他國の船舶たるを問はず濠洲以外の船舶に一樣に適用せられるのであつて、ニュージールランドに船籍を有するマトソン會社も、その他の競争會社も同様の制限を受けなければならない。最近ニュージールランドに於ては、英帝國內の何れの部分に於ても、英國汽船が自由に、營業し得るやうな帝國的協約を締結すべしとの運動が盛んに行はれてゐるが、濠洲に於ても沿岸貿易法を改正して、英國旗の下にある一切の船舶をして、特惠に與らしむべしとの議論が有識者間に行はれてゐる。然し勞働階級はそれ等の運動に對して、強硬に反對する。

然し問題は地方的方法や、孤立的妥協に依つて解決せらるゝには、餘りに廣汎である。世界經濟會議に於て、諾威及び和蘭の代表者は他のスカンデナヴィア諸國の賛成を得て左の如き提案を試みた。

一國が或特殊の航路を維持せんがために必要を感じる場合、或は國家が特殊の利害關係を有する貿易を促進せんがために必要を感じる場合の外、各國政府は造船又は航海のために、補助金を交附することを廢止する協約を締結しなければならぬ。

右の提案は、その除外例のため、全然無價値のものとなつて仕舞ふ。現在各國政府が與へつゝある如何なる補助金と雖も、右の除外例に依つて正當視せられないものはない。何となれば特殊の航路又は貿易を維持するに必要なや否やを判斷する最後の權威は各國政府に存するが故である。

これに比すれば、英國代表者の提議は、一層包括的である。即ち左の如し。

(一) 國家が、造船及び船舶の維持に對して補助金を與ふる結果は、競争的航路をして、甚だ不經濟ならしめ、他の政府をして、同様の補助金を與ふるの止むを得ざるに至らしめ、それがため海運界の秩序を紊亂し、各國民の負擔を増加し、輸入及び貸出しに對する役務を遂行することを不可能ならしめる。

(二) 故に各國政府は、出來得る限り迅速に、造船及び競争航路に於ける經營に對して、補助金を交附することを減少し、成るべくは、全廢するに至らんことを期すべし。

英國の覺書は、諸威及び和蘭をも包含して多數諸國の賛成を得た。これに對する佛國代表者の意見は、國家がその商船を保護しなければならぬ場合あり、その場合には、各國はこれを承認しなければ

ばならないが、非經濟的なる保護金獎勵金などを與ふることは、固より廢止すべきであると云ふ意見であつた。

米國代表者は所謂「非經濟的」補助金 (Uneconomic Subsidy) なる語に對して陳辯大に努めたが、その要旨を摘録すれば左の如くである。政府に於て補助金を交附することが、世界の噸數と、商業との間に不均衡を來すと云ふことは根據なき議論である。殊に英國代表者の云ふが如く、政府が補助金を與ふることは、外國船舶に對して差別的待遇を與ふるものなるが故に、條約違反であると云ふが如きは思はざるの甚だしきものと云はざるを得ない。これに反して、米國の政策は合衆國の船舶をして他國のそれ等と同等の待遇を得せしめんとするの外はない。議會が亞米利加の船舶に對して補助金を與へんとするは、その造船費及び經營費をして、略ぼ他國のそれ等と同等の地位に立たしめ、以て米國の船舶をして他國の船舶に對して、貨客の競争に堪へしめんとするにある。米國の造船及び航海業が他國に比して、不利益の地位に立てるは論を俟たざるところであつて、それをして外國の競争に堪へしめるには十分の補助を要する。而して米國はそれ自身の商船を所有せん事を希望する。

米國が右の如き非妥協的態度を執る以上、國際的協約に依つて造船及び航海業に補助金を與ふることを廢止するの不可能なるは論を俟たない。果して然らば、これを如何にすれば可なるか。吾人の眼前に置かれたる解決方法は、唯二個あるのみである。

第一の方法は、英國も又他國の鑿に倣ふて、補助金政策を採用する事であるが、それ程馬鹿々々しきことは他にあるまい。英國は米國に二倍する程の總噸數を有し、しかも政府の財源に至つては、遙かに少ない。英國が米國と補助金競争するに於ては、國家的破産の途を辿るの外はなく。且つ現在なら餘してゐる船舶の噸數は益々増加する一方であらう。

第二の方法は、他の諸國と協同して、國際會議を開き、航海條約中にある「差別的」(Discrimination)なる語に對して新解釋を與へることである。その目的は、協約諸國が必要を感ずる場合には、獨立的或は他國と協同して、禁止、港灣稅賦課、その他の方法に依つて、補助金を受けつゝある船舶に對して差別的待遇を與へるにある。他の諸國と協力せず、唯だ我國だけで、斯様に執らんとするは、自からその咽喉をかき切ると同様で愚これに過ぐるはない。それ故何れ程の國々が斯様な協約に加盟し得るか、問題であるが、現在のところ何人も、これに對して明答を與へることは出來まい。

#### 第四節 英國商船の現状と將來

英國は商業的海上勢力の減退に依つて苦しみつゝある。現世紀の初年に於ける商船の總噸數の四十九・二パーセントは英國々旗の下にあつたが、一九一四年には四十二・三パーセントに減じ、今日は更に三十二・九パーセントに下つてゐる。世界貿易の不振に加ふるに諸外國は、一箇年總計三千萬載

に達する多額の補助金を與へてまで英國と競争せしめてゐるのであるから、英國の持つ比率は今後も必ず減ずるに違ひない。

不思議なことには現在英國の海上勢力に挑戦しつゝあるのは、何れも大戰中吾々の味方として戰つた國々である。一九一四年に於ける世界の商船は總噸數四千二百五十萬噸で、その中英國は約二千百萬噸、佛蘭西及び日本は各二百萬噸以内、伊太利は百五十萬噸以上、米國は二百萬噸であつた。然し乍ら米國はその後、一九二〇年のジョンズ・ホワイト法に依り商船隊の大建造に着手することになつた。そして National Council of of American Shipbuilder の會長ガリツシユ・スミスが認めてゐる如く「これは萬一の場合には、軍隊、彈藥、軍需品等の輸送に對して直ちに役立つやうに建造されたのであつて、この計畫は米國海軍省の賛同を得たのである。」佛蘭西、伊太利、日本及びその他の國々の造船に對する補助政策の背後には、何れもさうした精神が存在してゐる。

一九一四年から一九三二年に至る外國に於ける商船の増加率は左の如くである。

米 國	一九六	日 本	一四六	伊 太 利	一三二
諾 威	一一四	和 蘭	一〇〇	佛 蘭 西	八二
ギリシヤ	七五	瑞 典	六六	デンマルク	五二
西班牙	三一	その他の諸國	四九		

この數字は英國を除いた以外の國々の船舶が如何に急速に増加したかを示してゐる。更に世界の船舶に對する英國船のパーセンテージを、ロイドの船舶名簿に依つて示せば左の如くである。

噸數	一九二三年	一九三三年
一〇〇—	三二、六	二七、八
五〇〇—	二四、一	二二、三
一、〇〇〇—	二二、〇	一七、六
二、〇〇〇—	二二、二	一七、八
四、〇〇〇—	三四、八	三三、八
六、〇〇〇—	三二、八	三〇、四
八、〇〇〇—	四三、四	三一、〇
一〇、〇〇〇—	四九、五	四一、五
一五、〇〇〇—	七五、〇	五五、五
二〇、〇〇〇以上	五七、五	四五、〇

右は多少の貨物を搭載するけれども、主として旅客の輸送を目的とする大型の船舶である。英國船

のパーセンテージがこの十年間に於て如何に少なくなつたかは、これに依つて一目瞭然である。

それは云ふまでもなく、海は英國の財産であると云ふことを教へる、歴史の教訓を忘れたことに原因してゐるのである。英國は道路のため既に約七億磅を投じてゐる。又民間飛行に對して年々補助金を與へてゐる。然し乍ら國防の第一線に立つ海軍の經費は削減され、その上、英國の船舶は國家の補助を受けつゝある外國船のために壓迫されてゐる。

世界の貿易に従事しつゝある英國船の齎らす利益（外國の港に於ける費用を控除して）は左の如くである。

年	(單位磅)
一九二〇年	三四〇、〇〇〇〇〇〇
一九二二年	一一〇、〇〇〇〇〇〇
一九二三年	一三三、〇〇〇〇〇〇
一九二四年	一四〇、〇〇〇〇〇〇
一九二五年	一二四、〇〇〇〇〇〇
一九二六年	一二〇、〇〇〇〇〇〇
一九二七年	一四〇、〇〇〇〇〇〇

一九二八年	一三〇、〇〇〇〇〇〇
一九二九年	一三〇、〇〇〇〇〇〇
一九三〇年	一〇五、〇〇〇〇〇〇
一九三一年	七三、〇〇〇〇〇〇
一九三二年	六五、〇〇〇〇〇〇

斯様に船舶は大に外國貿易の均衡に寄與するのであるが、その利益は一九二〇年の三億四千萬磅から一九三二年の六千五百萬磅に減つてゐる。

この外に英國としてはスエズ運河から得るところの利益がある。英國政府は一八七五年、首相デズレリーの發議に依て埃及王からスエズ運河會社の株券十七萬六千九百二株を四百萬磅で買收した。それに依り英國政府は過去五十七年長に四千萬磅の配當に與かつたが、その株は時價五千二百九十四萬七千六百四十磅と計算される。しかもスエズ運河會社の配當の六十パーセントまでは、同運河を往來する英國船に依つて生ず（運河通過料その他）利益に基くのである。言ひ換へれば英國政府の受取つた四千萬磅の配當金の中、約四百萬磅は英國船に依つて生じたのである。

内國船と外國船に對する差別的待遇は左の如き色々の方法に依つて實行されてゐる。

(一)造船に對する政府の補助は、ナールヴィスの商業的値の如何に拘らず行はれてゐる。

(二)貨物船に對しては内國船と外國船に依つて取扱を異にする。

(三)或る國では自國の船舶に對し直接間接に多額の補助金を與へてゐるのであるから、外國の船舶と貿易業者は到底それと競争することは出來ない。

(四)國家の補助を受けてゐる船舶に依り運搬される「投資貨物」は、外國品に對する永久の脅威である。英國は保護貿易國との對抗上、多年の傳統に反對して自由貿易主義を拋棄すべく餘儀なくされた。然し乍ら一方に於いては全世界に亘り、嘗てないくらゐの低廉な運賃に依る投資が行はれてゐる。この危機は單なる産業的のものではなく、英帝國全體に對するものである。

### 第五節 大西洋上の競争

一時、米國のユリウス汽船會社の船舶が英國のキユナード汽船會社の船舶に打ち勝つことを除くの外、大西洋に於ける船舶の速力は、前世紀の終りまで、常にキユナード會社に依つて獨占されてゐた。然し乍らその後獨逸人は速力の早い、贅澤な船舶を以て、英國からさうした名譽を奪つてしまつた。プライドをきづ、けられた英國人は、その結果、輿論の力を以て政府に壓迫を加へ、政府から二パーセント四分の三の低利を以て資金を貸すと云ふ條件の下に、キユナード汽船會社をして、ルシタニア及びモンリタニアの二隻を建造せしめることになつた。大西洋に於ける海上權は、斯くして再び

英國に歸つたのであつたが、歐洲戰爭中にルシタニアは獨逸の潜水艦に依つて撃沈され、残つた姉妹艦のモータニアは、一九二九年まで大西洋の女王であつた。

然し乍ら戰爭後北獨逸、ロイド汽船會社は、プレーメン及びオイロバの二大巨船の建造に着手し、モータニアの地位は完全に顛倒した。これより先きキユナード汽船會社は凡ゆる競争に打ち勝つて英國の優勝を確保すべく、快速力を有する七萬噸の汽船二隻を建造する計畫を立て、その第一隻は一九三〇年の末クライドのジョン・ブラウン會社に於いて龍骨の据付けを終り、既に百五十萬磅の經費を投じて工事を進行しつゝあつたが、その中に世界的不景氣の影響から、工事を繼續することが不可能となり、政府の保證の下に社債を發行して工事を繼續しやうとしたが、政府はそれを拒絶した結果、一九三一年の果に至り、遂に工事を中止するの已むなきに至つた。(二大巨船の建造費は約八百萬磅の豫算であつた。)

然し乍ら米國、佛國及び伊太利の汽船會社は、何れも大西洋航路に於いて、政府の補助の下に英國船と競争してゐる、それ等の汽船の船齡と噸數は左の如くである。

英國—Nauretania (一九〇七年) 建造三萬六千九百六十六噸 Olympid (一九一一年) 四萬六千四百二十九噸 Berengaria (一九一二年) 五萬二千二百二十六噸 Aquitania (一九一四年) 四萬五千六百四十七噸 Majestic (一九二一年) 五萬六千六百二十一噸 Homeric (一九二二年) 三萬四千三百五十一噸、合

計六隻、二十六萬五千九百八十噸。

獨逸—Columbus (一九二二年) 三萬二千五百六十五噸 Europa (一九二八年) 四萬九千七百四十六噸 Bremen (一九二九年) 五萬一千六百五十六噸、合計三隻、十三萬三千九百六十七噸。

佛蘭西—France (一九一一年) 二萬三千七百五十九噸 Paris (一九二一年) 三萬四千五百六十九噸 Ile de France (一九二六年) 四萬三千七百五十八噸、合計三隻、十萬一千四百九十一噸。

伊太利—Bona (一九二六年) 二萬二千五百八十三噸 Augustus (一九二七年) 三萬二千六百五十九噸 Saturnia (一九二七年) 二萬三千九百四十噸 Conte Grande (一九二八年) 二萬五千六百六十一噸 Vulcaria (一九二八年) 二萬三千九百七十噸 合計五隻、十三萬八千八百四十三噸。

米國—Leviatan (一九一四年) 四萬八千九百四十三噸 President Roosevelt (一九二一年) 一萬三千八百六十九噸 President Harding (一九二二年) 一萬三千八百六十九噸 合計三隻、七萬六千六百八十一噸。

#### 佛蘭西の航路補助

以上の外、米國には新たに大西洋航路に加はつた二萬四千二百八十九噸の Manhattan があり、その姉妹 Washington もやがて加はる筈になつてゐる。伊太利では五萬百十噸の Rex が、一九三二年の夏からゼノア、ニュー・ヨーク間の航路に就き、四萬六千噸の Conte di Savoia もやがて加はる筈に

なつてゐる。又佛蘭西の新巨船 Normandie (七萬噸) は一九三二年の十一月に竣工した。

斯の如き情勢は、世界の船舶史に於て嘗て類例のないことである。Normandie と Ile de France と所有してゐる佛蘭西の汽船會社は、佛蘭西政府から補助されてゐるが、それにも拘らず約一千萬磅の缺損を來たしたので、政府は佛蘭西の權威を保つに必要なる船舶を建造せしめるため、より多くの補助金を與へることに法定した。

#### 伊太利と米國の航路補助

伊太利では外國汽船の競争に對抗する必要上、從來の數會社を合併して單一會社を造り政府はそれに對して國庫補助を與へてゐる。そして Rex 及び Conte di Savoie の竣工以來、伊太利は十九ノットの速力を有する總計七隻、二十三萬四千九百四噸を以て大西洋航路に充當してゐる。

米國も又大西洋航路に従事する船舶建造に對し、國庫補助を與へてゐる。米國に於ける船舶の建造費は歐洲に比し遙かに大きいのであるが、政府はそれ等のハンキデヤツプを除去するため多額の國庫補助を與へてゐるのである。更に一九三一年六月三十日に終る會計年度に於いて、米國の汽船會社は外國郵便の運搬に對して一千八百七十九萬七千六百五磅の運賃を政府から受取つてゐる。

英國人は最高の乗船賃を拂ひ、最大の速力で大西洋を横斷せん事を望んでゐる旅客を、外國船が英國の港からより多く運び去ることを何時までも試験することが出来るであらうか。この疑問は單に船舶所有者に關係を持つてゐるばかりでなく、國家の權威並びに物質的利益に關する國民全體の問題である。

#### 第六節 海運と通商關係

英國が商業上に於いて他に優れてゐるのは、その海上勢力に原因するのであつた。先驅者である商人が一種の冒險者として、自分の品物を各自の船に積み込み、財産並びに生命の危険を冒して買手を探して歩いた時代は、既に過ぎ去つた。過去數百年の間、新らしい市場を發見するために、倫敦、リバプール、ブリストル及びその他の港から出て行つた、さうした冒險的商業生活位、面白い海のロマンスはない。彼等は海から得たリベラルな原則を他の國土に擴めることに與つて力があつた。そして彼等の力に依つて、英國は世界の北斗星になつたのである。

過去百年間に英國の人口は三倍に増加した。これは第一に英國が敵の侵入を受けなかつた事と、第二に世界の富を英國の海岸に持つて來たことに依るのであるが、これは二つながら吾々が巧妙に海を利用したことに原因するのである。そして産業の發達に伴ひ人口が増加すると同時に、英國は外國に對して益々商權を擴張して行つたのであつて、中にも海上に於ける輸送料の低廉であつたことが、大に原因を成してゐるのである。陸上輸送は海上輸送に比べると、約十倍ほど高くつく。さう云ふ關係



から、英國の重要な工業都市で海岸を距る百マイル以上の地點にあるものは一つもない。従つて、それ等の都市に住んでゐるものは、食料や原料を買ふにしても、若くは石炭又は製造品を賣るにしても、陸上に於ける輸送は短距離で事が足りるのである。

凡ゆる國々の中で、英國は島國なるが故に、最大の利益を獲得してゐる。現在、小麦及びその他の穀類を輸送する船舶は、極めて小額の運賃を以て、それを數千哩の遠方へ輸送するのである。例へば濠洲、ニュー・ジラランド、南阿佛利加、アルゼンチン、カリフォルニア及び英領コロンビアなどから輸送する肉類、果物及びその他の腐りやすい食糧品は、冷蔵装置のある船舶に積み込むのであるが、然しそれ等の品物に對する運賃率は、鐵道及びその他の陸上輸送會社のそれとは到底比較にならない位安いのである。

英國で製造された品物を、製造人の手許から消費者の手許まで、數哩運搬するには、外國で製造された品物を海外から運搬して來るよりも遙かに高くつく。海上の運賃と陸上の運賃とは、そのやうに甚だしい相違がある。これは英國にとつて緊急な問題の一つである。斯様に海上輸送は英國をして外國人よりも、より低い代價を以て、より高い水準の愉快なる生活をなすことを得せしめるのであるが、若し陸上輸送に依つて生ずるハンデキャップがなかつたならば、さうした代價は消費者及び製造人にとつて更に一層低いものになるであらう。

然し乍ら國民は稍もすると、石炭以外の凡ゆる輸送品に對して二重の運賃を負擔してゐることを忘れてゐる。總て原料は加工されて輸出品に變化するのであるが、それ等の原料は何れもそれに先き立つて工場へ送られるのであつて、その時既に運賃がかゝつてゐるのである。英國人は外國貿易に關し海上輸送の利益を受けてゐるが、然し一方に於ては高い陸上輸送に依つてハンデキャップを受けてゐる。

然しそれ等の問題以外に於いて重要な要因を成してゐるのは、次の如きことである。英國人は人口の稠密な部分に住んでゐるけれども、その實英國人は海上に生活し海に依つて生活してゐるのである。海は英國人の性格に強い感化を與へてゐる。英國人は海に依つてのみ其の生活と自由とを擁護することが出来る。そして、それ等の自由は英國人が多くの外國人をしてそれに參加することを得せしめると同時に、それは英國に對して食料と原料との安全なる到着を確保せしめるのである。

## 第七章 産業統制と失業対策

### 第一節 産業研究機關と資金運用

一九一七年に英國議會が、百萬磅の産業研究補助資金を可決して以來、英國の産業界は洵に多事多端であつた。勿論一九一七年に英國國民は未だ戦争に勝利を得た譯ではなかつたのだ。その翌年に勝利は得たけれども、然し一九三四年の今日に於てさへ、尙ほ英國國民は眞に平和を回復し得やうとは思へないのである。そも／＼それは如何なる理由に依るのであらうか。

一九一七年に英國は自由貿易國であつたが、然し乍ら今日は保護に貿易國に激變してゐる。そのたに英國國民の一般は、安價なる品物を買ふことが出来なくなつたのである。又鐵及び銅の二産業を除くと、總ての産業は最も能率的且つ經濟的に經營されないやうになつたため、取引が極めて不活潑になつたのだ。保護貿易政策を採用したため、英國の關稅制度は極めて不安固なるものと化してしまつたのである。英國が戦争には勝ちながら十分に平和を味ひ得ないのも決して怪むに足りない。

英國政府の無定見にして朝令暮改なることは、これ等をもつてもその一斑を知るに足るだらう。だからこそ、各産業研究協會の事業なども、今日のやうな沈滞不振を見るやうになつた所以である。

が、然し英國の産業をして眞の經濟と能率とを擧げしむるには、英國政府の從來のやうな優柔不斷、アヤフヤな態度では、到底駄目であるから、それ故に今後は各研究協會の資金を、確乎たる基礎の上に置くやう、一定不變の方針を確立しなければならない。それには、各産業研究協會の毎年要する經費總額を略ぼ一定して、それだけは如何なる事情があつても、國家の他の緊急な經費と同じく、同會をして活動せしむるやうにし、又「科學及び産業研究部」をして、各産業研究協會の必要とする經費額を調査せたり決定せたり且つ管理せたりすべきであらう。斯様にして一定の方針を立てる總ての産業研究團體を、國家から統制するに於ては、必ずや偉大なる業績を遂げんことは蓋し疑ひない。さうでもしない限り、英國の産業は次第に萎靡するの外はなからう。

各産業研究協會の資金が、現時のやうに不安になつては、結局、英國産業の福利増進に缺くべからざる能率を減殺することになるのは云ふまでもなからう。又産業に着手するに先だち、豫め計畫を立てることが、産業の進歩に如何ほど大切なものであるかも敢て云ふまでもなからう。蓋しフアシストの伊太利、ソヴェエトの露西亞、デモクラチツクの米國、ナチスの獨逸等、比々としてその先例を多少なり範としなければなるまい。

甚だ残念ながら、從來の英國は何時も他の後塵を拜した憾みがある。で、大戦後の素晴らしい繁榮期の喇叭に昂奮して、聯立内閣は穀物生産條例 (Corn Production Act) を制定したが、何う云ふ理

由があつてか、その翌年にはこれを廢棄し、更にその後、植林計畫を樹立して、「森林委員」(Forestry Commission)を設け、一九三〇年から一九四〇年までの十年間に、三百五萬三千英町ほどの森林を仕立てさせやうと決定したが、これも着手したばかりで、一九三一年には中止と來たので、そのため、折角植付けた幼樹を轉買する譯にもゆかず、みす／＼五萬磅と云ふ少なからぬ國幣を文字通り地に委したことがあつたのだ。

著者が上に冗々しく研究協會の事情を述べたのも、所詮はその他の總ての産業研究協會の場合を、類推して貫らうために外ならない。と云ふのは今やこれ等總ての研究團體は、何れも御多分に漏れず酷く資金難に悩まされてゐるからである。英國の産業を發達させるに缺くべからざるこれ等の有益な機關を、一日も荒忘不安の中に放置するのは、決して國家百年の長計ではない。然らば何うすれば各種産業研究機關の經費を、將來安全な基礎の上に確立することが出来るだらうか。

英國のゴム業を今日の不振に陥らしめたのは、ゴム研究機關が十分にその機能を果し得なかつたからだとさへ云はれてゐるから、他の各研究機關には間違つても同様なことはさせてはならない。が、何れもその資金に窮乏を告げるやうになつては、ゴム研究協會と同様の覆轍を踏まないと、誰が保證し得るであらうか。さうなれば英國の總ての産業は今日のゴム業と同じく、不況のドン底に墜くの外はないだらう。

## 第二節 失業保險問題

英國が直面してゐる難問題は、國民全體がその勞働に比較して、より多額の賃金を受けてゐる一方、それにつれて資本利潤が減少してゐるといふことである。

賃銀の高率は失業の直接原因である。賃銀が、製造業者がそれに依り利益をあげることの出来ない程高率に上つて動かないとすれば、ある一部階級の人々は必然的に失業しなければならない。

大戦後英國に於ける賃銀は物價の下落に順應してゐなく隨つて實質上の賃銀の増額は、失業を益々ひどくさせてゐる。

勞働者の公表するところに依れば、男子の雇傭勞働能率は通常の状態にある者六割六分九厘、優秀なる者二割一分九厘、芳しからざる者四分九厘であつて全然不適當の者は全體に於てその二分にしか當つてゐないさうである。

然し賃銀が若しも低下したならば、もつと就職することは出来るやうになるであらう。

そして、斯様に簡単に事が實行出來たならば、この問題の解決も容易な事である。

それ故に名儀上の賃銀は低下さす事が出來て、勞働者は増加し、隨つて購買力も増加するであら

5。

然し労働組合の要求は依然として強硬であり、一般の輿論もこれを支持してゐる。つまり英國に於ては賃銀の引下げをせずして、一百万人の失業者を出してゐるわけである。

英國の失業保險の創設は一九二二年の昔であるが、戦前に於て餘り效果を表してはゐなかつたのである。その保險法の改訂されたために今日の如き完全な發達を見た。

この保險制度が商務局の専門家に依つて初めて創業された當時には、これは純然たる保險であつて保險料は労働者の支拂ふ一方、又資本家も支拂ふといふ飽くまで協調的のものであつた。

だが保險金は労働者にのみ支拂はれた。そして國家に依つて補償されてゐたが、契約のものであり、單に僅かの産業部門に限定されてゐたのである。

實質上賃金と云つて労働者の知らない中に賃金を下げるといふのである。

第三には、間接に労働賃を下げる、又資本の利子も下げ、一方には經濟界の總ての人に犠牲を扱はせる。斯くして生産費を下げ、輸出を増進するといふのである。

然しこの何れの方策を執るにしても、世界の經濟界の動きに依つて左右せられると云ふことは申すまでもないことである。

加ふるに保險金額の制限も厳しく、保險料と云つては賃銀に比較する事も出来ないほどの少額であ

つた。

その上、この國家の補償も十五週間續けられただけであつた。

大戰後、殊に一九二〇年に英國は經濟上の一大危機に遭遇した。この失業保險法は家庭労働者を除く全部の労働者に適用されることになつた。然し、最初の原則は固く支持されてゐたのである。

一九二一年には家族の加入も特別に許され、國庫の補助額も随つて増加し、一九二四年には、時の政府たる労働黨内閣に依つて補助金の更改期間は無期限となつた。

そして、爾來、失業してゐる限り補助は續けられる事となり、同時に自然の成行きとして收支の平衡はとれなくなつてしまつた。

斯くして時は過ぎ、失業は往時からの傳統的のものと思はれるやうになり、浪費の節約と云ふことも、放任主義の固執のために葬り去られた。型通りの救護を受けんがために、労働者は「熱心に職を探したけれども見當らない」といふやうになつた。

一九三〇に失業保險法の修正が労働黨内閣の手に依つて行はれ「労働市場に依つて適當なる仕事があるにも拘らず、正當な理由なくして拒んだものは、この法の保護を受ける資格のない者とされた。だが右の「適當なる仕事」といふ一句の解釋は廣義にとることも出来る。

労働者は與へられた職業について労働することが出来る場合であつても賃銀が普通より安いと思ひ

或ひはストライキの穴埋めである場合にはこれに就業することを拒むことが出来る。

一九三〇年には更に労働者に有利のやうに保険法は修正された。

即ち労働者は最初の二年間、最少限度三十三片の掛金をする必要はなくなつた。失業者はどしどし金を引出す、國庫はこれを補償しなければならない。補償貸出し条件も又、緩和せられ失業の最初六日間は救済されないのであるが、七日以後も尙ほその失業が繼續する場合には一週間の中にたとへ三日間、就職することが出来たとしても失業者として救済されたのである。

一週七志であつた時代、即ち一九一二年以來、漸次名儀上に於ても實質上に於ても同様な發展に依つて労働者に有利な改革が行はれた。

そして今日に於ては、妻帯者は本人は一週十七志妻は九志更に子供は一人について二志を受けることが出来るのである。

それ故に若し子供が五人ならば、三十六志を受ける事となる。

而して更に當局がこれだけでは不充分であると認めた場合には、種々の方法に依つてその増金額を増すことも出来る。

救済額の増加は一九二〇年以來の物價下落を思ひ合せば、直ちにその保護の厚いことが知れる。當時失業者は十五志づゝを受けてゐたが、小賣物價指數は二七五である。

だが、今日に於ては救済金額は十七志であり物價は百五十に下つてゐる。換言するとその救済金額は二倍になつた結果になるわけだ。

この制度は、最早や何人も心から保険とは呼べないところの國民救済法となつた。従つて國庫の負擔も次第に増加しつゝある。

實際に於て労働者は毎週その保険料をと拂ふには拂つてゐるけれども、労働者の支拂金と保険金とは何等の關係もない。

これに反して雇主、資本家にはこの制度に弾力性がないたため、商品の價格が下落したにも拘らず、保険料金は依然として同一であるため、その負擔は二重となるわけである。

斯くして資本家はそれに依つては直接に何等の利益を受けないにも拘らず、支拂の義務を負はせられ、労働者は彼の出資した何倍かの額を受取らず支拂の義務を負はせられ、労働者は彼の出資した何倍かの額を受取るのである。

又、失業者數が或る程度まで増加して來れば、財政上の平衡は到底保たれなくなるであらうのに、は一向それを憂ふる様子も見えない。

以上述べ來たつた事情から推論すると、英國の失業手當は受益者である労働者から分擔金を取らないで、明らかに國家補助金たらしめてしまつたと云ふことが出来やう。

然しこの失業保険法の尤も重大なる缺點は、安逸遊惰の精神を生み出したことである。英國へ出かける外國人は悲惨な實態を観察しやうと期待するのであるが、事實は全くこれと反するのである。英國の失業者は、失業しても自若として一種の社會的寄生蟲の地位に立ち、國家の費用を以て平然として生活して行き、決して饑餓に迫られるやうなことがない。

彼等の生活標準は、たとへ低下することが出来やうとも、然し平然として或は時としては平然すぎる程までに將來の就職の機会を待つてゐる。

雇主、資本家も又この失業保険法のために利益を受ける、といふのは失業者は國家が保護してくれといふことを知つてゐるのを利用して、無暗矢鱈に雇傭したり、解雇したりすることが出来、又現に行ひつつあることである。

時として雇主、資本家は、労働者と協調し出来得る限り、救済を受けさすやうにすることも出来る。續けて三日以上雇傭しないやうにしてもいゝし、依然として失業者の名目の下に救済を受けることも出来る。

船梁、造船、その他の企業界に於て斯様なことは普通に行はれて居り、時としては公然とすら行はれることがある。

斯くて個人は救済されたかも知れないが、國民こそいゝ面の皮である。

小賣商人もこの法案を非常に重寶がつてゐる。と云ふの労働者が就職してゐると、ゐないと拘らず、この保険料のある限り、小賣商人の購買者となつて彼等の生活を補償してゐてくれるからなのである。

失業者保護諸政策の尤も危険有害な點は、失業者の働かんとする意志を徐々に失はしめることである。或る場合に於ては、労働者は遊んでゐる方が却つて利益になるやうなことすらある。

又、好い方面から考へると、通常の商賣を繼續してゐるよりも、救護法の助けを受ける方が、より利益の場合すらある。

斯る状態の下にあつては、長い不景氣にも拘らず賃銀金が低下しない理由は、何れも容易に理解し得るところであらう。低賃銀で働くことが何人をも益しない限り一體賃銀がどうして低下するであらうか。

又、失業してもそれほど不自由しないとしたならば、苦しんで新職業を探し、現在の職業上の條件を更改する必要もないこととなつた。

斯くて墮氣漫々として怠惰の精神が心底にまで潜んでゐる失業者達は、白晝寢臺の上に寝ころんでゐる有様である。

彼等は時折、何かうまい口でもありはしないかと、ふら／＼職業紹介所へ出かけ行くの外は、何を

をなすこともせず、一日一日を空費してゐるのであり、斯くして努力とか、勤勉とかは影を没してしまつた。

國民の生活は、欺瞞の最も多い原則と平穩との上に事もなく續けられた。政府當局は多數の怠惰者に最も頭を悩まし應急手當を講じた。即ち、彼等の生活は支辨せられ、彼等は靜穩の裡に置かれて、絶望のどん底におかれずに済んだのである。

然し外國の經濟學者はこの放任主義は英國をして、再び立つ能はざらしめるに至るであらう。と論じてゐる。

そして、存外の英國人も又これに同意した。だが一步足を英國内に踏み入れて入るならば、一人の政治家も強ひてこの救済法に一撃を加へる者はない。若しさうしたならば直ちに失脚しなければならぬ。

### 第三節 産業研究機關と補助金

一九一七年早くも大戰後の産業復興を目論んで「科學及び産業研究部」(Department of Scientific and Industrial Research)を設置したのは、眞に英國聯立内閣の特筆大書すべき業績と稱すべきであつて、その遠望達見にはホト／＼感服の外はない。それについても英國國民はこの計畫と離るべからざる

關係を有する故カルゾン卿、と同じく故人となつたバルフォア卿との名を、忘れんとしても能はざるものがあるのである。「科學及び産業研究部」を創設するに當つて、その發案者達は自らの抱負なり、且つ同部の目的なりを極めて簡単に説いて、「最有效な方法に依り、英國全體のを利益するやうな、産業及び科學の研究を助長するために、一つの常設的な機關を設けたい」と言ふてゐるのである。

同部に於いて年々發行された報告書を見ると、眞に名實相伴ふて有益な好資料たることを立證してゐるが、然しこれ等の事業は、假令へ如何ほどに價値あるものであつたにせよ、同部が尙ほ今後に於ては仕遂ぐべき偉大な抱負に比すれば、それは單なる大海の一滴たるに過ぎないことを知らねばならぬ。

同部の主なる機能は、適當な調査を遂げた上で、各種の産業的及び科學的研究團體に補助金を下附することであるが、それを大別すれば、(一)自らで各種の團體を組織すること、(二)各産業會社が互に協力して、何等かの産業或はこれと開聯せる幾多の産業の研究を助長するために、産業研究機關を設置する場合それを補助すること、(三)直接的に實際上の價値はなくても、科學的研究に一生を捧げてゐる科學者には、補助金を下附すること等に歸着するらしい。

多くの學者中には、同部の主要なる事業方針を、専ら上記の(二)に傾注すべしと唱ふるものもなほではなかつたが、然し同部は斯かる説に耳をも藉さず、主としてその精力を「國立物理研究所」

(National Physica Laboratory) や、「地質測量博物館」(Geological Survey and Museum) や「化學研究實驗所」(Chemical Research Laboratory) などの救助に注ぐ傍ら、自らも建築、食料品、森林産物、及びラヂオ等に關して卓越したる幾多の研究機關を設置することに成功したのである。

然し著者が此處で考察しやうとするのは、昨年春に現存せる二十四種の産業研究團體だけであることと、豫め御承知が願ひたい。これ等の團體は、夫々に研究所なり實驗所なりを持つてゐて、各國の代表せる産業に、直接的の利害關係を有する諸問題の研究に没頭しつゝある上に、尙ほ又これ等の産業を今後益々發展させるためにも、多くの遠大な根本事業を計畫しつゝあるのだ。そして彼等の仕遂げた事業の概要を、「科學及び産業研究部」の年報で年々公表してゐるのは、洵に好い思ひ付きと云ふべきであらう。

實際、これ等の二十四團體が、英國の福利増進に寄與した功績は、極めて偉大であつたが、それでは、未だ國民一般の間に普く認識されてゐないのは、つまり、これ等の團體が互に結束して、その行ふた事業の詳細を、絶えず社會に發表しなかつたからに外ならないと思ふ。

これ等の二十四團體は、何れも「科學及び産業研究部」の補助に依り組織されたものであつて、即ち一九一七年の英國議會で可決された一百万磅の補助資金に依り、彼等の總ては生れ出たものであるのだ。今日に至るまでこれ等團體の維持費は幾分この百万磅資金で補助されて來たが、而も大部分は

關係産業より支辨されたのであつて、次に各團體の名稱や、創立期や、事業繼續年數や、並に「科學及び産業研究部」に依り下附された補助金額等を表記して一覽に供しやう。

一九三二年に「科學及び産業研究部」の支出せる總金額五十三萬四千七百磅中、上記の各研究團體に補助したる分は八萬二千三百七磅であつて、一九二一年から一九三二年までの間に、これ等の各團體に下附したる金額は、年に依つて可なりの増測があつたので固より一概には云へないが、最も多かつたのは一九二四年の總額十萬三千八百八十七磅、最も少かつたのは一九二九年の五萬三千八百一十一磅で、その他の年は兩者の中位であつたやうだ。



1932年7月現在の各種産業研究團體表

團體の名稱と創立年	事業繼續年数	金補助金額
British Scientific Instrument Research Association (1918)	14	123,143
Wool Industries Research Association (1918)	13	77,762
British Boot, Shoe and Allied Trades Research Association (1919)	13	10,762
British Cotton Industry Research Association (1919)	13	136,040
Linen Industry Research Association (1919)	12	64,241
Research Iron manufacturers' Research Association (1919)	5	—
Research Association of British Rubber Manufacturers (1930)	12	34,750
British Association for Research for Cocoa, Chocolate, Sugar, Confectionery and Jam Trades (1919)	12	26,792
British Non-Ferrous Metals Research Association (1920)	12	66,694
British Refractories Research Association (1920)	12	23,280
Scottish Shale Oil Scientific and Industrial Research Association (1920)	12	7,500
British Launderers' Research Association (1920)	11	27,315
British Leather Manufacturers' Research Association (1920)	11	27,544
British Cutlery Research Association (1920)	11	10,829
British Electrical and Allied Industries Research Association (1920)	11	94,501
British Silk Research Association (1921)	11	15,228
British Cast Iron Research Association (1921)	11	39,207
British Colliery Owners' Research Association (1924)	7	—
Research Association of British Flour Millers (1923)	9	22,582
British Food Manufacturers' Research Association (1925)	7	7,291
Research Association of British Paint, Colour and Varnish Manufacturers (1926)	6	23,483
National Federation of Iron and Steel Manufacturers (1929) (Industrial Research Council)	3	18,166
Printing Industry Research Association (1930)	1	—
Institution of Automobile Engineers (Research and Standardisation Committee) (1931)	1	2,500

一九三三年になつて例の百萬磅資金は、全く潤渴したが、不幸にも今は産業界が非常なる不振に陥り、これまでに各研究團體を大いに援助して来た多くの産業社會も、到底、政府の中絶したる下附金を償ひ得るほどの餘出は出来なくなつたので、そのために政府は已むなく、經費の緊縮を企てるの外なくなつたのである。

斯うなつては「科學及び産業研究部」も、手も足も出せない譯であるから、そこで今や英國内の各産業研究團體は、暫くその活動を差控へるか、それとも全く中止するかの外に方法がなくなつた次第である。が、それでは英國産業の進展を阻止することになり、極めて憂慮すべき結果を醸すので、最近の會計年度末に、辛うじて七萬磅といふ零細な補助金が、緊急事項として捻出されることになつたのである。

勿論、これ位の少額では、今後の安全を保證し得る由もないが、併し全然なきには優るから、英國民は政府當局者の努力に對し、感謝の意を表せざるを得ない。

それにしても、英國今後の産業研究事業は果して如何に成り行くであらうか。云ふまでもなく英國産業の發展と繁榮は、一にかゝつて科學者の努力如何に依ると云ふても過言でないが、然し乍ら折角活動し初めた各研究團體を、僅少の經費が足りないといふ理由で、今更らこれ等を解體してしまふのは、結局、英國の産業を再び過去に引き戻すことに外ならないであらう。

○されば英國國民たるものは、自國の産業を發展させるためにも、又自らの生活を一層幸福ならしめるためにも、この際一肌脱いで各産業研究團體の活動を繼續させるやうに努力して欲しいものだ。別けても著者は「英國ゴム製造研究協會」(Research Association of British Rubber Manufacturers)の現在の苦境を見て、特に英國國民一般の考慮を促さざるを得ない。

この協會は一九二〇年に創設され、民間工業家の寄附金と、「且つ科學及び産業研究部」の補助金とに依り、過去十三年の間維持されて來たのであつて、その期間に於ける經費總額十萬磅中、六萬磅はゴム製造業者が醸出し、残りの四萬磅は同部の下附に依るのである。その一箇年の經常費は、凡そ七千五百磅乃至八千磅であつて多くの有益な研究事業が仕遂げられ、そのためゴム業者一般の蒙つた恩澤は、決して僅少でなかつた筈だが。然し乍ら彼等の醸出したる金額は、豫期されたほどに満足なものではなかつたのだ。

それには特殊の理由がないでもない。と云ふのは、高い關稅を免れたいばかりに、英國内に設置された數多の外國ゴム製造會社が最初の程に神妙に比較的高額の寄附金を「英國ゴム製造研究協會」に醸出しつゝあつたが、一度自らの受取るべき利益を回收するや、後は言を左右に託して寄附を拒むやうになつたからである。

茲に於てか、同協會も一策を案じて、出来るだけ公平な原則に基づき自らの經費を極めて安全な方法で徵集しやうと思ひ立つに至つた次第である。その方法たるや、つまり英國内に輸入される一切のゴム原料品に對し、一封度毎に一片の四十五分の一ほどの課稅を強制的に徵集して、これで協會の經常費に充てやうとする仕組であつて、この方法に依ると、毎年約一萬五千磅の收入がある筈だから、最早や政府の補助金を仰がなくても、同協會は立派に經營が出来ると云ふのである。

この様に優れた案が出来上つたのは一九二六年で、爾來、殆んど中斷なく議會の開會毎に、總ての政黨に所屬する議員や、特にゴム業關係の議員などに支持されつゝ提出されたが、不幸にして衆議院では通過しなかつたのである。そこで今度は手を替へ、政府案として先づ貴族院に提出されることになつたのだ。提案者の理を盡した熱誠な説明に依り、ゴム研究協會の苦境も漸く理解され、議事もスラ／＼と進行したので、この分ならば必ずや通過するに違ひないと、當業者の何人もが安堵の思をしないものはなかつたのである。が、意外にも一九三三年七月になつて、全く青天の霹靂が來た。と云ふのは、商務局の院内政務官が、一議員の質問に答辯してこの議案はゴム業者の中にも反對するものがあるので、政府は最早やこの案に就いて議事を進行させる意志がない、と斷言したからである。政府がこのやうにその態度を豹變するに至つた所以は、つまりゴム業者中の最も大きなものが、最後になつて急に強制的な課稅案に對し、寢返りを打つたからに外ならない。

元來、この最大ゴム業者は一九二六年以來、輸入ゴムに對する強制的徵稅政策を支持し、従つて一

九二七年以來、絶えず國會に提出された「ゴム業議案」(Rubber Industry Bill)にも、熱心な支持を與へて來たのであるが、それにも拘らず、今や將にこの議案が上下兩院を首尾よく通過しやうとする間際になつて、急にその態度を豹變するに至つたに就いては、固より何等かの深い理由がなくては濟まない。

その理由を詮索すれば、色々列擧され得るであらうが、要するに利己的動機の發動に外ならなかつたやうである。露骨に云ふと、件の最大ゴム業者は議案通過の間際になつて、今更らながら自らの負擔と犠牲の大なるべきを感知し、斯くして是非ともこの案の通過を阻止し、自らは單獨で研究所を設置しやうとする腹を急に決めるやうになつたからである。

實際、この最大ゴム業者は、多年の間「英國ゴム製造者研究協會」の經費を最も多く負擔して、ゴム産業全體の利益を増進するために、餘程の貢獻をして來たのであるが、而もその結果は、却つて群小の幾多ゴム業者の生産能率を高めることに依り、自らの競争者を彌やが上にも増加させたわけであつたから、そこで自分の事業の利益と云ふ、極めて狹隘な見地から件の最大ゴム業者が、斯やうに腹を決めるやうになつたのも必ずしも無理ではない。

が、固より國家全體の産業の利益と云ふ遠大な見地から云へば、斯やうな態度は責めなければならぬ。何となれば、苟も國家全體の産業の利益と云ふことを目標とする限り、群小の各事業家が、それらに生産能率を上げたり、且つ有效な競争相手となつたりすることは、大に慶賀すべき事柄でこそあれ、毫も悲觀したり阻止したりする理由とはならないからである。

## 第八章 貿易政策

### 第一節 貿易統制問題

貿易のバランスなる學說の、始めて教へられたのは第十七世紀始めのことで、それ以來約百五十年の間、實際に於て何等の變化をも受けてゐない。一七五五年に出版せられたるボスルウエートの字書 Postlethwaits' Dictionary には「貿易のバランスと云ふことは、普通に外國品の輸入と、内國品の輸出とが權衡を得ると云ふこと、解釋されてゐる」とある。即ち物品の輸出入が同等にして、過不足なき時は即ち貿易はバランスを得てゐると云ふのである。然し物品 Commodity なる語の中には役務は含まれてゐるが、貨幣及びその原料たる二種の貴金屬即ち金銀は含まれはゐるものと解釋されてゐる。それ故に金銀を包含せる輸出入が同等でなければならぬと云ふことは勿論のこととして一般に承認せられてゐる。果して然らば、若し金銀を除きたる物品と役務輸出入が權衡を得ざる場合には、双方をして同等ならしむる必要なる額は金銀の輸出入に依つて補填されねばならないことは云ふまでもない。而して、金銀を得ることが貿易の主要の目的なりと解釋されるが故に、貴金屬の純輸入が超過

する時はバランスは良好なりと云ひ、その輸出が超過する場合にはヒュームの語に従へば、これを不利益又は非常なるバランスと云ふ。

この講義は一般社會を相手とするものであつて、寧ろ通俗的のものである。著者はシドニー・ポーツル講座の創立者の目的は屢々經濟雜誌 The Economic Journal 上に於て見るが如き、古ローマの占卜者が犠牲の鷲鳥の臍腑に就いて詳細綿密なる研究討論を事とするやうな専門の研究を遂げんとするものでないと思ふ。さればとて著者はこの問題に關して、今から數箇月以前に行はれたやうな初步的な事を取扱はんとする積りでもない。

從來貿易のバランスに就いては、政治界からも、實業界からも、汗牛充棟管ならざる程多くの議論や説明が持出されてゐるが、著者はそれ等の文献を見て、吾々經濟學者が、これまで、一般社會に對してこの點を明瞭ならしむるの義務を全然怠つてゐたと云ふことを痛切に感ぜざるを得ない。經濟學が一個の科學として存在して以來、既に二百年になるが、尙ほこの點が明かにせられてゐない。デビッド・ヒュームが David Hume 今日まで生存してゐたならば、彼は依然として、一七五二年に云つたことを繰返へすであらう。曰く「貿易のバランスに關するこの誤れる思想を政治家等が財政問題で頭腦を悩ます總てのところにて發見せられるであらう。若し七人衆政治 The Heptarchy が今尙ほ英國に存在したりとせば、七國の立法部は逆バランスの恐怖に驅られ、嫉妬心と餘計な心配のために

互ひに、その商業の上に壓迫を加へるであらう。」

貿易の「非なる」Wrong「不利益なる」Unfavorable 或ひは「逆なる」Adverse バランスに關する妖怪の姿こそ、ヒュームの時以來幾分變化したが、然し妖怪そのものは依然として存在してゐる。

この場合に於て、富める舊國はその拂出したるより以上の金を規則的に受領することとなる。投資國は時としては元も子も失ふことがあるが、大體に於て、相當の利子を收むることを得べく、歳月の進むに従つて、それ等の利子は年々の新投資額を超過するに至る。この結果として、その輸入價額は規則的にその輸出額に超過するに至るのであつて、その超過額は即ちその對外投資に依つて得たる物品なのである。早晩斯やうな超過は受領するにあらざれば、對外投資は全く無意義のこと、云はざるを得ない。若しアルヂエンチナに對して、一千磅の投資をもしたり假定して、同國から毎年何物かを得るにあらざれば全く無益のこと、云はざるを得ない。アルヂエンチナ人は英國の投資に對する利子又は配當として小麥又は牛肉を輸送するであらう。斯く云へば、人々はそんな事はない、自分は自分の投資に對して、毎年何磅、何志、何片を受取つてゐると云はれるであらうが、然しアンヂエンチナ人は何處からその金を得るのであらうか。それは云ふまでもなく、英國に小麥と牛肉を送り、その代金が相手國に支拂はれるのである。

斯やうに富める舊邦は、相當に規則正しく、彼等が拂出した以上の金を受領するのであるが投資を

受けたる諸國は、これを全體として云へば、受領せるより多くの金を拂ひ出す。然し別々に云へば、彼等の總てが必ずしも、常に超過拂出しをすると云ふわけではない。何となれば、彼等の或るものは時々新たに巨額の借款を起すのであつて、その繼續する間は、新借款の方が舊債務に對して支拂はるゝ利子よりも多いからである。その期間か數年繼續するものとなれば、その間は、その國に對する輸入は輸出に超過するであらう。借款が減少するか停止せられる場合には、再び輸出は輸入に超過することとなる。斯やうな變動は、殊に濠洲の統計に於て最も明白に認めることが出来る。

然し歳月の推移と共に、一國に輸入さるゝ物品と役務の總價額は輸出のそれと均衡を保たなければならぬと云ふことは、短期に就いても、長期に就いても、眞實でないやうになつて來た。現代の國際取引に於ては、巨額の對外支拂がそれに相當する外國よりの支拂に依つて埋め合はせられないことが寧ろ普通のこととなつてゐる。

ナポレオン戦争當時に於て、英國は大陸に於ける同盟諸國の軍隊被服のため多量の服地を輸送したが、その費用は英國議會の決議に依つて國庫から支出せられたのであつて、英國はそれがために漠然たる感謝の念と、安全感をかち得たのみで、有形的の報償と云ふものは一文も受けてゐない。

曾て愛蘭人は盛んに米國に移住若くは出稼ぎして、何れも相當の金を本國に送るのであつて、それを合計すれば多額の金額に達するが、それに對して在米の愛蘭人が本國の父母兄弟等から感謝の手紙

を受取るのみで、米國としては何等の報償を受けてゐない。對外投資が盛んになるに及んで、益々その傾向は甚だしくなる。新國は舊國から金を借りて、舊國に於ては證券を發行し、その金を以てレー、機關車、その他の物品を購買する。斯くて舊邦に於ける輸出は著しく増加するが、それに相當する輸入が増加すると云ふことはない。若し債務國が利子を支拂はない場合には、債權國から輸出に對應すべき何等の輸入は起らざるべく、若し利子を支拂ふとするも、それは長期の間に少し宛支拂はれるのであつて、幾年かの後に元利金が支拂はるゝ場合には、債權國は一時に金額の現金を收入することとなる。

## 第二節 貿易の諸機構

著者は當時の思想を大體に於て、右の如きものと假定して、貿易のバランスに關する二個の妄想の存することを知る。第一はアダム・スミスが嘲笑した思想で、各國が水久に、間斷なく、金銀の自國に流入せんことを希望することであつて、又第二はヒュームに依つて罵倒された説で、自國に十分の貴金屬を取入れんとする方法、殊に一度獲得したる貴金屬をば失はざらんとして、各國の政府がこれを監督し、「非なる」バランスからそれを保護せんとして外國貿易に干渉することである。

第一の妄想到いては、爰に多言を費やすの必要を見ない。アダム・スミスの銳利なる筆鋒に依つて、再び起つ能はざる程に止めを刺されてゐる。今日では、米國の聯邦準備局でも、佛蘭西銀行でも、まさか左様な妄想は持つまい。然し古代の人々は、何れも、正氣でそれを信じてゐたのであつて、殊に奇怪なのは、それ等の貴金屬の産地たる西班牙、ポルトガルの諸國等に於て、その妄想が盛んに行はれたことであつて、兩國に於ては、その領域内に産出する金銀を悉く自國內に保留して、その一オンスと雖も國外に出さないやうに凡ゆる方法を講じた。

第二の妄想即ち成るべく多くの貴金屬を自國に取込み、これを流出せしめないやうに、外國貿易を監督指導すべしと云ふ考へは、今日でも、通俗的に社會に存在して居つて、最近に至つてより悪しき主張が生れて、而も相當の有識者階級に於ても育まれてゐる。

勿論、若し金を包含せる輸入額が權衡を得なければならぬものとするれば、金以外の輸出入額の差は金の輸出入のバランスに依つて補填されなければならないことは眞實であるに相違ない。然しそれは他の物品に就いても同じ事である。若し金と鉛とを包含せる輸出入額が同等であらねばならないとすれば、鉛を除きたる外の輸出入の差額は鉛のバランスに依つて補填されねばならない。

ボスルウェイトはこの點を最も明白にしてゐる。輸出入の價題が同等なる場合にこれを貿易が權衡を得たりと云ふ説をも述べた後に、彼は進んで、一國がその輸入よりも多くの價額を輸出する場合にこれを貿易のバランスが良好なりと云ふ。その理由は輸出價格が輸入に超過すればそのバランスは地

金又は貨幣に依つて補填せらるゝを要するのであつて、それだけ國家の富は増加するのであると説明してゐる。

これが第十七世紀の始めに起つて以來、第十八世紀の半ば頃に至るまでに理解されたる貿易のバランスの學說であるが、その思想は抑も何處に存するか。當時に於ては、何人も、運賃として多少の斟酌を與へたる上は、金銀を包含せる輸出入の價額が同等でなければならぬと云ふことに對して疑惑を挿むものはなかつた。尤も當時既に各國々の間に、商品の賣買に非ざる或種の經濟的交渉が行はれてゐた。貢賦や、贈與と云ふことは未だ知られなかつた。然し一六四〇にトーマス・マン Thomas Mun の云つたことは今日でも眞實である。曰く、「是等のものは不確實にして、且つ些末の事である」と。然し後に至つて、最も重要なものとなつたが、それに就いては後に説明する。

投資が國境を超えてなされる、現代社會に於ては、輸出入の均衡、貿易のバランスと云ふが如きは、最早無意味である。恐らく、何人もワイト島 The Isle of Wight の貿易のバランスに就いて考ふるものはあるまい。同島には輸出すべき何物もないが金額の輸入をもつてゐる。それは同島住民の多くが英國又はその他の場所に多くの財産を有し、従つてそれより輸額の收入を得てそれが衣食住の物品となつて同島に輸入せられるがためである。然し乍ら第十九世紀の頑迷なる傳統的思想は國家を呼ばるゝものをワイト島と同様に簡單明瞭に取扱ふことを妨げる。

それ故に多くの人々は貿易のバランスに就いて語り、果ては、輸出超過を以つて良好のバランスなりと云ひ、輸入超過を以つて不利益なるバランスなりと云ふが如き舊思想に依然として捉はれてゐる。尤も多少事理を諒解するものは貿易の順と云ひ、逆と云ふが如きは専門的の語で、最早普通の意味を有するものではないと云ひ、富める舊邦の一般人をして輸入の超過に服従せしめる。その服従はいや／＼ながらの服従であるが、そは主として見えざる輸出入と云ふが如き新語の發明に依るのである。これに依つて一般民衆は記録されたる輸出入はよし均衡を得ざるも、他に記録せられざる、目に見えざる輸出入があつて、これを計算に入れば、バランスを得ると信ずるやうになつた。

種々の役務をば記録せられざる輸出入と稱し、物品の輸出入に加算すんとするは決して間違つた考へではない。併し植民地又は外國の株券所有者の名前を記せる帳簿や、植民地若くは外國債券所有者のために發行せられたる證券等を目に見えざる輸入と呼び、借款を以つて購買されたる機關車や、レールの輸出と差引勘定せんとするが如きは妄想の極と云はなければならぬ。ワイト島の住民がその本土よりの収入を以つて購買する多くの物品に對する目に見えざる輸出が、何であるかは説明されないうが、一般民衆の貿易バランスに對する不安は「記録されたる輸出入のみを見ず、目に見えざる輸出入をも見ればバランスは得られてゐる」と云ふ言に依つて大いに慰められるのである。

一般民衆は見えざる輸出入なる語をば、實際見えざるものでもなく、又、輸出入でもないものと混

合したのであるが、兎に角、それに依つて、輸出は國家經濟上ためになるもので、輸入はためにならないものなりと云ふ舊來の迷想を打破せしむる事は出来ない。以前に於ては、輸出はその國に金銀を持來すが故に利益で、輸出はこれを國外に持去るが故に不利益なりと考へてゐた。今日では、餘程無學なるものでなければ、左様な考へを懐くものはないが、併し一般民衆は僅かに姿を變へただけで、その實何等變はらない新形式に於て、これを表はすやうになつた。即ち輸出はその國の對外的債務を償還するものなるが故に有益にして、輸出は却つてこれを増すものなるが故に願はしくないと云ふのである。最も熱心なる自由貿易者すら、成るべく輸出の少なからんことを希望する程に、輸出の輸入に超過するを以つて國益なりとする信仰は深き根を持つてゐる。況んやその他に於ておやである。彼等は何れも成るべく多くの物品と役務を外國に與へ、自國にこれを受くることを少なくせんと希望してゐる。或國はその舊債務を拒絶して支拂はざるに拘らず、民間輸出業者が信用を以つてその國に輸出するに當つて、政府がその支拂を保證せる例は甚だ尠くない。

輸出を希ひ、輸入を拒絶せんとする舊來の迷想は僅かに姿を更へたのみで、依然として、貿易のバランスが維持せらるゝにあらざれば、その國の金銀は滔々として國外に流出して底止するところを知らないであらうと云ふ思想は残つてゐる。多くの人々は一國が外國から輸入するのみにて、その支拂を完了することが出来なければ、國家は遂に破産に陥るであらうと云つて心配してゐる。彼等は國

家を以つて一私人に比し、肉屋、裁縫師、自動車等から澤山の書付を差出され、それを支拂ふことが出来なければ遂には破産を宣告され、一磅に對して六片宛の割を以つて債務を課すと同様の地位に陥るものと信じてゐる。例へば、英國が信用を以つて、加奈陀からの小麥を、アルヂエンチナから牛肉を、セイロンから茶を購買し、その代價を支拂ふことが出来なければ同様の運命に陥るものなるかの如くに想像する。而も支拂ひが出来ないと云ふことを誰が宣言するであらうか、よし又國家が支拂不能に陥つたとしても、一私人の如く破産に陥るものでないと云ふことは殆んど考へてゐない。

如何なる場合に以上の如き懸念が起るか云ふに、左の如き事情を想像することが出来る。即ち富める舊邦が或國々に投資したのにその結果がうまく行かない場合である。新國から舊邦の投資者に送る配當は漸次減少するのみである。利子の全部の支拂は不可能なりと宣言され、斯くて舊邦に於ける投資者の收支は著しく減少することゝなつた。

茲に於いて例の恐怖病者は俄かに騒ぎ出し、このまゝに進み行けば、遂にはその輸入に對して支拂ひが出来なくなる。故に貿易のバランスを恢復することが最大の急務である。政府は宜しく輸出に對して補助金を與へ、然らざれば輸入に對して高關稅を課するか、或ひはこれを禁止すべきである。然らずして依然外國品の購買を繼續するに於ては、國家は遂に破産に陥るの外はないと云ふ。試みにワイト島に於て同様の事が起つたと想像する、島外に財産を有する住民の收支は以前に比す



れば、著るしく減少することとなつた。島民に取つては甚だ氣の毒な次第であるが、それがためにワイト島の貿易のバランスに就いて心配する必要はない。島民たるものはこれに對して如何なる處置を取ればいゝかと云ふに、以前よりもその輸出を少なくし、島外に對する投資を差控へるより外に執るべき途はない。若し彼等が島外に對する投資を差控へたゞけで、その收支の減少を償ふことが出来れば、ソールント海峡 The Solent (サザムプトンとワイト島間ある幅二、三哩の海峡)を横斷する物品の移動に何等の變化も起るまい。若しその上更に島民の消費を節約するを要するのとなれば、その結果は、單にその島に對する輸入が減るだけの事である。若しそれがために島内に生産するポテトや、その他の物品の需要が減じたとなれば、彼等はこれを島外に輸出すればよい。斯くして島外から來る収入の不足は償はれ、輸入品に對する代價は以前の通りに支拂はれる。それがために輸出奨励の方法を講じたり、輸入率を高めたりする必要は毛頭なく、又ワイト島が破産する心配もない。

英國その他の諸國として、以上に述べたワイト島と、その理論に於ては、少しも異なるところはないし、若し外國投資に應じて自然に調節もせられる。

英國は自給、外國貿易及び國際勘定に於て自治領と立場を異にしてゐる。鐵と石炭を除くの外、英國は實際に於て凡ゆる原料を輸入してゐる。然し乍ら自治領は金、家畜、羊毛、獸皮、ゴム、錫、ニツケル、銅及び茶を輸出し、その代り茶、綿絲、綿布、絹絲、石油及び珈琲を輸入する。債權者とし

ての自治領は、英國に比べると遙かに小さい。自治領の海外投資地は、主として西半球であるが、それが米國の海外投資より少ないことは勿論である。

過去に於ては英國と自治領との貿易關係は、外國のそれと大差はなかつたが、新關稅政策採用の結果として、新らしい情勢が起つて來るに相違ない。殊に重要なことは、毎年自治領から産出する金の分量が世界に於ける金の産出額の四分の三に達することである。これは全世界の金本位制に對する英國の態度に重大な關係を持つてゐる。

今回の新關稅は自治領からの製造品と同じく自治領からの原料に對して特惠を與へることを目的とする保護主義のものであるが、併し高關稅主義を實行してゐる他の國々が、英國の新政策に對して苦情を云ふのは寧ろ滑稽の至りである。さうした外國の態度は、「保護主義への退却」を以て恥辱なりとする英國に於ける舊式な自由主義者の意見と好一對である。

## 第九章 金融政策

### 第一節 金本位停止問題

近時新聞の論説に、英國が金本位を停止するに至つた主因は、他の諸國が「金本位ゲーム」をやらないからだと言葉が屢々見られる。これは他の諸國が戦後の経験から解釋される金本位の規則を遵守しないと云ふ意味である。然らば「金本位ゲーム」或は「金本位のルール」とは一體何を意味するのだらうか。

大戦前にあつては、金本位の規則は極く單純なものであつた。最も重要な規則は、爲替が金輸出點以下に降れば、自由に金を輸出せしめることだつた。無論戦前と雖も、多くの國はこの規則を守つてゐなかつた、多くの中央銀行は、何等かの方法を設けて、金の輸出を抑壓し、金の輸入を奨励し、決して金の自由出入を許してゐた譯ではなかつた。ラテン貨幣同盟の加盟國では、金に代へるに銀を輸出せしめてゐたものもあつたし、その他の中央銀行では、金の輸入者には、無利子の資金を貸したり、金の買入價格にプレミアムをつけたりしたものであつた。一九一四年までに眞の「金本位ゲーム」をやつてゐたのは、たゞ英蘭銀行だけだつた。が然しそれでも當時今日のやうな議論がなかつたのは、世界の金本位が漸進な運行を示してゐたからである。倫敦は世界唯一の金由自市場であつたが外國の規則違反は別して重大ではなく、又南阿産金賣却の獨占權を持つてゐたから、その壓迫も大して問題にするに足りなかつた。世界金本位の設定並びに金の蓄積は、四十年の長きに涉つて行はれ、外國の金買入が決して倫敦に壓迫を與へなかつたのである。

然し乍ら戦後は、この關係が根本的に變化した。世界の金の貨幣用需要は、戦前の何倍にも上つた。即ちその原因は次の諸點にある。

- 一、最近まで世界の物價水準は戦前よりも相當高位にあつたこと。
  - 二、諸國の紙幣流通高は、物價昂騰以上に戦前より激増したこと。
  - 三、一九一四年以後創設された巨額の人爲的な富は、金準備の増加を必要としたこと。
  - 四、資金の國際的移動が増加し、中央銀行の金準備マージンを戦前よりも激増せしめたこと。
  - 五、銀の貨幣用需要が激減したため、金の需要が入れ代つて増加したこと。
  - 六、戦前にあつては、金準備は單に流通紙幣に對する或場合を維持すればよかつたのに、戦後に於ては、紙幣に一覽拂債務を加へたものに對する割合を維持せしむる慣習が出来たこと。
- 右の現象に對して、一方では、新貨の流通廢止が、中央銀行に金の供給を増加し、又金爲替本位の

採用が金の需要を減少した。然し全體から見て、金の需要は戦前よりも激増した。戦前では、諸國金本位の創設が四十年に涉つて行はれたのに、戦後は僅かに一九二五—三〇年の五年間に實施され、而も金本位及び金爲替本位採用の諸國は、その數に於て、戦前五十年間の金本位採用國よりも多かつた。その結果は當然の爭奪となり、諸國中央銀行は、金本位自然の運行に依つて、金準備の補充を待つて居られなくなり、進んで直接間接に金の流入策を講ずるに至つた。

然し乍ら金のストックの多い國は何とかして金を出すまいと腐心してゐる。たゞ英國だけが傳統的に過剰の金準備マージンを置かないだけで、他の諸中央銀行がたゞ専ら金の蓄積のみを念とした。米國は多少その餘剰金を解放せんとしたが、これもウォール・ストリートがブームで中止された。第二の金保有國では西班牙は最もその流出を嫌がつたし、獨逸、アルゼンチン、日本及び濠洲では、嫌でも金の流出に當面した。而もこれ等流出した金は銀拂の何れかへ直接間接流れ込んだ。斯くて世界の金は供給不足の上に需要激増偏在的傾向を深め世界經濟の困難を激化した。

斯かる状態の下に於て戦前の金本位の規則が、その儘行はれる道理がない。戦後訂正された金本位の規則は、新設中央銀行の條例や、中央銀行間の協定や、國際決済銀行重役會の決議や、國際聯盟の金委員會の勸奨等に現はれてゐるが、その主要なる規則は次の通りである。

- 一、金の節約のために、金貨の國內流通が廢止され、死藏の目的のための金塊引出が、公に或は非公式に禁止され、中央銀行は或一定の目的地へ輸出する場合だけに兌換を許し、又は國內の金を凡て買取る權利を賦與されたり等してゐる。
- 二、金の自由市場は、戦前のやうな意味に於て、自由でないことが認められ、金の引出に依つて影響される國の當局が、承諾した場合でなければ、勝手に引出さないと云ふ原則が出来た。
- 三、世界の金需要が激増したから、或一國が人爲的方法で、不當に巨額の金を抱藏してはならぬ。

これ等の規則は、既に一般に確認されたものもあるが、中には未だ論議の中心たる問題もある。右の第一の如きは、諸國中央銀行が既に實施してゐるものである。然し第二及び第三に對しては、主義としては認められても實際は行はれてゐない。この主たる違犯者は云ふまでもなく佛蘭西である。佛蘭西銀行は自發的にこの規則を侵犯してゐるとは云はないが、實際には佛貨を不當に低位に安定させ、物價を世界の水準に調節せしめず、金の流入を援助し、その流出を阻止してゐる。若し自然の運行に委して置けば、金の流入は必然に信用の膨脹となり、物價の騰貴となり、自動的に金流入を阻止し、或は進んでその流出を促す筈である。然し乍ら佛蘭西は、流入した金を死藏して、その自然の運行を妨止してゐる。

米國もその餘剰金を死藏せしめて、信用の基礎には用ひなかつた。然し米國の態度は、最初から、

金の流入が戦時及び戦後の一時的現象だとの解釋に立つてゐる。實際はこの態度が世界物價低落の主因の一である。又その潜在的信用膨脹力が、心理的に影響して、彼のウォール・ストリートのブームを激成し、延いてはこれが世界不景氣の直接の原因をなした。實に米佛二國の金保藏が世界恐慌を招來せしめた重要な要素であつた。然しこの二國の態度は嚴に區別しなければならぬ。米國はその餘剰金を解放するに焦慮してゐたが、佛蘭西は計畫的に蓄積の一途を進んだのである。又米國への金流入は、ラテン、亞米利加へ一九二五—八年に涉つて出したものが、一九二九—三一年に再び流入したもので、加奈陀或は極東からの流入に基いてもゐる。然し佛蘭西への金流入は、主として歐洲殊に英國や獨逸からのものである。佛貨が安定した一九二八年六月から英國が金本位を停止した一九三一年九月までに、佛蘭西は英國から實に一億三千六百萬磅を輸入した。これは金本位停止當時の英蘭銀行の金保有量に略ぼ等しい。米國は世界恐慌の始まるまで數年に涉つて蓄積したのに、佛蘭西の金引出の大部分は、世界恐慌の直前又は恐慌中であつた。

若し米佛二國が、對外貸付をなし、或は自然に金の流出するやうな政策を採つて、その餘剰金を世界に解放したならば、倫敦は金本位を停止しないで済んだのだ。實に今日の困難は協調不足から起つたのだ。金の分配に就き十分な協調を達成されたならば、世界經濟恐慌の防止に多大の寄與をなしたことであらう。米國はそれでも協調に最善の努力をしたが、たゞ當局の統制の及ばないウォールズ・

トワートのブーム及びその後の不景氣のために、これが妨げられたゞけである。然し乍ら佛蘭西には斯かる協調の誠意がなかつた。佛蘭西はたゞ自分のことだけを考へて、その政策が國際經濟に大害惡を及ぼすことを、何等介意しなかつたのだ。

昨年八月末になると政府が更迭し、思ひ切つた財政々策を採れば、磅は救はれるだらうと一般に希望した。九月初めこれは實現したが、一向效果はなく、八千萬磅の借入資金は、日に日に消費された。而も英蘭銀行の金準備は、米佛借入金をカバーする一億三千萬磅から降らせることが出来なかつた。執拗なる壓迫の下に、爲替は現送點以上に維持されなければならなかつた。八月から九月にかけて、外資の引上以外、磅に對する投機が巨額に行はれた始めた。投機者は、先物の磅を賣つて、若し損するとしても、一パーセントの何分の一かであるが、儲けるとなれば二割五分も儲けることが出来たのだ。九月中旬には英國金本位の停止は最早時の問題であつた。米佛からの借入金は九月十八日には既に事實上使ひ切つた。當局者は最早金本位を停止する以外に手段がなかつた。

財政々策も、もう數箇月早く實現して居れば、十分な效果があつたであらう。然し斯うなつては、財政々策で磅を救ふことは出来ない。即ち磅の問題は本來財政の問題ではないのだ。又關稅改正も、もう數箇月早く實現して居れば、國際收支上の效果及び心理的效果を齎らしたであらうが、今となつては、議會の多數がこれを協賛しても、實施までには時日をも要することであり、且つ又これが見越

輸入を増加させることにもなるので磅の頹勢を阻止し得べくもなかつた。

一部には、あの際思ひ切つた勞銀の引下をすれば、磅は救はれたらうと云ふ議論がある。然し勞働組合の政治的勢力と失業手當の効果とを觀れば、斯かることの不可能なるは明白である。若し九月に於て、政府が斯かる手段を採つたとすればストライキは續出し、それだけで金本位停止を誘致したであらう。彼の大西洋艦隊の兵員が給料引下に對して執つた態度は、總てを説明するものである。

磅不信の理由の一つは、國內政治の不安であつた。間もなく總選舉が行はれたであらうが、又その結果は遽かに豫斷を許さない。國民政府が今こそ多數であるが、選舉の結果は勞働黨の勝利となり、財政の安定も勞銀の引下も吹飛んで終ふかも知れない。斯う云ふ不安が内外に漲つた。政府としても、總選舉を早めて磅の安定を促進せんか、總選舉中に破綻が來るかも知れない。これを恐れて選舉を延ばさんか、その間の不安に基く壓迫の加重を如何にせん、と云ふ譯で、その決定には大いに迷つた。然し選舉が早からうが、遅れやうが磅の運命に變りはなかつたのだ。

對外政治關係から見ても、佛蘭西の態度は磅の支持を不可能にした。一九二九—三一年の佛蘭西の態度は倫敦の地位を弱めた主因であつた。然し乍ら一九三一年七月末になると、英國金本位の停止が自國にとつても不利益なのを覺つて遽かにその態度を變へ、佛蘭銀行は七月末及び、八月初め銀行勸定を以つて磅を買向ひ、後には米國と共に英蘭銀行及び英政府借入金金の半分を負擔した。佛蘭西の新

聞も、それまでは専ら不安を強張してゐたのが、急に英國金本位に對する樂觀論を述べ出した。然しこの補助の代償として、佛蘭西は、普通の金利や手数料の外、英國の對外政策のみならず、國內政策に對してさへ、干渉の手を伸べて來たのだ。九月に英國は磅支持のため贅澤品輸入の禁止或は高率關稅の設定をすべしとの論が起つて來た。佛蘭西はこれ聞いて憤慨した。佛蘭西から借入の二千五百萬磅が三箇月期限となれるを利用し、その更新の際は、斯かる輸入の禁止を廢めさせるのみならず、その他の政治的讓歩をも、英國に要求せんとしたのだ。自尊心を持つ國家が、何で斯かる屈辱に甘んじやう。佛蘭西の命令を聞かんよりは、進んで金本位を停止する方が、その害惡遙かに輕少であらう。況んや佛蘭西の補助ありと雖も、磅の運命は既に定まつてゐたのだ。九月十八日その借入資金を蕩盡するや、英國は米佛に通告して第三の信用を得んとした。佛羅西は更に三千二百萬磅の貸附をする用意をしたと云はれてゐたが、米國は、第三の信用も結局無用に消費されるべきを見起して、その参加を好まなかつた。九月の三週に於ける外資引上げの趨勢から見ると、六千萬磅や七千萬磅の資金は、僅か一週間をこゝで蕩盡されたであらう。英國としても、一億三千萬磅以上の借入は、英國を米佛當局や、爲替市場の云ふ儘にさせることとなり、甚だ危険な途であつた。無論佛蘭西は、米國と一緒になければ貸しはしない。そこで九月十九日以後は磅の安定を放棄しなければならぬこととなり、愈々二十一日から金本位の停止をすることとなつたのである。

英國は曩に大戰に際して金本位を中止し、戦後も當分磅の安定から離れてゐたが、これは誰しも一時的な、戦争のための過渡事態と考へてゐた。事實他國の通貨はもつと動搖し、英國だけの現象ではなかつた。然し乍ら今度は平和時代に於て、外國の通貨が何れも安定を遂げた時に、金本位を停止したのだから、誰しも英國金融史上の一時期の終焉だと思つてゐる。

更に一つ前の場合と異なる點は、以前の場合には國內のインフレーションに因つて起つたのだが、今度のは國際的要因のために起つたことだ。成る程英國の財政状態は可成り悪かつたが、この點では米佛と雖も決して満足ではない。されば今度の金本位停止は、英國の統制の及ばない國際的事情から誘致されたのだ。銀行が一般から取付けられた時その支拂ひに應じ得なかつたと云つて、これを責めることは出来ない。銀行はその預金を投資するのが、その仕事なのだ。倫敦の立場もこれと同様だ。平時に於ては、他の銀行なり、他の中心市場の補助も得られるが、今度は何れも自己防衛に吸々たる有様なので、到底磅を救ふに足るだけの補助を得ることは出来なかつたのである。

### 第二節 金融業者の迷想

英國金本位の停止には、前に述べたやうな根本的原因が働いて居るが、而も前古未曾有の事態は何人と雖も豫測し得ないことであつた。然し乍ら斯る危機を防止し得なかつた英國通貨當局者や銀行家

に對し、種々の誇張した非難が行はれて居る。當時彼等非難者をして責任の局に當らしめても恐らくはあれ以上のことは出来なかつたであらう。

同時に當局者に、恐慌前の措置に就いて、過誤と怠慢とのあつたことも疑なき事實である。そこで今斯かる批評を検討し置くことは將來の爲め更に有益なことと信ずる。その批評の論點は次の如きものであつた。

- 一、金準備を十分にする適當の對策を講じなかつたこと
  - 二、金利が餘り低く過ぎたこと
  - 三、對獨貸付の過大に上るを防止しなかつたこと
  - 四、十分な情報の交換を行ふ施設が行はれなかつたこと
  - 五、倫敦に於ける過大なる佛蘭西資金の危険を排除すべき對策を講じなかつたこと
  - 六、金融手形の利用を少くする方策が行はれなかつたこと
- 金準備のマーシジョンに就いては、英蘭銀行は他の中央銀行の如く豊富なる準備を必要と考へなかつた。カンリフ委員會の報告は、最少限度一億五千萬磅の金準備維持を勸奨したが、併し英蘭銀行がこの最低準備以上の金を保有したことはあまりなかつた。殊に最近二年間は常にこの最低限度を降つてゐた。貿易逆調が甚しく加ふるに佛蘭西の執拗なる需要に當面せる英國が、普通の通貨政策に依る手

段で金準備を増加させることは、又事實困難であつた。強ひてこれを増加せんとせば、政府が長期の外債を募集するの外方法はなかつたのだ。その代り金はこれを弗で持つて居り、そこで危急の際に備へることは出来たであらう。此の方法は、金融恐慌が激しくなつた一九三一年六月以前ならば實行可能であり、又英國政府の公債は喜んで應募されたであらう。併しこの方法は議會と新聞とが容易に承服しなかつたのである。斯かる手段は英國の弱味を暴露したものととして、一般輿論の承認を得難いのみならず、却つて心理的悪影響を齎したかも知れない、更に通貨當局としても斯かる方法に依り金準備を増加する悪例を嫌がつたであらう。又倫敦が斯る危険に曝されるとは豫想もしなかつたであらうし、少々の危機は従来通りの金準備でやりおほせると信じたであらう。假りに斯くて金準備の増加を見たとするも、貿易の逆調と、其の金利の要望と外國借入の増加とで、間もなくこれを蕩盡したことであらう。

非難の第二點は、英蘭銀行が一九三〇年來餘りに低金利政策を採り過ぎたと云ふにある。倫敦の金利が低位から、佛蘭西の資金引上が行はれたのだとも言はれる。然し高い金利でそれを止めて置いても恐慌が激化すれば資金は自然に引上げられ、金利の高低は敢えて問題でないのだ。英蘭銀行がクレデット・アンシユタルト恐慌の時に、金利を引上げて居たならば、英國の對外資金が歸還して、それだけは磅の支持となつたかも知れない。併し恐慌時に於ける公定金利の力は、決して強いものではな

いのだ。此の點に就いては尙ほ後に於いて詳述する。

第一の非難は英國の通貨當局が、何故對獨貸付を制限する方策を採らなかつたかと云ふのである。彼等は普通の市民や銀行家よりも、獨逸の状態に對して、より深い理解がある筈だ。賠償問題の進行は、遅かれ早かれ、獨逸に恐慌を招來すべきを熟知せる筈だ。併し乍ら對獨付貸は、この數年益々過大となつた。佛蘭西は獨逸の手形に對しては、公定金利より半パーセントの高い割引率を課したし、瑞西は、獨逸と瑞西以外の國との取引から生じた獨逸手形の割引を拒んだ。和蘭を獨逸の手形に對してはその性質を嚴重に調査した。英國は何故豫め斯かる方法が採らなかつたかといふのである。然しこの對獨貸付過大の非難は敢て英國のみが受けるべきものではない。米國はその總額に於いて英國以上に貸付けたし、銀行資力に對する割合から言ふと、英國よりも瑞西や和蘭の方が多かつた。佛蘭西の制防も、斯かる豫想から來たのではなくて、政治的の政策が偶然偉效を現はしたまでであつた。然しこの經驗は、將來銀行にとつても、銀行中心地にとつても尊い教訓となつたのであつて、所謂一の籠にあまり多くの卵を入れてはならないのだ。

これに關聯して對外債權債務の情報の不足が論ぜられる。戦前に於いては倫敦の引受業務は殆んど獨占の地位にあつた。然るに戦後は倫敦の地位が紐育、巴里、アムステルダム及び瑞西に一部割取され、又倫敦市内に於ても株式銀行が引受業務を増加した。一流の引受信用の量は増加しないのに、斯

かる競争が行はれる結果、表面上安全なりと思はるゝものには競つて引受信用を與へた。獨逸の銀行はその地位安全なりと思はれ、又萬一のことがあれば、獨逸政府がこれを援助すべしと考へて居たので、當時獨逸の手形は少し多過ぎると思ひ乍らも、其る適確な數字がないため何れもつひ貸過ぎてゐたのだ。一九二九年外國信用に關する統計作成の計畫があつたが當局者も餘り熱心ではなく、引受業者や株式銀行も反對の態度を示したので遂に實現しなかつた。處がマクミラン委員會がこれを勸奨したので、英蘭銀行は、外國信用及び外國預金總額の報告を、銀行や引受業者等に求めることゝなつた。然し一方に於いて英國の對外信用や外國預金總額の報告を求めなかつたため、この情報は不完全なものだつた。英國の短期債務が、その短期債權に超過する額は、當時の實情よりも過大に發表された。而もマクラン報告は、丁度獨逸の金融恐慌當時に發表されたため、この數字は却つて磅の不信を激化した。即ち一九三一年五月に於ける對英外國勘定は、四億七萬磅であるのに、英國の對外勘定は僅か一億五千三百萬磅に過ぎなかつた。これが磅の地位を弱め、外國資金の引上げを助長したのだ。材料がもつと早く集められて居たならば、斯かる發表もたしたる打撃を與へなかつたらう。又如何なる場合にも斯かる發表をする必要はなかつたが、たゞ當局者の案内として置けばよかつたのだ。

次に一九二七—八年に於ける佛蘭西資金の蓄積は、既に當時から倫敦の不安の種であつた。然るにこれに對して、何等の抑制策が採られなかつたのだ。若し當局者が、一九二八年に倫敦の銀行をして佛蘭西の資金に高金利を出さしめなかつたならば、これ程の蓄積は起らなかつたであらう。當時英國は佛蘭西資金の引上に依る金の流出に、十分對抗し得る地位にあつたのだ。然し金利を引下げれば直ちに金の流出が起り、間もなく、又金利の引上を餘儀なくされる當局者の立場は寔に困難なものがあつた。これを護らんとすれば前述の外債の募集より外に途はなく、これをやれば佛蘭西の勘定は減つたかも知れないが、同時に倫敦の對外貸付が増加したことであらう。

最後の非難は、當局者が金融手形の警戒をしなかつた點である。獨逸の銀行に與へられた引受信用の少くとも七%五は、流動的手形でなくて、金融手形に利用されたと言はれる。獨逸銀行の露西亞向輸出業者に與へた長期金融は倫敦その他の三個月引受信用で賄はれたと信ぜられ、又倫敦の金融手形は、他の市場に比ぶればまだ少ない方であつたが、それでも猶ほ相當の額に上つてゐた。倫敦が他市場との競争上、その地位を保持する爲めに相當量の引受業務を維持するは望ましいことながら、手形の少いよりも、不堅實な手形の多過ぎる方が、その弊害の大なるを知らねばならない。この點は新聞雜誌で、相當警告されたけれども全然顧みられなかつた。又株式銀行の如きは三箇月引受信用の手續を普通のレートたる八分の一パーセントまで割引した。がこれではたゞ營業費を補ふだけで、不良貸の危険をカバーすることは出来ない筈だ。無論これは一流銀行に對するものではあつたが、これが爲め一般に金融手形の銀行を助長したことは否めない。獨逸その他の商工業者への直接引受信用は大



抵流動的手形であつたが、獨逸その他の銀行に對する引受信用は概ね金融手形であつた。獨逸の銀行は、その商工業者に對する貸付が回収出来ない時は、倫敦その他の中心地の銀行の保證ある引受信用に對して、手形を振出させて居たのである。倫敦の銀行家は獨逸の銀行への貸付で、獨逸の事情は獨逸の銀行が一番よく判る、従つて彼等の保證で引受信用を與へるは倫敦の利益なりと主張した。然し一九三一年七月以後、獨逸の銀行に與へた引受信用が固定した後も、獨逸の商工業者は直接倫敦の引受業者にその負債を償還することが出来た。

今度の恐慌の前には、倫敦の當局者も皆多少の過誤を犯したことは事實だ。然しこれは何も倫敦に限つたことではない。一九三一年の恐慌は從來に例のない出来事であつたから、假令この過誤を犯さなかつたとしても、倫敦の地位は脅かされ、その差はたゞ程度の問題に過ぎなかつたであらう。倫敦の國際金融中心たる地位は、假令危険が伴つてもその職能を盡すべき責任があつたのだ。金融中心地が永久にその地位を維持せんとせば、好況時に活躍すると共に不況時にも働かねばならない。不況時に逃げて居つては、一流の顧客は附くものではない。若し倫敦が一九二八年又は二九年に、對獨貸付を抑制したならば、紐育その他もこれに倣つたであらうし、これが當然恐慌を招來したであらう。その場合倫敦に對する影響が現在よりも輕くて済んだであらうとは、決して考へられないことである。

### 第三節 舊平價への復歸

戦後英國の當事者が、カンリフ委員會の勸奨に従つて、デフレーション政策を採つたことが、特に今回の金本位停止後非難の的になつてゐる。今では、英國の舊平價復歸は明に失敗だつたと、一般に信ぜられてゐる。然し當事者は神様ではないから、これ程の犠牲が伴ふことを當時豫見することは出来なかつた。それ故一概に彼等を責める前に、次の諸點を考へて見る必要がある。

- 一、磅を平價に復歸させると、その經濟平價よりも過大評價になると云ふことが、一九二五年に明らかであつたかどうか？
- 二、過大評價になるとしても、その差は、英國の物價、生活費及び勞銀の低落に依つて、再調節されると思ふべきであつたかどうか？
- 三、磅の過大評價が、外國の物價の昂騰に依つて、その差を再調節し得ないと信ずべきであつたかどうか？
- 四、英國の對外資力が、十分その過渡期の壓迫に堪へ得るものと信ずべきであつたかどうか？
- 五、賠償や戦債問題の未解決と共に、世界的大恐慌が起るかも知れないと豫想し、且つそれが磅の安定を脅かすものと考へ得られなかつたかどうか？

六、舊平價に復歸すると、公債の負擔が餘りに過重になると考へ得られなかつたかどうか？

七、舊平價復歸の利益は、そのための犠牲を償つて餘りあるものと信ずべきであつたかどうか？

一、先づ第一の點を見る。當時金本位の主要國は米國だけであり、従つて米國の物價水準が世界の物價水準と見られた。四弗八十六仙で英米爲替は當時大體英米間の經獨平價に一致してゐた。又他の諸國の通貨が如何なるレベルに安定するべきか、當時としては豫想出来なかつた。尤も當時獨、澳、洪及びチエツコ等の通貨は、既に事實上安定して居り、その物價水準は英米よりも相當低位にあつた。然し、これ等の諸國では、インフレイションの激化の結果、舊平價回復の可能性はなかつた。他の主要國即ち佛、伊、白及び日本等が、英國に従つて舊平價に復歸し、その場合磅が或國々の通貨に比し、過大評價となるだらうと考へることは出来なかつた。一九二五年に於ては、事實磅が舊平價復歸で、過大評價になるかどうか判らなかつたのだ。

二、假に英國の通貨當局が、他國の通貨が不當に低位に安定せられ、磅が一般的に過大評價になることを豫見し得たとしても、その差が磅の國內價值の増加又は世界物價の昂騰に依つて、相當の期間に、左したる困難なく調節されると考へ得たかどうか問題である。磅の國內價值を上げるには、主として勞銀の低下が必要である。併しこの事たるや戦後の經驗に徴し、實現不可能なること當時と雖も明らかであつた。だから當事者はこの點には望みを持つてゐなかつたに違ひない。それにも拘らず舊

平價復歸の危險を敢えてしたのならば、彼等の望みは次の二點、或はその一にあつたのだらう。即ち世界物價が間もなく英米物價と同等となるか、或ひは磅に對する過渡期の壓迫は、對外資力で十分調節して行けるかどうか。

三、一九二五年に於いては、主要國の物價が英米のレベルに昂騰するのは、たゞ時の問題だと考へてもよかつた。一九二五年の世界物價が、數年間安定してゐたなら、主要國の物價は遅かれ早かれ、同じレベルに落合つたであらう。たゞ問題は當時世界物價が、その儘安定すると豫期していかどうかであつた。當時學者に依つては、金の不足から、世界物價は必ず低落すると主張してゐた。まことに金の需要は戦後激増したし、米國は大なる蓄積を抱藏してゐたから、金の供給が不足せることは否めない事であつた。併し一方に於ては、米國の金放出政策が徐々にこれを緩和すべき望みが多分にあつた。従つて當時としては、世界物價が低落を續けると考へられなかつたし、又外國の勞銀や生産費が英國のレベルに上つて來ることを豫期したのも無理はなかつた。

四、英國の對外資力が十分過渡期の磅を支持し得る點は問題でなかつた。英蘭銀行の金準備は比較的少額で、非常時には不足すること明らかであつたが、第二準備した英國の對外資力は三十五億磅に上り、非常の際にこれを動員するは當然である。戦時中にも磅の支持と輸入資金とに、これを動員した。たゞ當時、この對外資力を換價し得ない場合が起ることを豫想し得なかつたか、否かと只だ問題

である。

五、一九二五年當時も、國際事情はアブノーマルであつた。賠償や戦債の問題が解決するまでには政治的にも金融的にも、何度恐慌が起るべきは、火を賭るよりも瞭かであつた。然しさりとてこの恐慌が、英國の金融的地位を左程深刻に脅威するとも考へられなかつた。一九二三年の麻克慘落當時でさへ、左程大なる影響は受けはしなかつた。今後恐慌が起つても、先づあの當時の程度位なものであらうと考へられた。更に當時の英國は、米國の衷心からの補助を豫期した。一九二五年の米國金融上の地位は、その絶頂にあつた時で、實に世界の金融上の運命を掌握せるものであつた。この時米國に斯かる破綻が來て、英國援助の手を妨げるやうにならうなどは到底考へられないことだつた。當時としては、英國自身の力は兎に角としても、一朝事ある時は、米國の援助に頼り得るから、過渡期に大なる困難が起るものとは考へなかつたのである。

六、他の問題は英國の内國債六十五億磅が、舊平償復歸で英國の堪へ難き負擔となりはしないかと云ふ點である。若し世界の物價が今度安定するか或は昂騰傾向にあるならば、この負擔は堪へ難い程でないと思へるかも知れない。併し若し反對に、世界物價が三割も四割も下落するやうなら、これが過重の負擔になることは明らかである。假令物價が安定してゐても、七十五億金磅の負債は容易なことではない。成程ナポレオン戦争後の負擔は當時としては英國にとり堪へ難い重荷と思はれたが、百年

後には何でもなないものになつて終つた。併し十九世紀は生産と國富とが、急激な膨脹を見たからこそさうなつたのだが、斯かる産業や國富の發展を、この二十世紀に期待することは出来ないであらう。生産者の利益は、この戦争に基く無稽の資本を養ふために、多大の犠牲を拂はなければならぬ。既に英國程に發達した經濟は、既に今後十九世紀の如くに、今後の急激なる膨脹を期待し、従つてこの點から英國公債の負擔を維持し得る可能性があると見られる。

七、最後に舊平償復歸に伴ふ利害の考慮に就いて觀ると、當時と雖も、舊平償復歸のため、デフレーション政策を採り、従つて産業が勞銀引下に基く勞働爭議の頻發や、課稅負擔の加重等の犠牲を拂はなければならぬことは解つてゐた。併し舊平償復歸に依つて、倫敦の國際金融市場たる地位を回復するの必要は、もつと切實であつたのだ。今日こそ、當時平償の切下げをしたからとて、この地位の回復に支障のないことが明瞭であるが（巴里の實例がこれを證明した）當時としては、英國が平償の切下げをした時に、必然的に倫敦の傳統的地位を抛棄したならば英國はその多年の傳統たる健全なる金融並に商業上の名譽を捨てることになり、世界一般から卑怯な態度と思はれたであらう。その後六年間必死の努力をした後、萬已むを得ず遂に今日金本位を捨てはしたが、心理的見地から觀るならば、一九二五年に、何等の努力をせずに平償切下げをした場合よりも、英國の面目の損傷は少ないと言へるのだ。

## 第四節 爲替問題

一九二五年英國平價復歸に當り、それが多大の困難を惹起するものとして、これに反對した人達も一九三一年の如き世界的不況並に金融恐慌が、英國の前途に待受けてゐたとは氣がつかなかつたらう。又一九二六年には、佛蘭西が斯くも低位に法を安定せしめ、その物價を世界物價より二割も低くし、金の飽くなき吸収を計り、以つて世界恐慌を惹起するに到るべしとは、何人も豫想出来なかつたことである。

佛蘭西が法を斯く低く安定せしめた事實は、金融界に於ける國際法の未發達を物語るものである。戦後金融は國際的に緊密なる關係を結び、資金の流動は常に大規模に行はれるやうになつた。従つて一國の通貨政策は、直ちに他國の金融なり、繁榮なりに甚大の影響を及ぼすことになつたが、而も通貨政策は一國の私事と見做され、他國への金融なり、繁榮なりに甚大の影響を及ぼすことになつたが、而も通貨政策は一國の私事と見做され、他國への考慮を必要としない實狀にある。國境とか、河川の使用とかに就いては、八ヶ間敷い國際的取極めがあるにも拘らず、もつと重大な金融通貨政策に就いては、斯かる協定をなすべき國際法上の原則が何にもない。

尤も戦後は、割引政策や、資金の移動や或は金の引出等に就いて、中央銀行間に或種の協定が行はれてはゐる。併し重大なる通貨の安定に就いては、何等斯かる協定が行はれてゐない。たゞ小國が國際聯盟の援助で安定を遂げた場合に、聯盟の金融委員會の希望に従つた例があるだけだ。英國は何處の國にも相談せず磅の安定を實行したし、ムツソリーニも外國に相談せずリラを安定した。佛蘭西も同様だ。若し輸入抑制、輸出促進のために、或國が關稅障壁を高くした場合はどうであらう。直ちに國際的の物議を醸し關稅戰が起るであらう。併し乍ら同じ目的を達するため、通貨を不當に低く安定せしめた國があつても、これはたゞ學者の論争的となるだけで、公式に國際的の問題とはならぬ。後世史家は、この事實を寔に不可思議に思ふことであらう。

通貨を低く安定せしめる利益は、他の多くの國が同一歩調を採らない場合にのみ存する。何れの國もが低位に安定せしめる場合は、たゞ通貨の價値が一般に下がるだけで、何處も利益をする國はない。然らば諸國は何故競つて、自國の通貨を最低位に安定しやうとしないのか。何れの國も、その通貨價値下落の一面の不利益を思ひ、又その名譽を重んずるがためである。通貨の切下げは謂はゞその國の公約であり、身々とこれを行ふは、その國の精神的立場を毀損するものである。計畫的に安定率を低下せしめる如き國は、取りも直さず計畫的に違約を實行しその通貨に依る負債を政府自身がその最大の借手で輕減せしめんとするものだ。

然らば如何なる點に爲替安定率を定むべきかと、云ふことは甚だ困難なことだが、相當期間の經驗

のみが、その信頼すべき根拠を與へ得るが、然しその大體の原則は次の三つである。

- 一、安定率は、その國の物價と外國物價との比率に、出来るだけ近いものでなければならぬ。
- 二、通貨のアンダー・ヴァルエーションは、その國の理論上の安定率を、維持し得るだけの資力がない場合に行はれる。

三、通貨のオーヴァ・ヴァルエーションは、その國の物價が新爲替率に調節されるまでの過渡期に、その安定率を維持し得るだけの對外準備がある場合に行はれる。

一般に經濟平價を定めるときは、内外の卸賣物價をその基準とする。無論卸賣物價の高低が、外國貿易の尻の順逆を招臺することは明らかである。然し經濟平價を決定する場合には、單に卸賣物價だけを考慮するに止めず、小賣物價、生活費及び勞銀の比較を忘れてはならない。後者は前者と異なりその變化、順應性に時日を要することが多い。單に卸賣物價の考量だけで決定された安定率は、小賣物價や、勞銀等の如何に依つて、實際上アンダー・ヴァルエーションもするし、又オーヴァ・ヴァルエーションにもなるのである。それ故安定率決定の際に小賣物價生活費及び勞銀の比較を基礎とした場合は、卸賣物價のレートを代表することにもなり得るが、然し反對の場合はさうはいかない。

通貨のアンダー・ヴァルエーションが正當視され或は望ましい場合は、一國の金準備及び外國爲替準備が少ないとき、長期の外債を募集してこれが補充をなし得るとき、眞の經濟平價が定め難い場

合、その過誤を避けんとして多少のマージンを置くとき及び内國債の負擔を新率に於て堪へ得る程度に切下げるとき等である。

反對に通貨の過剩評價が正當視され或は望ましい場合は、一國の内外準備が豊富で、その國の卸賣及び小賣物價並に生活費及び勞銀が、世界のレベルに順應するは、單に時の問題に過ぎないやうな場合である。

一國が或安定率を立派に支持し得るに拘らず、それよりも低位に新率を定めた場合は、債權者の犠牲に於て利益を圖る公然の違約行爲である。前述の通り、斯かる正直なことは、國家の面目に於てもさう頻繁に行はる可きものではない。戦後英國を始めスカンデナヴィヤその他の諸國は戦前平價への復歸を敢てした。伊太利は平價の切下げをしたが、それを支持するに足るだけの資力がなかつから、結局それは高きに過ぎた得定率であつた。然し乍ら佛蘭西と白牙義とは、不當に低位な安定率を選んだ。尤も白牙義は、新率決定の十分なる事情を究めず、早急に決定したため、この過誤を犯したに過ぎないので、その動機に不正直なところはなかつた。ところが佛蘭西のみは、十八箇月もの長い豫備期間を経て、明らかにその支持し得る妥當な新率を判断し得たに拘らず、これを不當に低位に決定した。若し同國が一九二六年末又は二七年初めにこれを決定したのならば、敢えて不當とは言へなかつたであらう。然し一九二七年以後の同國の推移を見ると、その年初めには、既に豫備期間のレートが

ら二割五分以上高位であつても、立派に安定率を支持し得る額に上つてゐたし、又その内國債もその五分の四を切捨てなくとも、四分の二の切捨てで十分負擔に堪へ得た筈である。

佛蘭西のこの不正直な行爲が、やがて金の佛蘭西への集中となり、一九三一年の世界恐慌及び今回の英國金本位停止を誘導したのである。當時佛蘭西が、その新平價を經濟平價に定めてゐたならば、同國のその後の金需要もさう激しくなかつたらうし、従つて金の偏在も現在の如くひどくなかつたらう。又自然世界物價の低落も起らなかつたらうし、よし起つても餘程輕位で済んだであらう。ウォール・ストリートの瓶落に次いで起つた不景氣も、もつと淺いものであつたらうし、又もつと短期間で終つたことであらう。更に一九三一年の破綻も來なければ、英國金本位の停止もなくて済んだであらう。

英國の當局者が採つた磅の對策に對し、種々の批評があることは前に述べた通りであるが、その内公定金利の問題は、他の批評と異なり單に技術上の問題ではなくて根本原則の問題である。次に特にこの問題を考察しやう。

學者の中には、英蘭銀行が、佛蘭西の金吸收政策が明らかとなるや否や、高金利政策を採用したならば、今回の率崩落は起らなかつたであらうと主張するものがある。即ち一九二七年以後例へば六分の金利を繼續してゐたならば、對外貸付は減少し、倫敦の外國預金は増加し、英國の物價は低落し従つて國際收支は順調となり、英蘭銀行金準備は増加し、率の地位は鞏固となつたであらう、と云ふのである、一九二七年以後高金利を持続すれば無論對外貸付は減少したであらう。然しそれも彼等の考へる程ではなかつたらう。何となれば、若し英蘭銀行が金利を高むれば、他の諸國もこれに追隨し、その開きが少くなるか、全く無くなるかするがらである。假りにこれが減少しても、高金利に誘はれて、外國預金が増加するから、その効果は相殺されてしまふ。

又物價下落も他國の金利引上げに依つて國際的となり、英國獨りその輸出に好影響を蒙るものではない。たゞ一九二九—三一年の恐慌を、二年早めるだけだ。英國が物價低落に應じた勞銀切下の出來ないことは、一九二八年たると三一年たるとに相違はない。何れにしても、高金利政策は政策上實現不可能であつたらう。疑問ある理論で其の効果に付ては、恐慌を早める如き政策を採ることは、到底政治家及び金融家のなし得ざるところであつたらう。されば一九二七年に於て金利を引上げる政策は、實行不可能でもあつたし、望まじきものでもなかつたのだ。決してこれがため金利の生命を取止めることは出來なかつたらう。

然らば一九三一年の恐慌時に、もつと金利を高めたならば、率支持に偉功があつたらうか。七月中に英蘭銀行は、二分半から二度引上げて四分半にした。或學者はあの際一舉に八分位まで引上げるべきだつたと云つてゐる。當局者が金利引上げに依る非常の努力をせず、外資に頼つて僅か四分半に

金利を据置き、その儘で金本位をば停止したことは怠慢だと云ふ。然し論者はあの際歴倒的力を持つてゐた心理的要素を、全然看過してゐるのだ。七月から九月に渉る外資の引上げは、磅自身に對する不信のために起つたのだから、如何に高い金利を拂ふと云つても、元金が危険なのに、これに釣られるものはない。取付が起つてから、預金利子を引上げると云つても、預金者が一層反感を起すだけで取付を鎮める力のないことは明らかである。この點は普通の銀行たるも、國際金融市場たるもに變りはない。平常時には、十六分の一乃至三十二分の一パーセントの開きも、十分資金の移動に影響を與へるけれども、一九三一年下半年以後に於ては、金利の多少は既に問題ではなかつたのだ。

論者は次に、金利引上げに依る國際收支の良化が、逆調を喰止め得ると主張する。成る程金利が無暴な程度に引上げられれば、市場のストックが投資され、物價暴落から或程度まで輸出が増進するであらう。然し金利引上げが輸出に及ぼす効果はさう早くはない。更にこれが爲替に影響するまでには、數箇月を要するであらう。而も假りに輸出超過が起つたとしても倫敦外資の引上げに對抗する力は寔に微々たるものである。一九三一年夏中に倫敦から引上げられた外資は約二億磅に上ると云はれてゐるが、國際收支の改善がこの大勢に抗し得るとは想像も出来ない。

公定金利の効果は、戦後學者に依つて、萬能的に崇拜される感がある。中央銀行當局は、金利の變更に依つて全能的力を振ひ得る、この援助に依つて經濟界の大勢を轉換することも出来ると思つてゐる。然しこの二三年の經驗は、この信仰を打ち破つたことであらう。米國の當局は、一九二九年のブームに於て、金利引上げの効果の無いことを覺つた。同様に一九三〇年に於ける諸國の低金利政策も、一向經濟的回復を呼び起さなかつた。一九三一年に於ても、金利の引上げが磅の運命を支持し得なかつたことは前述の通りである。

英蘭銀行が採つた金利政策こそは今次金融恐慌に際しては、論者の言ふ如く過失だつたとは言はれない。たゞ手を盡すと云ふ意味に於て、多少金利の引上げをすればよかつたかも知れない。又それに依つて何にも利益はなかつたであらうが、激騰せしめて産業界に破綻を招來せざる限り、大して弊害もなかつたであらう。

## 第十章 磅の檢討

### 第一節 資金の國際的移動

磅崩落の根本原因の二に、戦後に於ける資金のアブノーマルな國際的移動があることは戦後に於て、短期の豫告で移動される資金の額は戦前の何倍かに上つた。これが國際的の通貨安定を脅かす重大な要素となつた。とりわけ倫敦が、國際資金の中心地である關係上、最もその壓迫を蒙つたわけである。

戦後資金の國際的移動が、頻繁又は大量になつた原因は次のやうな理由に依るる。

- 一、賠償及び戦債
- 二、國際商業上の負債の増加
- 三、新規の外國借入
- 四、高率課税及び通貨不安に基く資本の逃避
- 五、投資及び株式取引の國際化

六、中央銀行及びその他の銀行が、大量の資金を外國に置く習慣

賠償のため、獨逸は支拂つたものゝ大部分を再び借入れる。これに基く資金の移動は、戦債支拂と共に顯著な事實である。商業上の外國借入の激増及びその元利金のサービスマネジメントに基く資金移動も、戦後は特に多い。殊に獨逸その他の諸國では、インフレーションに依つて、産業の運轉資金が擴張し、これを外國借入に仰がざるを得ない状態になつた。又國際的富の分配が根本的に變化したことも、その再調節のための資金移動を増加せしめた。

戦後國際事情は各國の投資家をして著しく海外投資に向はしめた。又貸手は借手に、その資金の一部を自國に保留せしめることを奨励し、貸手國と借手國との分野が混合した。英米の如きは、多くの貸手である貸手であると同時に、又多くの借手となつた。又斯かる短期の債務の外、英米等の證券が、外國筋に買はれたことも、貸借地位の混合を惹起した。投資のみならず、大量投資が國際的に行はれたことは、一九二八―九年のウォール・ストリートに最も顯著な實例を見る。

戦後諸國の税金負擔の過重及び通貨不安が資本の逃避を誘發し、従つて資金のアブノーマルな移動を惹起したことも顯著な事實である。金爲替本位を採用する國が増加し、これ等諸國の中央銀行が、英米等に準備として短期資金を置くこと、普通銀行も又短資を國際金融の中心市場に置くを便利とするの事情等は、金融中心地に於ける短期資金の累積を莫大なものにした。加之諸國の安定公債の發



行は、その大部分を引受地に短資として残存せしめ、従つて國際的短資の潜在的動移原因を作つた。これ等の事情のため一九二五—三一年の國際金融は、外見上は安定してゐるやうだつたが、實は内部に多大の不安を藏してゐた。諸國の短資は一寸した不安にも大量の移動を見、従つて外國の取付に基く通貨不安が、國際金融の暗流となつてゐた。そこでこれ等中心地の中央銀行は、金準備のマーヅンを大にしてこれに備へなければならぬ。然し金供給の不十分なる今日これは不可能であつた。茲に諸國中央銀行の協調が唱導せられ、事實多くの中央銀行は協調の用意を持つてゐた。たゞ佛蘭西銀行だけが例外だつた。同行は常に、自ら金の集中を計つて事態を激化するものでないと聲明してゐるが、而も普通銀行の吸収を抑止せんとする何等の努力も拂つてはゐない。

磅崩落を誘發したのも、實に斯るアブノーマルな國際的短期債務であつた。倫敦は國際的銀行中心地であるから、或は磅の預金となり、或は磅手形となり、或は英國公債その他の英國證券の買持となつて、外國の短期資金が累積してゐた。尤もこれ等の債務は、英國の外國に對する債權に較ぶれば、その四分の一にも足りないものである。然し英國の對外債權が主として長期のもので、直ちに換金出來ないものであるに比し、その債務は多くは短期のものであつた。そこで倫敦は、英蘭銀行金準備の三倍或は四倍に達する債務を、一朝にして取立てられる地位に曝されたのだ。倫敦の信用が保持されてゐる限りは無事であるが、一朝この信用を喪失せんか、アブノーマルな磅金流出は、直ちに磅の崩

落を招來することゝなるのである。

## 第二節 磅崩落の實相

磅崩落の根本的直接の原因を調べて見やう。直接の原因中最も重要なものは世界經濟恐慌だ。英國の對外投資はこれがため大部分固定資本となつた。この恐慌さへなかつたならば、金に對する壓迫が數年の長さに涉つても十分に堪へ得たのだ。金利を高く維持してさへ居れば、普通の状態なら敢えて對外投資を動員しなくても、無事に経過し得たのだ。即ち金利を高むる結果は、確定利付證券の値下りを起し、倫敦の外國債は買戻され、弗證券も米國に復り、同時に英國公債も外國筋に買はれる。そのため磅は強くなつて壓迫に抗し得られた筈だ。

然し乍ら世界恐慌の襲來は、英國の國際貸借を著しく悪化した。先づ貿易に於ては、輸出が激減したのに輸入はさまで減少せず、その輸入超過は甚だしい逆調を呈した。更に輸入が減少しないのは國內不勞所得の多いたためと、失業手當等の社會施設に依る購買力が減少しないためと、又公債の利息が年に三億磅も撤布されたためである。貿易外收入に於ても、それ以上の激減を見た。先づ船舶收入が減少し、英國の緊船噸數は記録的大量に上り、保険料收入も、國際商業衰微のためと、英國の保險會社が金支拂條項の挿入を拒んだために著しい減退振りを示し、銀行業務の手數料も低減した上に、投

資先の破綻から寧ろ損失を蒙る實狀にあり、ゴム、錫、銅その他外國事業の配當減、殊に南洋諸政府債の不拂等のため對外投資の利益も激減した。されば一九三一年九月に於ては、英國々際收支は、實に年一億磅の不足を現はしたのである。

然しこの不足も單にそれだけならば敢て對外投資を動員せずとも、金利の引上のみで十分對抗し得たのだ。然し乍らこれに加へて、一九三〇年の後半、佛蘭西が倫敦資金を引上げ始め、漸次一般的資金引上が始まつたため、磅への壓迫は、如何ともし難き程強烈になつたのだ。この困難は一九三一年五月のグレデット・アンシュタルトの破綻に始まつた。この事件から米國の銀行は、塊地利、洪牙利及び獨逸に對する資金の回収を急いだ。この事件は六月一先づ解決したが時は既に遅かつた、次いでフーゲー大統領の戦債一年延期の提議も、佛蘭西が實行愚圖ついたため、その心理的好影響を減殺し、獨逸資金の引上は七月半頃まで止まらかつた。諸國中央銀行が、ライヒスバンクに一億弗の信用を與へたが、大洋中に一滴の水を投ずるに等しかつた。七月ノルドウオツン Nord-Wolle その他の會社の破綻は、獨逸の諸銀行、殊にダナト銀行 Darmstädter und Nationalbank の取付となり、獨逸政府は銀行の支拂制限令を布いた。そこで七月十三日以後獨逸に對する貸付は、全く固定してしまつたのだ。

當時倫敦が獨逸に貸過ぎをしてゐたことは天下周知の事實だつた。或二三の引受會社がその資力に

數倍する貸付を持つてゐたことも全然の祕密であつた。そこでこれ等引受會社の支拂能力が疑はれ始め流言蜚語が横行した。倫敦の銀行も、又當局の速かなる援助がなかつたならば、無論難局に當面したであらう。然し乍ら倫敦の銀行はこの場合もその本來の堅實性を發揮した。紐育でも巴里でも、この二流銀行の破綻が起つたが、倫敦だけは、金融恐慌期間を通じ一つも銀行破綻を見せなかつた。無論英國の銀行は數も少ないし、又經營方針が、外國のそれと普段から異なるせいもあるが、一九二九年三つの小銀行破綻以來の英國銀行界は何等の不安を醸す要素を持つてゐない。それ故一旦斯かる難局に當面しても、實際に當局から援助を受けなくて済んだ場合が多かつた。

又二三の場合斯かる援助が行はれたが、その方法たるや實に巧妙で、他國の場合のやうに援助の掛聲等とせず迅速有效に行はれた。或場合の如きは、英蘭銀行が直接援助の手を出す必要もなかつた。たゞ組合銀行が當局の諒解の下に普通の貸出を増加したゞけであつた。だから果して何處が援助され、幾千資金が放出されたかは、その關係者數人が知つてゐただけである。

尤もこの祕密主義は多少不利を伴つた。若し當局者が、七月に援助の聲明を公表してゐたならば、多くの引受會社の地位が危ぶまれる恐れも生じなかつたであらう。斯かる聲明がなかつたために外國の銀行は不安を感じ、その預金を或は引受會社から英蘭銀行或は組合銀行に移し、又多くは全然倫敦から磅資金を回収し始めたのだ。

七月半佛蘭西の或銀行の倫敦支店が、ビル・ブローカーに、今後は貸出の擔保として銀行手形を採らないから大藏省券を持つてこいと通告し、倫敦の銀行はこれを聞いて憤憾の餘り、その銀行を二三日ボイコットした事件さへ起つた。これは外國筋が如何に銀行の不信用を感じてゐたかを物語る一例である。當時當局から救済の聲明があれば、斯やうな事件は起らなかつたであらう。然しかやうな聲明も、外國資金の引上げを抑止し得たか否かは疑はしい。と云ふのは、資金引上の理由は銀行不安よりも、寧ろ磅不信にあつたからである。又磅の不信とは別に、外國銀行が決済の目的で倫敦資金を引上げた額も相當多かつた。普段でも外國銀行は、決済のため紐育資金か倫敦資金か何れかを引上げんとする場合、先づ倫敦資金の引上げをするのが通例であつた。

外國資金が引上げらるゝに至つた不信の原因を列擧すると次の通りである。

- 一、獨逸の恐慌が英國の銀行に與へた影響の心配
  - 二、英蘭銀行金準備の不十分
  - 三、英佛當局間の關係の不圓滑
  - 四、勞働黨政府の財政策に對する不信
- 正、マクミラン報告が、倫敦の純短期債務に就いて發表した數字の悲觀的解釋これ等を綜合して起つた倫敦外國資金の大量引上げは、一九三一年の夏中續いた。これが磅崩落の

直接最大の原因である。國際收支の不足に對しては容易にその對策を發見し得るが、この資金逃避に對しては、これを補ふ程英國對外債權の回收をなし得なかつた。

この外國資金引上げに對し、佛蘭西がどれだけ責任を持つてゐるかは非常に議論のある問題である。佛蘭西の當局は恐慌中その資金を引上げなかつたと言はれる。然し佛蘭西諸銀行の引上は巨額に上つたと思はれる。而も七月末までは、佛蘭西の當局者はこれを抑制し、又はその悪影響の對抗策を講じなかつた。大陸の銀行の資金引上態度を決定したのは、實に佛蘭西の銀行の態度であつたと云つていい。佛蘭西が斯く巨額の引上をしなかつたら、倫敦外國資金引上の程度は、比較的少額で済んだであらうと思はれる。

磅崩落の原因には直接的なものゝと根本的のものゝとがある。直接の原因は、彼の中央歐洲の銀行恐慌から惹起された磅に對する不信用である。然し根本的原因は、もつと以前から存在し、一九三一年の恐慌が起らなかつたとしても、英國金本位に對する稍や永久的障礙となつたであらう。その主要なものは次の五つである。

- 一、外國に比し英國生産費の割高なこと
- 二、世界物價の下落傾向
- 三、外國に較べて、英國の税金の高きこと

## 四、佛蘭西及び米國の金の蓄積

五、資金の國際的移動が、とりわけ賠償及び戦債に依つて、アブノーマルとなつたこと

一、一九一九—三一年の物價崩落以前から、英國の生産費は、他國に比して割高だつた。卸賣物價は、米國とは大體同様であつたが、佛、獨、白、伊及びチエッコ等に較べると相當高かつた。この原因は、一つは諸國通貨の安定率の相違からである。が、最大原因は、英國の勞銀が、戦後伸縮力を失ひ、労働組合の政治的勢力の伸長に依つて、その低下を妨げたためである。英國の勞銀は、大陸諸國の如く、經濟事情に依つて上下するのでなく、主として政治的事情に決められるが、更に失業手當の莫大なること英國の如きはない。

も一つの有力な原因は、直接税の負擔が高率なことである。理論上は、直接税は利潤の減少となつても、生産費の増加にはならないやうであるが、實際はこれがため卸賣及び小賣物價を高め、競争力を削減する。假に物價が一九二八年のレベルに安定してゐても、直接税がこんなに高くしては、英國の競争力は永久に薄弱なるを免れないであらう。

二、英國生産品の割高は、一九二九—三一年の世界の物價下落のため一層激化した。物價下落は第一に農業及び鑛業に現はれ、その程度に製造工業品のコストを低下する。然し世界の農業國及び一般消費者の購買力減少は、製造品の價格を激落せしめた。然し外國ではこれに伴つて勞銀が作下した。

伊太利は政府の力で一夜にして勞銀を切下げ、獨逸も政府の仲裁で勞資の間に切下の協定を遂げさせた。獨り英國のみは化學工業を除いて殆んどこの切下が出来なかつた。労働組合の強大と失業手當制度の濫用とで、假令失業者は増加させても勞銀の引下を承諾するものはなかつた。この上はたゞ世界物價の恢復を期待するのみであるが、世界の物價は反對に低下しつゝあり、今假に安定するとしても戦前のレベルの前後に止まるであらう。その結果英國生産費の割高は愈々顯著となり、貿易の逆調を激化し、貿易外の受取増加を以てこれを補填することも何等期待されない状態となつた。

三、直接税の高率負擔が、生産費を高めることは前述の通りである。英國の所得税、附加税及び相続税程高率な國は他にない。假令名目上の率は同様であつても、實際には餘程手加減し、實行してゐる。然し乍ら英國の徵稅能率は非常に嚴格で、少額でも見逃さない。而も戦後英國の財政は、その八分の三を占める公債費にしても、社會施設にしても、何等減少しない。従つて外國では歳出の減少、従つて軽減が實行されたのに、英國では減税が行はれない。そこで資本は税金の安い外國へ逃避する高率の税金が、生産費を高めると云ふ間接的影響よりも、この資本逃避となつて現はれる直接的影響の方が恐ろしい。有價證券が外國に送られ、配當や利息が外國で蓄積され、瑞西やルクセンブルグ邊りに持株會社が設けられ、佛蘭西邊りの銀行が、これに特別の便益を供したりするのみならず、現に税金除けに外國へ移住するものさへ多くなつて來た。その當然の結果は外貨の需要であり、磅へ